

前年度からの変更点

2021年度について下記の事項が変更となりました。

【社会学科】

・新規開講科目

「社会階層論」：2単位 学科科目第2群

「法社会学」：2単位 学科科目第4群

・廃止科目

「法社会学1」「法社会学2」学科科目第4群

「社会教育課題研究A」「社会教育課題研究B」 学科科目第5群

****社会学部****

2020年度生用

明治学院大学履修要項
～履修の方法を知るために～

2021

Meiji Gakuin University

履修の手引きは、別掲示のファイルをご覧ください。

目 次

明治学院大学	1
人材養成上の目的・教育目標	1
卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）	1
教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	1
はじめに	2
情報の伝達	4
学修の手引き	5
カリキュラム	6
単位制	7
履修	8
科目ナンバリングについて	11
授業	13
試験	15
成績	19
卒業と学位	22
単位認定	23
明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム	24
明治学院共通科目	25
人材養成上の目的・教育目標	27
期待される学修成果	27
教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	27
期待される学修成果と授業科目の関連表（能力要件表）	29
履修上の注意	37
必修科目	38
1. [コア科目]	38
2. [言語系科目]	38

3. [情報処理系科目]	39
選択科目	40
1. [言語系科目群]	40
2. [人文科学系科目群]	42
3. [社会科学系科目群]	43
4. [自然科学系科目群]	43
5. [情報処理系科目群]	44
6. [健康・スポーツ科学系科目群]	44
7. [総合教育系科目群]	44
8. [特別学科科目]	45
単位認定用科目	46
1. [短期留学認定科目]	46
2. [中期留学認定科目]	46
3. [海外インターンシップ関連科目]	47

社会学科..... 49

《社会学部》

人材養成上の目的・教育目標	51
卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）	51
教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	51

■社会学科

人材養成上の目的・教育目標	52
卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）	52
教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	53
卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連表（能力要件表）	54
単位の修得について	57
その他の注意事項	68

社会福祉学科..... 71

《社会学部》

人材養成上の目的・教育目標	73
卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）	73
教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	73

■社会福祉学科

人材養成上の目的・教育目標	74
卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）	74
教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	74
卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連表（能力要件表）	76
単位の修得について	80

国家試験受験資格（社会福祉学科生）

社会福祉士	107
精神保健福祉士	112

社会学部専任教員一覧

諸資格

学部学科等の科目群・学問分野コード表

学修の手引き

カリキュラム

各学部・学科の教育上の目的に従って、授業科目を体系的に編成したものを「カリキュラム（教育課程）」といいます。みなさんは、自分が所属する学部・学科のカリキュラムをよく理解した上で、授業内容を修得することを目指してください。カリキュラムは入学年度別に定められており、原則として卒業まで変更はありません。また、カリキュラムで定められた範囲で履修する授業科目を選択することができますが、**卒業に至るまでの過程は自己責任であるということ**を常に念頭に置いてください。

なお、各学部・学科では、

①人材養成上の目的・教育目標

②卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

…卒業認定・学位授与に関する基本方針であり、卒業時に学生が修得しているべき知識・能力・行動等を示している

③教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

…教育の実施に関する基本方針であり、卒業時に学生が修得しているべき知識・能力・行動等を育成するための学修段階に応じた教育計画、指導の方針等を示している

を定めています（他に「入学者の受け入れに関する方針（アドミッションポリシー）」も定めています）。詳細は、各学科の頁を参照してください。

1. 授業科目の種類

本学の授業科目は、「明治学院共通科目」「学科科目」「教職に関する科目」の3分野があり、学修上の必要に応じて以下のように分類されます。

必修科目：必ず単位を修得しなければならない科目

この科目の単位が未修得の場合は、卒業することができません。

選択必修科目：特定されている科目の中から一定の単位数を必修とする科目

この科目の単位が未修得の場合は、卒業することができません。

選択科目：特定されている科目の中から自由に選択して履修できる科目

要求科目：必ず履修することが求められる科目

その他：学科により特に指定のあるものは該当の項に記載

2. 履修年次

履修年次とは、それぞれの授業科目を履修できる最低年次を表し、4年間の学修を系統的に行えるように、カリキュラムに基づいて定められています。

原則として、現在の学年より上級の年次に配置されている授業科目を履修することはできませんが、現在の学年より下級の年次に配置されている授業科目であれば履修することができます（例：年次が「2」の学科科目は、2・3・4年次生が履修できます）。ただし、例外もありますので、各項目にて確認してください。学科により、「配当年次」や「開講年次」という表現もあります。

3. セメスター制

本学では、下表のとおり、1つの年次を春学期と秋学期にわけ、学期（1つのセメスター）ごとに単位を修得し、8セメスター（4年間）を積み重ねて卒業要件を満たす、セメスター制をとっています。

年次は、入学年度からの年数をカウントし、休学期間や修得単位数を考慮しません。

年次	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次	
学期（セメスター）	第1学期	第2学期	第3学期	第4学期	第5学期	第6学期	第7学期	第8学期
春学期入学	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
秋学期入学	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期

各学期は、次のように定められています。

春学期 4月 1日～9月20日
秋学期 9月21日～3月31日

授業は、以下の①～③のいずれかの形態で開講します。このうち、①の開講形態にあつては、週に1回授業を行う場合と週に2回以上授業を行う場合があります。

①春学期のみ、または秋学期のみに授業を行い完結

②春学期と秋学期の2学期間、年度を通して授業を行い完結

③夏季休暇および春季休暇中に夏季講座・春季講座期間を定めて授業を行い、その期間内で完結

①の開講形態をとる授業科目をそれぞれ「春学期開講科目」「秋学期開講科目」、②の開講形態をとる授業科目を「通年開講科目」といいます。

単 位 制

大学における学修は、単位制で行われています。単位制とは、各授業科目に定められた単位を修得する制度です。

1. 単位とは

単位とは、授業科目を履修し、平常試験・定期試験またはレポート、そのほか担当教員が必要と認める学修の結果等によって、その授業科目に合格したと担当教員が判断したとき、所定の単位が与えられるものです。

大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とすると規定されており、本学は原則としてこれと同等の単位数の設定をしています。学修の時間には、授業時間だけではなく、予習・復習等教室外での自主学修も含まれます。

2. 授業時間と単位数

本学では、1時限90分の授業（試験を含む）が、春学期15週、秋学期15週で行われますが、単位数を設定する上では、90分（1時限）の授業を2時間相当の学修時間とみなします。単位数は、それぞれの授業科目ごとに定められており、授業形態によって算定方法が異なります。

講義・演習科目：15時間から30時間までの授業と、予習・復習等の自主学修をあわせて45時間で1単位
実験・実習・実技科目：30時間から45時間までの授業をもって1単位

授業科目に定められた単位数（目安）

学期科目 (春学期開講科目、または 秋学期開講科目)	15週で完結	・講義科目は2単位 ただし週2回授業が行われる場合は4単位 ・演習科目は2単位または1単位 ・実験・実習・実技科目は1単位
通年開講科目 (一年を通して行われる科目)	30週で完結	・講義科目は4単位 ・演習科目は4単位または2単位 ・実験・実習・実技科目は2単位

考え方（例）

2単位の講義・演習科目		
予習 2時間	週1回授業 2時間	復習 2時間
授業1に対して自主学修2の割合		

履 修

授業を受けるためには、履修登録を行う必要があります。履修登録を行う際には、いくつか注意事項がありますので、大学からのお知らせには十分注意してください。

1. 履修計画

学生は、授業開始にあたり、各学部・学科のカリキュラムに沿って、1年間に受講したい授業科目を選択します。受講したい授業科目を選択するにあたり、**学科ごとに1年間に履修できる単位数が定められている（年間履修単位数制限）**ので、**各学科の頁で確認してください**。原則として、年間履修単位数制限を超えて登録することは認めていません。

授業科目には、あらかじめクラスが指定された授業科目等（必修科目等）があり、学生はそれ以外の曜時限について履修計画を立てます。

履修計画を立てる際に必要な、履修要項、履修の手引き、シラバス、開講科目情報時間割表（どの曜時限にどの授業科目が開講されているか）、履修ハンドブック等は、Port Hepburnより提供します。これらを熟読し、履修計画を立ててください。シラバスは、時間割表および履修申請画面とリンクしています。「教務Web」の学生メニューの「シラバス検索」からも参照可能です。ただし、「シラバス検索」は、全学部全学科および大学院の授業科目が参照可能であるため、表示された授業科目であっても所属学部・学科・学年によっては履修できない場合があります。各自が履修できる授業科目かどうかは履修要項や時間割表で確認してください。なお、シラバスの内容は授業の進行状況等により変更が生じる場合がありますので、学暦に定められた授業開始日から各自の履修計画に基づいて授業（登録が完了していなくても、履修を希望する授業を含む）に出席してください。

2. 履修登録

履修登録とは、自ら立てた履修計画に基づき、受講する授業科目を大学に申請することをいいます。**履修登録を行っていない授業科目については、授業に出席し、試験を受けても、当該科目の単位を修得することはできません**。

履修登録は、毎年度春学期初めの定められた期日までに、基本的にその年度の春・秋両学期に履修する全ての授業科目について行わなければなりません。秋学期の初めにも履修登録の機会は設けられていますが、履修計画の変更に伴う秋学期科目（春季講座を含む）の追加・削除のみとなるよう年間を通じた計画を立て春学期のうちに登録を行うようにしてください。履修登録の期日（最終期限）は学暦の定めによりますが、スケジュールの詳細は、学期ごとにPort Hepburnでお知らせします。

本学では、履修登録はWebを利用して行いますが、以下のような履修制限科目は登録方法が異なるので、よく確認をして手続きを行ってください。

クラス指定科目：人数制限等の関係から、事前に指定されたクラスで履修する科目

予備登録科目：PC室利用の科目等、事前に募集を行い、書類選考等により履修者を決定する科目

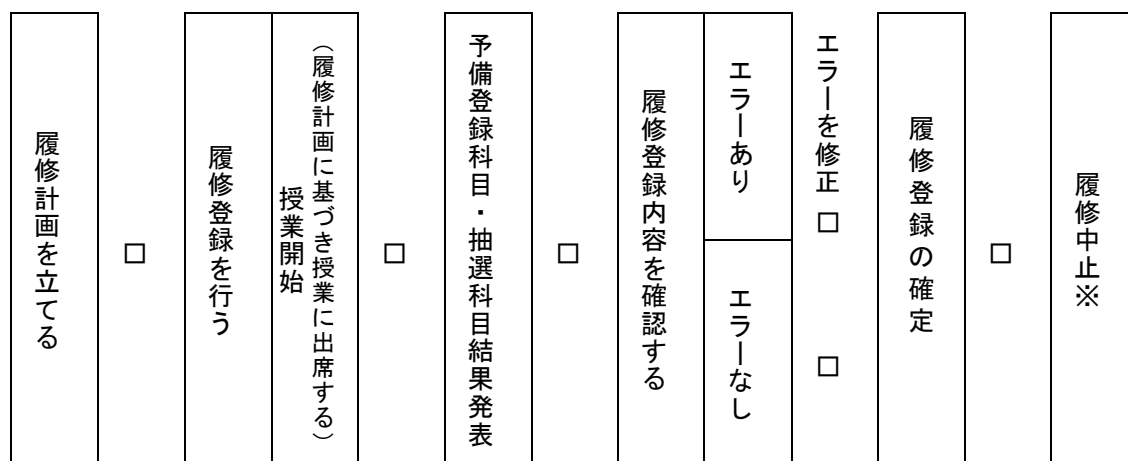
抽選科目：人数制限等の関係から、抽選や先着順により履修者を決定する科目

抽選等の結果については、各自で各科目の指示に従って確認してください。

なお、これらの結果発表後は、原則として登録の変更はできませんので、よく検討した上で申し込んでください。

また、抽選等を行う授業科目を申し込む場合には、外れた場合のことも考慮して履修計画を立ててください。

3. 履修登録の流れ



※ 『7. 履修中止制度』参照

4. 教務 Web による履修登録方法

履修登録に際しては、履修ハンドブックで手続き方法を確認してください。

Port Hepburnにログインした後、「教務Web」メニューをクリックすると、学生メニューが表示されます。トップページのメッセージを確認した後、「履修申請」をクリックして、履修登録の画面に進んでください。また、履修登録内容の確認の際は、同じ学生メニューの「履修登録確認表・成績通知書印刷」をクリックしてください。

5. 履修相談窓口

履修登録における白金・横浜両教務課の対応は、下表のとおりです。

所属	学年	履修相談受付	履修登録受付	履修登録内容確認	履修エラーに関する相談・修正受付			
文学部	1・2	科目が開講されている 校舎の教務課	教務 Web	教務 Web	横浜教務課			
	3・4				白金教務課《注2》			
経済学部	1・2				横浜教務課《注3》			
	3・4				白金教務課《注2》			
社会学部	1・2				横浜教務課《注3》			
	3・4				白金教務課《注2》			
法学部	1・2				横浜教務課			
	3・4				白金教務課《注2》			
国際学部	全				横浜校舎《注1》			横浜教務課
心理学部	1・2				科目が開講されている 校舎の教務課			横浜教務課
	3・4	白金教務課《注2》						

《注1》 教職課程に関する相談に限り、白金教職担当でも対応します。

《注2》 履修する科目がすべて横浜校舎の場合は横浜教務課とします。

《注3》 2年次生で履修する科目がすべて白金校舎の場合は白金教務課とします。

6. 履修登録の注意事項

- ① 履修登録をしなかった学生は、その学期における単位修得の権利を放棄したものとみなします。
- ② 履修申請画面でエラーがなく終了した場合でも、その後教務課が予備登録科目、抽選科目等を登録することにより、別途エラーが発生することがあります。履修申請の都度、必ず履修登録内容を確認してください。エラーが表示されている場合は、すみやかに教務課窓口で、修正の手続を行なってください。これを放置すると、当該科目の登録は無効になります。
- ③ 履修登録をしていない授業科目は、授業に出席しても、単位を修得することができません。
- ④ 予備登録科目（履修にあたって事前の手続きが必要な科目）、初回授業時（もしくは2回目の授業時）に抽選等により履修者を決定する授業科目の履修登録は教務課が行います。なお、これらの授業科目は、学生自身で履修変更することはできません。
- ⑤ 同一学期の同一曜時限には、複数の授業科目を登録することはできません。
- ⑥ 履修方法に誤りがないか、卒業および資格取得が可能になるかについては、学生自身の責任において確認するものとします。履修登録確認表、窓口相談においてエラーがないと判定された場合でも、履修要項を参照して必ず自分で確認してください。
- ⑦ 1日の内に横浜校舎と白金校舎の両方で授業を履修する場合は、両校舎の授業時限の間に、移動時間として、必ず1時限以上空けなければなりません。これは昼休みをはさんでいても同様で、横浜校舎の第2時限の授業と白金校舎の第3時限の授業（またはその逆）を続けて履修することはできません。

7. 履修中止制度

履修中止制度とは、履修登録期間終了後に、授業内容が勉強したいことと異なっている等の理由により履修をとりやめたい場合、不合格となることでGPA（成績『3. GPA (Grade Point Average)』の項を参照）が下がることを回避するため、授業期間の途中に履修を中止できる制度です。

履修登録期間に行う履修科目の修正と履修中止制度とは異なります。履修を中止した授業科目の代わりに、別の授業科目を履修登録することはできません。また、履修を中止した授業科目は、いかなる理由があっても、その学期中に履修を復活させることや教科書・テキスト代等の返金はできません。履修を中止した授業科目を、次学期以降に改めて履修することは可能です。

- ① 各学期に履修中止の申請が可能な科目
春学期：春学期開講科目・通年科目・夏季講座
秋学期：秋学期開講科目・春季講座

ただし、下記の授業科目については、履修中止の申請ができないので、注意してください。

- (a) 必修科目
- (b) 明治学院共通科目「外国語基本科目」の選択必修となっている初習語
- (c) 予備登録科目、抽選科目（ただし先着順によるものを除く）、単位互換科目
- (d) 許可を得て履修している科目（許可履修科目）
- (e) 教育実習
- (f) 要求科目
- (g) 各学科において定めている履修中止の申請ができない科目（各学科の「履修中止除外科目について」の項参照）

- ② 履修中止の申請

履修中止の申請は、所定の期間に「教務 Web」より手続きをしてください。申請期間後の申請および履修中止の取り消しは一切認めません。また、履修中止を行った場合、履修中止申請画面に各自、授業科目名の前に履修中止を示す「止」マークが反映されていることを確認してください。ただし、履修上のエラーを履修中止申請期間前に解消していない学生は履修中止の申請はできません。また、卒業の見込が立っている卒業年次生が履修中止の申請をする場合、卒業不可となってしまう履修中止の申請はできません。

履修中止申請期間 春学期：5月下旬頃 秋学期：10月下旬頃

- ③ 履修中止の申請をした授業科目の単位の扱い

本制度を利用して履修中止を申請した授業科目の単位数は、当該年度の年間履修単位数制限に含まれます。

- ④ 履修中止を申請した授業科目の表示

- (a) 履修登録確認画面：「止」
- (b) 履修登録確認表：「履修中止」
- (c) 成績確認画面：「W」
- (d) 成績証明書：表示しない

科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングとは

科目名称の先頭に8桁の英数字を付けて表現します。これは教育課程の構造・体系を容易に理解できるように、科目間の関係、科目の難易度・性格、履修順序を表すことで、その科目がカリキュラム全体でどう位置付けられているかを明示するものです。

本学では、教務 Web、シラバス、履修要項、履修登録確認表、成績通知書、授業/試験時間割・教室割等で使用します。

2. 対象年度

学科科目：2020年度以降の入学生が対象

明治学院共通科目：2018年度以降の入学生が対象

(対象外の年度の学生は従来の科目名称を参照してください)

3. ナンバリングルール

本学で開講する科目には、科目ナンバリングが付番されます。そのルールは下記のとおりです。

	① 責任 開講学科	② 科目群 学問分野	③ 科目のレベル または配当年次	④ 連続番号	⑤ 科目名称
表記 ルール	アルファベット 大文字 2 文字	アルファベット 大文字 3 文字	数字 1 文字	数字 2 文字	
例	MG	CHR	1	01	キリスト教の基礎 A
	↓				
	MGCHR101 キリスト教の基礎 A				

①責任開講学科

授業を開講する学部学科等を2文字の大文字アルファベットで表します。

学科記号	学科名称	学科記号	学科名称
LE	文学部 英文学科	SG	社会学部 社会学科
LF	文学部 フランス文学科	SW	社会学部 社会福祉学科
LA	文学部 芸術学科	J-	法学部共通
LX	文学部共通	KS	国際学部 国際学科
TC	文学部 教職課程	KC	国際学部 国際キャリア学科
EE	経済学部 経済学科	PS	心理学部 心理学科
EB	経済学部 経営学科	PE	心理学部 教育発達学科
EG	経済学部 国際経営学科	MG	明治学院共通科目

②学部学科等の科目群または学問分野

3文字のアルファベットで表します。一覧表はこの履修要項の巻末に記載しています。

③科目のレベル・配当年次

下記に基づき数字1文字で科目の難易度・順番・種類等（学科によっては配当年次）を表します。

科目のレベル		配当年次	
記号	内容	記号	内容
1	基礎	1	1年次
2	応用	2	2年次
3	発展	3	3年次
4	展開	4	4年次
9	資格要件	9	資格要件
0	その他	0	その他

④連続番号

各学部・学科等のカリキュラム体系に基づき、順次性を考慮して、数字2文字（00～99）で表します。

授 業

1. 授業の出席について

①授業の教室について

初回授業から、自分の履修する授業の教室を Port Hepburn で確認して出席してください。授業開始後に教室変更が行われる場合もあるので、Port Hepburn、教室扉の変更掲示に注意してください。

②授業の出席

授業では教員が出席を確認することがあります。出席確認では、紙の出席票やリアクションペーパーを配布したり、学生証を読み取る端末機器が用いられる場合があります。授業に臨む際は、常に学生証を持参してください。履修している授業は全て出席し、学修に励んでください。

※ 『6. 授業の欠席』参照

③授業の出席における不正について

本人が授業に出席していないにもかかわらず、出席したかのように登録する行為は、当該科目を失格とするなどの処分の対象となります。他人の学生証を持つことや、別人になりすましての出席票やリアクションペーパーの記入は絶対にしないでください。

④授業中について

授業中は私語をせず、集中し、積極的に参加してください。グループワークやプレゼンテーションなど、発言が求められる授業も多数あります。授業中は教員の指示に従い、他の学生の迷惑になる行動や授業の運営に支障が出る行為は慎んでください。授業の動画撮影や板書の写真撮影の可否は、必ず教員に確認してください。気分が悪い場合、トイレ等で離席の必要がある場合、受講に際して配慮が必要な場合は教員に相談してください。

2. 授業時間

本学の授業は、1 授業時間を90分（連続2時間とみなす）で行います。授業時間帯は下表のとおりです。

時限	白金校舎	横浜校舎	備考
第1時限	9:15~10:45		土曜日の開講 白金：第1～5時限のみの開講 横浜：第1～2時限のみの開講 (ただし、週末補講は第3～5時限) チャペルアワー 白金：月～金曜日 12:35~12:55 横浜：月～金曜日 12:35~12:55 補講 詳細は次ページ「5. 補講」を参照
第2時限	10:55~12:25		
昼休み	12:25~13:25		
第3時限	13:25~14:55		
第4時限	15:05~16:35		
第5時限	16:45~18:15		
第6時限	18:25~19:55		
第7時限	20:05~21:35		

3. 祝日授業日

授業日数を確保するため、特定の「国民の祝日」に授業を行うことがありますので、毎年度の学暦で確認してください。

4. 休講

授業科目の担当教員から連絡があり次第、Port Hepburnでお知らせします。すでに授業開始時間中の場合は、教務課員が直接教室に赴き、口頭で連絡します。

始業時刻30分を過ぎても連絡がない場合は、不測の事故があったものとして「自然休講」となることもあります。念のため教務課窓口で確認してください。

5. 補講

本学では、主に休講になった授業の内容を補うために、学暦で**平日補講日**（白金校舎は第7時限、横浜校舎は第6時限）、**週末補講日**（土曜第3～5時限）、**期末補講日**を定めています。平日補講は、履修の重なりや教室の空き状況等により、白金校舎は第6時限、横浜校舎は第5時限を補講とすることがあります。補講の実施は、各授業科目の担当教員が決定します。

補講の実施科目、実施日時、教室は、補講を実施する1週間前を目処に、Port Hepburnでお知らせします。

補講の曜時限・教室は、通常の授業時と異なる場合がありますので、注意してください。

なお、「補講内における試験等の実施」「試験での補講受講を前提とした出題」はありません。

「複数科目の補講」「週末補講と他科目の通常授業」の実施日時が重複した場合は、担当教員に相談してください。

6. 授業の欠席

授業を欠席する際、『7. 学校感染症に罹患した場合』を除いて大学への電話連絡は不要です。次に出席したときに、担当教員に事情を説明して、欠席届が必要かどうかを確認してください。教務課では、本人の病気や怪我、または、忌引（3親等以内）、福島県出身者の甲状腺検査により授業を欠席した場合に限り、欠席届の発行ができません。必要な場合は、所定用紙に記入の上、欠席事由を証明する書類（病気・怪我→医療機関の発行した証明書（診断書・治癒証明書など）、忌引→会葬礼状など、福島県出身者の甲状腺検査→検査の通知文書。いずれもコピー不可）を添付し、教務課窓口へ届け出てください。

7. 学校感染症に罹患した場合

学生が、「学校において予防すべき感染症※」に罹患した場合は、学内感染を予防するため、「学校保健安全法」「学校保健安全法施行規則」により出校停止としています。

医療機関で、感染症に罹患したと診断された場合は、直ちに通学する校舎の教務課または健康支援センターに連絡して、指示を受けてください。

所定の手続を行った学生については、授業の欠席が不利益とならないように配慮します。

※「学校において予防すべき感染症」としては、以下のものがあります。

【第一種】 エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、特定鳥インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症（2020年3月現在）

【第二種】 インフルエンザ、百日咳、麻しん（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風しん、水痘（水ぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎

【第三種】 コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症（ノロウイルス等を含む感染性胃腸炎、マイコプラズマ感染症）

試 験

試験には、平常試験（担当教員が通常の授業内において必要に応じて実施する試験）、定期試験、レポート、追試験があります。

試験の形式は筆記試験を原則としていますが、レポートまたは口頭試問等を課すこともあります。また、これらの形式を組み合わせることもあります。

不正行為について（MG DIARY『「不正行為」懲戒基準のガイドライン』参照）

試験およびレポートにおいて不正行為があった場合、学則に沿った厳しい処分（退学・停学等）が科されます。不利益を被らないためにも、普段の授業から各自注意して臨んでください。

1. 定期試験

学期ごとに、試験期間を設けて実施します。試験期間は学暦で定めます。

定期試験を実施する授業科目、試験の時間割および試験場等は、試験期間の2～3週間前までにPort Hepburnで発表します。

- ① 定期試験の時間割は授業の時間割に基づいて発表され、原則として通常授業時と同一です。従って履修登録と異なる曜時限での受験は認めません。なお、一部の科目については、やむを得ず通常授業時とは異なる曜時限で試験を実施するため、必ず発表を確認してください。
- ② 定期試験の試験場は、通常授業時の教室とは異なります。同一授業の試験を二つ以上の試験場に分けて実施する場合、必ず指定の試験場で受験してください。

定期試験の実施時間帯は、通常授業とは異なります。定期試験は通常授業とは異なる曜日・時限に実施することがあります。

時限	白金校舎	横浜校舎
第1時限	9:15～10:15	
第2時限	10:55～11:55	
第3時限	13:25～14:25	
第4時限	15:05～16:05	
第5時限	16:45～17:45	
第6時限	18:25～19:25	

定期試験が重複した場合、以下のとおり取り扱います。

- ① 本学が協定を結ぶ大学との単位互換履修生であって、その大学の定期試験と本学定期試験が重複した場合は、相手先大学の試験を受験して、本学の試験は追試験とします。
- ② 本学の定期試験において、試験時間割が授業時間割とは異なるため試験が同一時間帯に重複した場合、定められた期日までに教務部窓口で手続きをすることにより重複対応試験として、試験当日に重複した二つの試験を受験できます。ただし、本人の履修状況によっては重複対応試験ではなく追試験となる場合もあるため、必ず手続きをしたうえで指示を受けてください。

《教室試験の受験心得》

定期試験・平常試験・追試験に際して下記の事項に注意してください。

- ① 学生証のない者および学生証を忘れた者の受験は認めません。試験当日は学生証を忘れないように十分注意してください。万が一、学生証を提示できない学生は、教務部が交付する仮学生証（交付当日のみ有効）を提示すれば受験することができます（手数料 200 円必要）。

※学生証を紛失した者は必ず定期試験の開始以前に教務部で再発行手続きを済ませてください（手数料 1,500 円必要）。再発行学生証は手続き日の翌日渡し（ただし、事務休止日を除く）になるので注意してください。

- ② 試験場への入室は、前の時限の受験者および監督者の退室が完了するまでできません。
- ③ 遅刻をしないでください。ただし、試験開始後 20 分以内に限り監督者の許可を得て入場することができます。
- ④ 試験科目、試験場および試験クラスを確認してください（履修登録どおりの曜時限のものを受験してください）。試験教室は、通常授業の教室と異なることがあるので注意してください。
- ⑤ 監督者の指示がない限り、一人置きに教室の前から着席してください。座席指定がある場合は、その指示に従ってください。
- ⑥ 着席と同時に学生証の表を上にして置き、認められたもの以外はすべてカバン等に入れ、横の椅子の上に置いてください。
- ⑦ 学生証にシールや写真などが貼ってある場合、不正行為とみなします。
- ⑧ 机の下の棚には何も置いてはいけません。もし、ゴミ等自らの責任に属さないものがあれば、試験開始前にゴミ箱に捨ててください。
- ⑨ 机に書き込まれている文字等はすべて消去し、誤解を受けないようにしてください。消去できない場合は監督者に申し出てください。
- ⑩ 試験開始の合図があるまでは、問題・解答用紙は裏返しにしておいてください。
- ⑪ 試験開始の合図後、ただちに、解答用紙・受験票に学籍番号・氏名を記入してください。解答用紙（答案）・受験票を提出する前にも、学籍番号・氏名の記入を確認をしてください。
- ⑫ 監督者の指示があるまでは試験場から退室できません。指示後に退出する場合、他の受験者の迷惑にならないよう静粛かつ迅速に退出してください。
- ⑬ 答案の持ち帰りはできません。
- ⑭ 携帯電話やスマートウォッチ等の電子情報機器類の電源を切ってカバン等に入れてください。時計機能の使用は認めません。
- ⑮ 不正行為を厳禁とします。不正を行った学生に対しては、学則に定めた厳しい処分を科します。

以下のような行為を行った者は、『MG DIARY』に示してあるとおり不正行為者とみなされます。

◎使用を許可されていない資料等を所持または使用した者、またはこれと同等とみなされる不正を行った者

- 事例
1. カンニングペーパーの用意または使用
 2. 答案の交換
 3. 使用が許可されていない文献等の使用や貸借
 4. 使用が許可されている文献等の、授業科目担当者による了解の無い貸借
 5. 机、学生証、所持品、壁等への解答およびそれに類するものの書き込み
 6. 答案の盗み見
 7. 声、動作等による解答の伝達、その受信
 8. 携帯電話等の使用

◎試験監督者の指示に従わなかった者またはこれと同等とみなされる不当な行為を行った者

2. レポート

レポートは、担当教員へ直接提出することを原則とします。ただし、担当教員が提出先を別途指定する場合があります。ポートへボンのレポートメニューもあわせて提出前に十分確認してください。

《レポート提出心得》

レポートの作成および提出に際しては下記に注意してください。

- ① レポートの作成にあたって、著作物や Web 上の情報を参照・引用した場合は、引用箇所と出典を明記する。
- ② 著作物や Web 上の情報を参照・引用した場合の引用箇所と出典は以下を参考に明記する。
 - 図書の場合 : 著者名『書名』（出版社、発行年）、ページ
 - 雑誌等の論文の場合 : 執筆者名「論文名」（『所収雑誌名』巻、号、発行年月）、ページ
 - ホームページの場合 : URL、取得年月日
 - 新聞記事の場合 : 新聞名、発行年月日、朝夕刊の別、面
- ③ 引用をしたにもかかわらず、どこからどこまでが引用なのかを示さず、また出所の記載もなく、あたかも自分で作成したようにすることは「不正行為」とみなす。特に Web 上の文章をそのまま引用する行為は、「不正行為」に当たるので、注意する。不正を行った学生に対しては、学則に定めた厳しい処分を科す。
- ④ レポートは、各人が個別に作成し、指示がない限りグループで作成してはならない。また、他者の文章や Web 上のデータを参考にした場合でも、最終的には自らの評価や主張をきちんと述べる。
- ⑤ レポートの体裁は、右の図のとおり表紙をつけ、授業曜時限・科目名・担当教員名・レポート題名・学籍番号・氏名を必ず明記する。レポートは特に指示がなければ左上を綴じて提出する。
- ⑥ 提出について、提出先・提出日・受付時間を厳守する。

↓左上を綴じる

【表紙見本】
○曜○限「科目名」 ○○○ 先生
『レポートのタイトル』
年 月 日 提出 学籍番号 氏 名

・授業時提出

授業教室で提出の場合、授業開始時に回収することがあるため、必ず授業開始時から着席する。

・教務課提出 次ページ「3. 追試験① (b)」参照

- (a) レポートは、指定された提出日（窓口事務取扱時間内）に限り、各校舎教務課内指定の提出場所に提出する。提出時間外の提出は理由の如何を問わず一切受け付けない（時間厳守）。
- (b) 横浜校舎で履修している科目は横浜教務課に、白金校舎で履修している科目は白金教務課にそれぞれ提出する。
- (c) 誤って提出したレポートは無効となる。例えば、同一科目が複数の曜時限に開講されている場合や、同じ提出日に複数科目の受付がある場合などは、提出箱を間違えないよう十分注意する。
- (d) 一旦提出したレポートの出し直しはできないので、書き漏れ、書き忘れなどがないよう提出箱に提出する前によく確認する。
- (e) 教員の都合により再提出が必要となることがあるので、成績発表までレポートの原稿またはファイルは削除せず、保存しておく。

・横浜教務課のアカデミックボックス提出

教務課の常設ロッカーに指定された提出期限までに提出する。

・電子データで提出

メールの場合は必ず送受信の確認を行い、メールの発信記録を保管しておく。なお、成績評価の確認時に、発信した日時を確認できる書類が必要になるため、レポートの控えを成績発表まで保管しておく。

・その他（共同研究室等への提出）

提出先によって受付時間が異なるため、十分に確認する。

3. 追試験

追試験とは下記①に該当し、所定の期間内に受験手続きを完了した者に対して、一定期間を設けて実施する試験をいいます。なお、追試験は申込みをした学生のためだけに別途特別の準備をして行うものなので、**申込みをした場合、必ず受験することが義務づけられます。**

① 追試験の申込みができる者

(a) 定期試験を下表に記載されている理由により受験できなかった者

(b) 提出先が教務課、提出日が定期試験期間中の1日に指定されたレポートを下表に記載されている理由により提出できなかった者

※定期試験期間外に行われる試験（集中講座における試験を含む）は、追試験の対象外です。

② 追試験を申込み際には、申込理由に応じた必要書類と学生証を持参してください。

③ 必要書類が所定期間に整わない場合は、受け付けません。

④ 追試験の申込みをしても出席日数不足等の理由から、担当教員が追試験受験を認めない場合があります。また、追試験受験を認めてもN評価とする場合があります。

⑤ 追試験申込期間は、定期試験前に掲示します。

⑥ 追試験は学暦で定める期間に実施し、その時間割は別に定めます。追試験日が複数あっても指定はできません。

⑦ 追試験を何らかの理由で受験できなかった場合、再度の追試験は実施しません。

申込理由	申 込 時 必 要 書 類
病気・けが	医療機関の発行した証明書（診断書・治癒証明書など） ただし、以下の事項が明記されているもの ① 傷病名 ② 通院・安静等の日時・期間（欠席した日を含むこと） ③ 証明書作成日 ④ 医療機関名と医師名・印（医療機関または医師） ⑤ 問い合わせ先の電話番号
忌 引 （3親等以内）	教務課所定の届出用紙（窓口で交付）と葬儀の日付、 または死亡を確認できるもの ※法事は含めない。
交通機関遅延	当該交通機関が発行する遅延証明書 （遅延日付が明記されたもの。通学路線に限る）
就職試験 （選考を伴わないものは 対象外）	会社の担当者による受験証明書 ただし、以下の事項が明記されているもの ① 学籍番号・氏名 ② 就職試験実施日時 ③ 当該学生が就職試験を受験していた旨の文面 ④ 会社名・住所・電話番号・担当者名・会社印（担当者印のみは不可）
職場のやむを得ない事情	教務課所定の証明書（専任勤務員〈派遣勤務員を含む〉としての 就業証明を含む。アルバイトは対象外）
教員免許状取得のための 介護等体験	教務課で確認するため不要
学芸員資格取得のための 博物館実習（芸術学科のみ）	芸術学科共同研究室または実習先の博物館が発行した「博物館実習受入れ 回答書」で、以下の事項が明記されているもの（コピー可）。 ①実習期間 ②実習先（住所・施設名・押印等） ③実習受入れ学生氏名
社会福祉士・精神保健福祉士 国家試験受験資格取得に 必要な4年次の実習 （社会福祉学科のみ）	社会福祉実習センターが発行した実習期間証明書 対象科目：【社会福祉士】ソーシャルワーク実習 【精神保健福祉士】精神保健福祉援助実習
単位互換大学の定期試験 との重複	相手先大学が発行する定期試験受験証明書
定期試験の重複	教務課で確認するため不要 ※定期試験の重複対応試験の手続きをして追試験を指示されたものに限る。
福島県出身者の甲状腺検査	検査の通知文書（コピー不可）
その他（学部長が特別に 認めたとき）	教務課所定の許可願用紙（窓口で交付）と理由が明記されている書類、 証明書等

成 績

1. 成績評価

成績は、各授業科目の担当教員が下記の通り本学の定めた成績評価基準にしたがって、試験（レポート等を含む）の得点、平常点、授業への取り組み方等に基づいて評価して決定します。合格の評価を得た学生には、所定の単位が与えられます。

成績確認画面（成績通知書）には、全履修科目について、下記の評価（SからDおよびN、I、R、P、F）を表示します。

また、成績証明書には、合格科目（単位修得科目）についてのみ、科目名と評価を記載します。

種別	評価	評点 (100点満点)	可否	成績評価基準
成績評価の 段階を 定める科目	S	100~90	合格	到達目標を十分に達成し、極めて優秀である。
	A	89~80		到達目標を十分に達成している。
	B	79~70		到達目標を概ね達成している。
	C	69~60		到達目標を最低限達成している。
	D	59以下	不合格	到達目標を達成していない。
	N	評価不能		試験未受験・出席不良等、当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。
成績評価の 段階を 定めない科目	I	—	単位 認定	「明治学院大学学生国際交流規程」に基づく認定留学により他大学等で得た単位を、本学の授業科目に相当するものとして認定したもの。
	R	—		「本学入学前に修得した単位の認定に関する規程」および「編入生単位認定規程」に基づき他大学等で得た単位を、本学の授業科目に相当するものとして認定したもの。
	P	—	合格	到達目標を達成している。
	F	—	不合格	到達目標を達成していない。

【注意】「評価不能」とは、試験未受験・出席不良等、当該科目の成績評価の前提条件を満たしていないと担当教員が判定したことを示します。

2. 成績発表

履修している授業科目の成績は、学暦に定められた成績発表日に発表します。履修登録が正しくなされていない授業科目を受講しても、成績評価の対象とはなりません。

① 発表方法について

Port Hepburn にログイン後、「教務 Web」を選択して学生メニューを表示し、「成績照会」をクリックして成績を確認してください。授業科目の開講期ごとに発表のタイミングが異なりますので、以下を確認してください。

- (a) 9月上旬：当該年度春学期までの全履修科目の成績（夏季講座（第一期）を含む）を通知
- (b) 3月上旬：当該年度秋学期、通年開講科目の全履修科目の成績（春季講座を含む）を通知
- (c) その他：夏季講座（第二期）の成績および本学の短期留学プログラム（夏季・春季）による認定科目は、別途通知

② 卒業年次生の卒業学期の成績発表について

卒業生発表と同時にを行います。

③ 保証人への成績通知について

保証人への成績通知は、Port Hepburn にてお知らせします。事情等があり、保証人への成績通知を希望しない学生は、所定の期間内に教務課で手続きをしてください。申請期間等の詳細は Port Hepburn にて連絡します。また、保証人の住所等に変更があった場合には、教務 Web 上で住所変更の申請を必ず行ってください（変更されないと大学からの重要な連絡ができず、不利益となることがあります）。

3. GPA (Grade Point Average)

本学では、成績をはかる基準としてGPAを採用することがあります。GPAとは、科目の単位数に成績評価ごとのポイントで重みをつけ、その総合計を総単位数で割った数値です。ただし、卒業要件外の科目は除外されます。計算式でわかるとおり、S評価が多いとポイントが高くなり、D・N評価が多いとポイントが下がります。在籍期間中の通算GPAについて、成績確認画面（成績通知書）に記載しますが、教務部ではGPAを使用した成績順位の問い合わせには応じていません。

◎計算式＜P・F・R・I・W評価は計算の対象外＞

$$\frac{(Sの修得単位数 \times 4) + (Aの修得単位数 \times 3) + (Bの修得単位数 \times 2) + (Cの修得単位数 \times 1)}{\text{総修得単位数 (D・Nの単位数も含む)}}$$

◎評価のポイント：S = 4 A = 3 B = 2 C = 1 D・N = 0

GPAはSが多いほど高くなり、最高は4.00となります。小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位までを有効とします。

GPAは以下のような際に使用されます（一例。これ以外にもあります）。

◎法学部の成績優秀者の選考

◎明治学院大学学内奨学金（学業優秀賞・外国人留学生学業優秀賞）給付対象者の選考

◎明治学院大学大学院社会学研究科の推薦入試における選考

◎明治学院大学大学院心理学研究科の特別入試（本学出身者）における出願基準

◎明治学院大学大学院経済学研究科・法と経営学研究科への飛び入学出願基準

◎法学部生が他大学法科大学院へ進学する際に、3年次早期卒業を希望する場合の卒業要件

◎明治学院大学協定留学者の学内選考基準

◎国際学部ダブル・ディグリー・プログラム出願基準

なお、GPA は上記以外にも、転学科試験への出願や学外の各種奨学金、大学院入試の出願時に必要とされることもあります。

4. 成績評価確認（学部生共通）

履修科目の成績評価に異議がある場合には、成績評価確認制度により確認することができます。履修科目の成績に関する問い合わせは、所定の「成績評価確認願」を各校舎教務課に提出することにより行います。なお、異議の理由が明確でないもの、不適切なものは受け付けません。調査結果は、後日、教務課で確認することができます。成績に関する問い合わせはこの方法のみに限り、担当教員に直接問い合わせることは認めません。

「成績評価確認願」の提出は、在學生は成績発表後の指定日、卒業年次生は卒業発表日当日に限ります。

ただし、追試験の受験資格と同等の理由（病気・けが、3親等以内の忌引等）が承認された場合に限り、別途提出を認めます。

なお、卒業不可となった卒業年次生については、成績発表後の指定日での提出も受け付けます。

5. 学生への個別支援

本学では、勉強の仕方がわからない、授業についていけないなど学習面での問題を抱えている学生や課外活動でのトラブルや経済的事情から学業に支障をきたしている等、このままでは通常の在学期間での卒業が困難になる可能性のある学生に対して、個別に事情を聴取し、学科および担当部門が当該学生へ必要な学業支援を行います。

学年末の成績発表後、各学科の定めた条件に基づいて学生を抽出し、教務課から個別に通知しますので、連絡を受けた学生は、指示に従って面談等に臨んでください。

卒業と学位

1. 卒業の要件と手続

※年度末（9月卒業を申請した者にあつては春学期末）において卒業要件を満たす者が、希望により卒業を保留することは認められません。

① 3月（年度末）卒業

4年以上（3年次編入生にあつては2年以上、いずれも休学した期間は除く）在学し、かつ、所属する学科が定める卒業に必要な単位を修得した者は、その年度末をもって卒業となります。卒業者については、Port Hepburn および学内掲示板に、学籍番号を発表します。

ただし、以下の者はこの限りではありません。

◎経済学部生について、明治学院大学大学院経済学研究科経済学専攻または法と経営学研究科法と経営学専攻への飛び入学選考に合格した者

◎法学部生について、明治学院大学大学院法と経営学研究科法と経営学専攻への飛び入学選考に合格した者

◎法学部生について、他大学法科大学院へ進学するため、3年次早期卒業が認められた者

◎国際キャリア学科の9月入学生

② 9月（春学期）卒業

4年以上（3年次編入生にあつては2年以上、いずれも休学した期間は除く）在学し、春学期末において①の要件を満たす者については、本人の申し出により春学期末での卒業を認めます。これを「9月卒業」といいます。9月卒業を希望する者は、5月末日までに「9月卒業申請書」を教務課に提出しなければなりません。詳細は、Port Hepburn および掲示にてお知らせします。

なお、所定の手続きを取らなかった者は、春学期末で①の要件を満たした場合でも9月卒業の対象にはならないので注意してください。

※国際キャリア学科生については、②とは前提条件が異なるため「9月卒業申請書」の提出は不要です。

2. 卒業時に授与される学位

本学卒業者には以下に定める学士の学位が授与されます。

学部	学科	学位
文学部	英文学科	学士（英文学）
	フランス文学科	学士（フランス文学）
	芸術学科	学士（芸術学）
経済学部	経済学科	学士（経済学）
	経営学科	学士（経営学）
	国際経営学科	学士（国際経営学）
社会学部	社会学科	学士（社会学）
	社会福祉学科	学士（社会福祉学）
法学部	法律学科	学士（法学）
	政治学科	学士（政治学）
	消費情報環境法学科	学士（法学）
	グローバル法学科	学士（法学）
国際学部	国際学科	学士（国際学）
	国際キャリア学科	学士（国際学）
心理学部	心理学科	学士（心理学）
	教育発達学科	学士（教育発達学）

単位認定

本学で授業科目を履修して修得した単位以外に、他大学等で修得した単位を認定することがあります。認定するのは次の1～3ですが、合計で60単位を限度とします。

1. 入学前に修得した単位

入学する前に修得した単位（大学、短期大学、短期大学の専攻科または高等専門学校の専攻科において修得した単位）について認定を希望する学生は入学時の案内に従い手続きしなければなりません。入学時以外での認定や追加の認定は行いません。成績評価は、評価記号「R」により卒業に必要な単位として認定したことを表示します。

2. 国外認定留学により得た単位

国外認定留学による単位認定の手続きは教務課が行います。留学に関する詳しい詳細については国際センターに問い合わせてください。

① 長期留学

本学の認定留学により留学先で修得した単位等について、本学の単位として認定するものです。どのような科目が認定されるかは所属している学科により異なります。成績評価についての扱いは1.と同じであり、留学による認定を意味する記号「I」が表示されます。

② 短期留学（夏季・春季）

本学の短期留学プログラム（夏季・春季）による単位の認定です。留学先大学の評点を本学の成績に置き換えて評価し、認定します。

③ 中期留学

本学の認定留学のうち中期留学プログラムにより留学先で修得した単位等について、本学の単位として認定するものです。留学先大学の評点を本学の成績に置き換えて評価し、認定します。

3. 単位互換

単位互換とは、本学が協定する他大学において修得した授業科目の単位を、各学部の定めるところにより本学の単位として認定する制度で、以下のとおり実施します。詳細は学科によって異なるため本要項およびPort Hepburn等で確認してください。単位互換で修得した科目の評価は、本学の成績評価に換算して表示します。

※履修上の注意

履修にあたっては、学生の責任において移動時間を考慮し、履修登録をしてください。

卒業年次生がこの制度による履修科目によって卒業を満たそうとする場合、卒業見込証明書の発行時期が大幅に遅れる場合があります。

① 横浜市内大学間の単位互換

横浜市内所在の大学間で組織する「横浜市内大学間学術・教育交流協議会」に参加する大学による単位互換制度。

提供科目：「横浜市内大学間学術・教育交流協議会」のホームページ参照（履修可能科目は学部によって異なるので注意してください。）

実施学科：社会福祉学科、法律学科、消費情報環境法学科、政治学科、国際学科（履修可能科目は学科によって異なります。各学科のページ参照。国際学科については教務課窓口までご相談ください。）

募集については「横浜市内大学間単位互換履修生 募集要項」を参照してください。

② 芝浦工業大学との単位互換

芝浦工業大学デザイン工学部と単位互換協定を締結しています。芝浦工業大学で修得した単位を本学の単位として認定します。

提供科目：募集要項にて確認してください

実施学部：法学部（履修可能単位数および卒業要件単位として認定される単位数は各学科のページ参照）

③ 共愛学園前橋国際大学との単位互換

共愛学園前橋国際大学と単位互換協定を締結しています。共愛学園前橋国際大学で修得した単位を本学の単位として認定します。

提供科目：募集要項にて確認してください

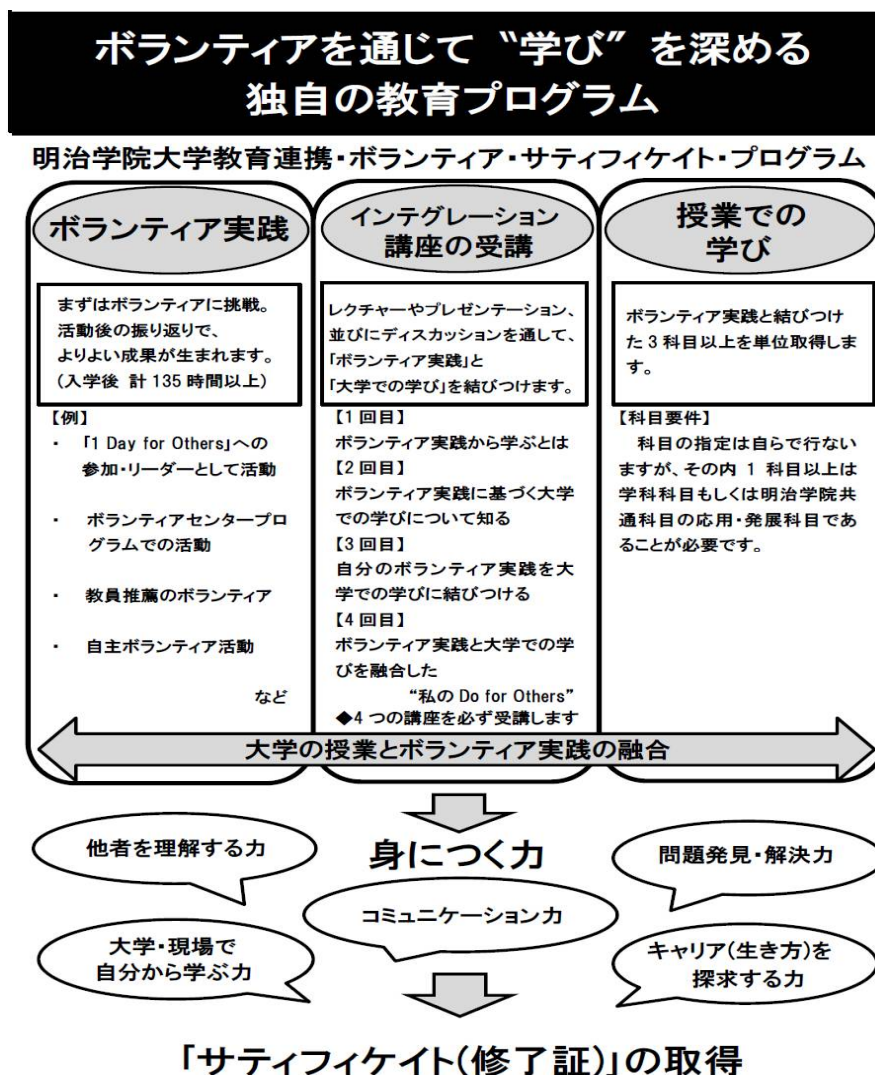
実施学部：法学部・国際学部（履修可能単位数および卒業要件単位として認定される単位数は各学科のページ参照）

明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム

このプログラムにおいて、①ボランティア実践、②ボランティア実践と結びつけた科目の単位修得、③ボランティア実践と科目の関連づけを行う「インテグレーション講座」の修了後、所定の手続きを経て認証されることにより、「明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」の修了証を取得することができます。

※①のボランティア実践、③のインテグレーション講座についてはボランティアセンターへ、②の科目の履修に関しては教務部にお問い合わせください。詳細は別途案内されますので、本プログラム登録希望者はボランティアセンターからの掲示等を見逃さないようにしてください。

プログラムのイメージ図



明治学院共通科目

人材養成上の目的・教育目標

明治学院共通科目の主たる開講責任を負う教養教育センターは、明治学院大学の「人材養成上の目的・教育目標」に基づき、明治学院大学の教養教育の「人材養成上の目的・教育目標」を次のとおり定める。

明治学院共通科目による教養教育は、世界に生起する諸問題について、他者との共生をめざし柔軟かつ誠実に対処することのできる市民的教養を有する人材の養成を目的とする。そしてその実現のために、言語系科目と諸領域科目の教育が連携し、多様な思考力と表現力を養成するための総合的な教育を推進する。

言語系科目の教育においては、コミュニケーション能力の向上と言語を育んできた自他の文化への理解を深め、自律的な学修態度を身につけることを教育目標とする。また、諸領域科目の教育においては、専門的知見の修得を通して、問題を的確に理解するための読解力や分析力、問題解決のための多面的な思考力を身につけることを教育目標とする。

期待される学修成果

教養教育センターは、明治学院大学の「人材養成上の目的・教育目標」に沿った人間を育成する。学生は、所定の単位を修得することにより、次の態度、知識、能力を身につけることが期待できる。

- 1 建学の精神を理解し、多様な価値観を尊重しつつ、社会参加を通して他者への貢献を志向する態度
- 2 幅広い学問分野の基礎知識を有し、現代社会が抱える諸問題に対して多面的に捉え、的確に価値の判断を行う能力
- 3 自ら発見した課題について、幅広い知見に基づいて、その解決策を適正かつ明確に提示する能力
- 4 他者とのコミュニケーションに必要な能力を身につけ、生涯にわたってそれを伸展させるための自律的学修をつづける態度

教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

教養教育センターは、明治学院大学の「教育課程の編成および実施に関する方針」に基づき、教養教育センターの定める「人材養成上の目的・教育目標」に沿って、「教育課程の編成および実施に関する方針」を次のとおり定める。

明治学院共通科目を、コア科目、言語系科目群、人文科学系科目群、社会科学系科目群、自然科学系科目群、情報処理系科目群、健康・スポーツ科学系科目群、総合教育系科目群の各群により構成する。効率的な教育効果を期待して、コア科目に加え、基礎、応用、発展のレベルを設定することにより、順次的、体系的な学修を促進できるように科目を編成する。

(1) コア科目

建学の精神を理解し、他者への貢献を実現するために必要な知見の獲得を目指して、下記の科目を開講する。

必修科目：「キリスト教の基礎」を1年次に配当する。

(2) 言語系科目群

英語によるコミュニケーション能力の向上、初習語における基礎的運用能力の育成を目指して、下記の科目を開講する。

必修科目：「英語コミュニケーション」を1年次に配当する。

留学生には、「日本語」科目を配当する。

選択必修：フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語を選択言語科目として配当する。

留学生は、日本語以外の言語、もしくは、「日本語研究」を選択必修とする。

*「日本語研究」を選択必修とするのは、法律学科・消費情報環境法学科・政治学科のみ。

自由選択：英語のオーラー（聞く・話す）に加え、リテラー（読む・書く）強化を目指して、「英語研究」を開講する。

初習語学修の進展を目指して、必修科目として選択した初習語のインテンシブクラスとして各言語の「演習」を開講する。また、上記の選択必修科目に加えて、イタリア語・アラビア語・タイ語の学修を目的と

した「基礎」を開講する。

初習語によるコミュニケーション能力の養成のため、「(初習)語研究」を開講する。

(3) 情報処理系科目群

選択必修：「コンピュータリテラシー」を1年次に配当する。

自由選択：「コンピュータリテラシー研究」、「情報科学」を開講する。

(4) 諸領域科目群

明治学院共通科目の期待される学修成果に示した1から4について、幅広い学問分野における知識と正確な判断力を涵養するため、「人文科学系科目」、「社会科学系科目」、「自然科学系科目」、「健康・スポーツ科学系科目」、「総合教育系科目」の各分野・領域において諸科目を開講する。各授業科目には、個別の授業テーマが提示される。

期待される学修成果と授業科目の関連表（能力要件表）（明治学院共通科目）

学士力		知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力	
対応する「期待される学修成果」		期待される学修成果2	期待される学修成果2・4	期待される学修成果1・4	期待される学修成果3	期待される学修成果1・3
「期待される学修成果」から抽出した身につく能力		現代社会が抱える諸問題を捉えるための幅広い基礎知識	多面的思考・判断力、コミュニケーション力	多様性の尊重、他者貢献、自律的学習態度	課題発見力	解決策提示力、社会参画による他者貢献
授業科目名	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
コア科目						
MGCHR101	1	◎				
MGCHR102	1	◎				
MGCHR101	1	◎				
MGCHR102	1	◎				
言語系科目群						
1. 基礎科目						
MGENG101	1		◎	○		
MGENG102	1		◎	○		
MGENG103	1		◎	○		
MGENG104	1		◎	○		
MGFRE101	1		◎	○		
MGFRE102	1		◎	○		
MGFRE103	1		◎	○		
MGFRE104	1		◎	○		
MGFRE111	1		◎	○		
MGFRE112	1		◎	○		
MGCHN101	1		◎	○		
MGCHN102	1		◎	○		
MGCHN103	1		◎	○		
MGCHN104	1		◎	○		
MGCHN111	1		◎	○		
MGCHN112	1		◎	○		
MGGER101	1		◎	○		
MGGER102	1		◎	○		
MGGER103	1		◎	○		
MGGER104	1		◎	○		
MGGER111	1		◎	○		
MGGER112	1		◎	○		
MGSPN101	1		◎	○		
MGSPN102	1		◎	○		
MGSPN103	1		◎	○		
MGSPN104	1		◎	○		
MGSPN111	1		◎	○		
MGSPN112	1		◎	○		
MGRUS101	1		◎	○		
MGRUS102	1		◎	○		
MGRUS103	1		◎	○		
MGRUS104	1		◎	○		
MGKOR101	1		◎	○		
MGKOR102	1		◎	○		
MGKOR103	1		◎	○		
MGKOR104	1		◎	○		
MGKOR111	1		◎	○		
MGKOR112	1		◎	○		
MGJPN101	1		◎	○		
MGJPN102	1		◎	○		
MGJPN103	1		◎	○		
MGJPN104	1		◎	○		
MGJPN121	1		◎	○		
MGJPN122	1		◎	○		
MGJPN123	1		◎	○		
MGJPN124	1		◎	○		
MGJPN131	1		◎	○		
MGJPN132	1		◎	○		
MGITA101	1		◎	○		

授業科目名	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
MGITA102イタリ語の基礎B	1		◎	○		
MGARB101アビ7語の基礎A	1		◎	○		
MGARB102アビ7語の基礎B	1		◎	○		
MGTHA101タイ語の基礎A	1		◎	○		
MGTHA102タイ語の基礎B	1		◎	○		
MGGRE101キ'リン7語研究A	1		◎	○		
MGGRE102キ'リン7語研究B	1		◎	○		
MGLAT101ラテン語研究A	1		◎	○		
MGLAT102ラテン語研究B	1		◎	○		
MGSIG101手話1	1		◎	○		
MGEUC101ヨ-ロッパ'言語圏の文化入門1	1	◎	○	○		
MGEUC102ヨ-ロッパ'言語圏の文化入門2	1	◎	○	○		
MGEUC103ヨ-ロッパ'言語圏の文化入門3	1	◎	○	○		
MGEUC104ヨ-ロッパ'言語圏の文化入門4	1	◎	○	○		
MGEUC105ヨ-ロッパ'言語圏の文化入門5	1	◎	○	○		
MGEUC106ヨ-ロッパ'言語圏の文化入門6	1	◎	○	○		
MGEUC111ヨ-ロッパ'言語圏の文化各論1	1	◎	○	○		
MGEUC112ヨ-ロッパ'言語圏の文化各論2	1	◎	○	○		
MGEUC113ヨ-ロッパ'言語圏の文化各論3	1	◎	○	○		
MGEUC114ヨ-ロッパ'言語圏の文化各論4	1	◎	○	○		
MGEUC115ヨ-ロッパ'言語圏の文化各論5	1	◎	○	○		
MGEUC116ヨ-ロッパ'言語圏の文化各論6	1	◎	○	○		
MGASC101アジ'ア言語圏の文化入門1	1	◎	○	○		
MGASC102アジ'ア言語圏の文化入門2	1	◎	○	○		
MGASC103アジ'ア言語圏の文化入門3	1	◎	○	○		
MGASC104アジ'ア言語圏の文化入門4	1	◎	○	○		
MGASC111アジ'ア言語圏の文化各論1	1	◎	○	○		
MGASC112アジ'ア言語圏の文化各論2	1	◎	○	○		
MGASC113アジ'ア言語圏の文化各論3	1	◎	○	○		
MGASC114アジ'ア言語圏の文化各論4	1	◎	○	○		
2. 応用科目						
MGENG201英語特別研究A	1		◎	○		
MGENG202英語特別研究B	1		◎	○		
MGENG211英語研究1A	2	○	◎	○		
MGENG212英語研究1B	2	○	◎	○		
MGENG213英語研究2A	2	○	◎	○		
MGENG214英語研究2B	2	○	◎	○		
MGFRE205フランス語3A	1		◎	○		
MGFRE206フランス語3B	1		◎	○		
MGFRE207フランス語4A	1		◎	○		
MGFRE208フランス語4B	1		◎	○	○	
MGFRE211フランス語研究1A	2		◎	○	○	
MGFRE212フランス語研究1B	2		◎	○	○	
MGFRE213フランス語研究2A	2		◎	○	○	
MGFRE214フランス語研究2B	2		◎	○	○	
MGFRE221フランス語演習中級A	1		◎	○	○	
MGFRE222フランス語演習中級B	1		◎	○	○	
MGCHN205中国語3A	1		◎	○		
MGCHN206中国語3B	1		◎	○		
MGCHN207中国語4A	1		◎	○		
MGCHN208中国語4B	1		◎	○		
MGCHN211中国語研究1A	2		◎	○	○	
MGCHN212中国語研究1B	2		◎	○	○	
MGCHN213中国語研究2A	2		◎	○	○	
MGCHN214中国語研究2B	2		◎	○	○	
MGCHN221中国語演習中級A	1		◎	○	○	
MGCHN222中国語演習中級B	1		◎	○	○	
MGGER205ト'イ語3A	1		◎	○		
MGGER206ト'イ語3B	1		◎	○		
MGGER207ト'イ語4A	1		◎	○		
MGGER208ト'イ語4B	1		◎	○		
MGGER211ト'イ語研究1A	2		◎	○	○	
MGGER212ト'イ語研究1B	2		◎	○	○	

授業科目名	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
MGGER213ト' イ語研究2A	2		◎	○	○	
MGGER214ト' イ語研究2B	2		◎	○	○	
MGGER221ト' イ語演習中級A	1		◎	○	○	
MGGER222ト' イ語演習中級B	1		◎	○	○	
MGSPN205ｽﾍﾞ' イ語3A	1		◎			
MGSPN206ｽﾍﾞ' イ語3B	1		◎	○		
MGSPN207ｽﾍﾞ' イ語4A	1		◎	○		
MGSPN208ｽﾍﾞ' イ語4B	1		◎	○		
MGSPN211ｽﾍﾞ' イ語研究1A	2		◎	○	○	
MGSPN212ｽﾍﾞ' イ語研究1B	2		◎	○	○	
MGSPN213ｽﾍﾞ' イ語研究2A	2		◎	○	○	
MGSPN214ｽﾍﾞ' イ語研究2B	2		◎	○	○	
MGSPN221ｽﾍﾞ' イ語演習中級A	1		◎	○	○	
MGSPN222ｽﾍﾞ' イ語演習中級B	1		◎	○	○	
MGRUS205ﾛｼﾞｱ語3A	1		◎	○		
MGRUS206ﾛｼﾞｱ語3B	1		◎	○		
MGRUS207ﾛｼﾞｱ語4A	1		◎	○		
MGRUS208ﾛｼﾞｱ語4B	1		◎	○		
MGRUS211ﾛｼﾞｱ語研究1A	2		◎	○	○	
MGRUS212ﾛｼﾞｱ語研究1B	2		◎	○	○	
MGRUS213ﾛｼﾞｱ語研究2A	2		◎	○	○	
MGRUS214ﾛｼﾞｱ語研究2B	2		◎	○	○	
MGKOR205韓国語3A	1		◎	○		
MGKOR206韓国語3B	1		◎	○		
MGKOR207韓国語4A	1		◎	○		
MGKOR208韓国語4B	1		◎	○		
MGKOR211韓国語研究1A	2		◎	○	○	
MGKOR212韓国語研究1B	2		◎	○	○	
MGKOR213韓国語研究2A	2		◎	○	○	
MGKOR214韓国語研究2B	2		◎	○	○	
MGKOR221韓国語演習中級A	1		◎	○	○	
MGKOR222韓国語演習中級B	1		◎	○	○	
MGJPN205日本語3A	2		◎	○		
MGJPN206日本語3B	2		◎	○		
MGJPN207日本語4A	2		◎	○		
MGJPN208日本語4B	2		◎	○		
MGJPN211日本語研究1A	2		◎	○		
MGJPN212日本語研究1B	2		◎	○		
MGJPN213日本語研究2A	2		◎	○		
MGJPN214日本語研究2B	2		◎	○		
MGJPN215日本語研究3A	2		◎	○		
MGJPN216日本語研究3B	2		◎	○		
MGJPN225集中日本語3A	1		◎	○		
MGJPN226集中日本語3B	1		◎	○		
MGJPN227集中日本語4A	1		◎	○		
MGJPN228集中日本語4B	1		◎	○		
MGJPN233実践日本語中級SA	1		◎	○		
MGJPN234実践日本語中級SB	1		◎	○		
MGJPN235実践日本語中級WA	1		◎	○		
MGJPN236実践日本語中級WB	1		◎	○		
MGJPN237実践日本語上級SA	1		◎	○		
MGJPN238実践日本語上級SB	1		◎	○		
MGJPN239実践日本語上級WA	1		◎	○		
MGJPN240実践日本語上級WB	1		◎	○		
MGS1G202手話2	1		◎	○		
3. 発展科目						
MGENG215英語研究3A	2	○	◎	○	○	
MGENG216英語研究3B	2	○	◎	○	○	
MGFRE315ﾌﾗﾝｽ語研究3A	2	○	◎	○	○	
MGFRE316ﾌﾗﾝｽ語研究3B	2	○	◎	○	○	
MGFRE317ﾌﾗﾝｽ語研究4A	3	○	◎	○	○	
MGFRE318ﾌﾗﾝｽ語研究4B	3	○	◎	○	○	
MGCHN315中国語研究3A	2	○	◎	○	○	

授業科目名	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
MGCHN316中国語研究3B	2	○	◎	○	○	
MGCHN317中国語研究4A	3	○	◎	○	○	
MGCHN318中国語研究4B	3	○	◎	○	○	
MGGER315トイ語研究3A	2	○	◎	○	○	
MGGER316トイ語研究3B	2	○	◎	○	○	
MGGER317トイ語研究4A	3	○	◎	○	○	
MGGER318トイ語研究4B	3	○	◎	○	○	
MGSPN315スペイン語研究3A	2	○	◎	○	○	
MGSPN316スペイン語研究3B	2	○	◎	○	○	
MGSPN317スペイン語研究4A	3	○	◎	○	○	
MGSPN318スペイン語研究4B	3	○	◎	○	○	
MGRUS315ロシア語研究3A	2	○	◎	○	○	
MGRUS316ロシア語研究3B	2	○	◎	○	○	
MGRUS317ロシア語研究4A	3	○	◎	○	○	
MGRUS318ロシア語研究4B	3	○	◎	○	○	
MGKOR315韓国語研究3A	2	○	◎	○	○	
MGKOR316韓国語研究3B	2	○	◎	○	○	
MGKOR317韓国語研究4A	3	○	◎	○	○	
MGKOR318韓国語研究4B	3	○	◎	○	○	
MGJPN329集中日本語5A	1		◎	○		
MGJPN330集中日本語5B	1		◎	○		
情報処理系科目群						
1. 基礎科目						
MGCOM101コンピュータリテラシー-1	1	◎	○		○	
MGCOM102コンピュータリテラシー-2	1	◎	○		○	
2. 応用科目						
MGCOM201コンピュータリテラシー研究1A	1	◎	○		○	
MGCOM202コンピュータリテラシー研究1B	1	◎	○		○	
MGCOM203コンピュータリテラシー研究2A	1	◎	○		○	
MGCOM204コンピュータリテラシー研究2B	1	◎	○		○	
MGCOM211情報科学1	1	◎	○		○	
MGCOM212情報科学2	1	◎	○		○	
MGCOM213情報科学3	1	◎	○		○	
MGCOM214情報科学4	1	◎	○		○	
人文科学系科目群						
1. 基礎科目						
MGPHI101哲学史1	1	◎	○	○	○	
MGPHI102哲学史2	1	◎	○	○	○	
MGETH101倫理学入門1	1	◎	○	○	○	
MGETH102倫理学入門2	1	◎	○	○	○	
MGLOG101論理学概論1	1	◎	○	○	○	
MGLOG102論理学概論2	1	◎	○	○	○	
MGLIN101言語科学の基礎1	1	◎	○	○	○	
MGLIN102言語科学の基礎2	1	◎	○	○	○	
MGLIN103言語科学の基礎3	1	◎	○	○	○	
MGLIN104言語科学の基礎4	1	◎	○	○	○	
MGPSY101心理学入門1	1	◎	○		○	
MGPSY102心理学入門2	1	◎	○		○	
MGEDU101教育学の基礎1	1	◎				
MGEDU102教育学の基礎2	1	◎				
MGART101芸術学の基礎1	1	◎	○			
MGART102芸術学の基礎2	1	◎	○			
MGJPL101日本文学概論1	1	◎	○	○		
MGJPL102日本文学概論2	1	◎	○	○		
MGJPS101日本文化論入門1	1	◎		○	○	
MGJPS102日本文化論入門2	1	◎		○	○	
MGJPS103日本文化論入門3	1	◎		○	○	
MGJPS104日本文化論入門4	1	◎		○	○	
2. 応用科目						
MGCHR201聖書の世界1	2	◎				
MGCHR202聖書の世界2	2	◎				
MGCHR203聖書の世界3	2	◎				
MGCHR204聖書の世界4	2	◎				

授業科目名	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
MGCHR211キリスト教の思想と文化1	1				◎	
MGCHR212キリスト教の思想と文化2	1				◎	
MGCHR213キリスト教の思想と文化3	1				◎	
MGCHR214キリスト教の思想と文化4	1				◎	
MGCHR221宗教史1	1	◎				
MGCHR222宗教史2	1	◎				
MGCHR223宗教史3	1	◎				
MGCHR224宗教史4	1	◎				
MGCHR231現代社会とキリスト教1	1				○	◎
MGCHR232現代社会とキリスト教2	1				○	◎
MGCHR233現代社会とキリスト教3	1				○	◎
MGCHR234現代社会とキリスト教4	1				○	◎
MGPFI201哲学各論1	1	○	◎	○	○	
MGPFI202哲学各論2	1	○	◎	○	○	
MGPFI211科学思想1	1	○	◎	○	○	
MGPFI212科学思想2	1	○	◎	○	○	
MGETH201倫理学各論1	1	○	◎	○	○	
MGETH202倫理学各論2	1	○	◎	○	○	
MGETH203倫理学各論3	1	○	◎	○	○	
MGETH204倫理学各論4	1	○	◎	○	○	
MGLOG201伝統論理学1	1	○	◎	○	○	
MGLOG202伝統論理学2	1	○	◎	○	○	
MGLOG211現代論理学1	1	○	◎	○	○	
MGLOG212現代論理学2	1	○	◎	○	○	
MGPSY201心理学各論1	2	○	◎		○	
MGPSY202心理学各論2	2	○	◎		○	
MGPSY203心理学各論3	2	○	◎		○	
MGPSY204心理学各論4	2	○	◎		○	
MGART201芸術学各論1	1	◎	○			
MGART202芸術学各論2	1	◎	○			
MGART203芸術学各論3	1	◎	○			
MGART204芸術学各論4	1	◎	○			
MGART205芸術学各論5	1	◎	○			
MGART206芸術学各論6	1	◎	○			
MGJPL201日本文学講読1	1	○	○	◎		
MGJPL202日本文学講読2	1	○	○	◎		
MGJPL203日本文学講読3	1	○	○	◎		
MGJPL204日本文学講読4	1	○	○	◎		
MGJPS201日本文化特論1	1			◎		○
MGJPS202日本文化特論2	1			◎		○
社会科学系科目群						
1. 基礎科目						
MGLAW101法学(日本国憲法を含む) 1	1	◎	○		○	○
MGLAW102法学(日本国憲法を含む) 2	1	◎	○		○	○
MGPOS101政治学1	1	◎	○		○	○
MGPOS102政治学2	1	◎	○		○	○
MGSOC101社会学理論の基礎1	1	○	◎	○		
MGSOC102社会学理論の基礎2	1	○	◎	○		
MGSOC111文化とアイデンティティの社会学入門1	1		◎	○		
MGSOC112文化とアイデンティティの社会学入門2	1		◎	○		
MGSOC121生命とアイデンティティの社会学入門1	1		◎	○		
MGSOC122生命とアイデンティティの社会学入門2	1		◎	○		
MGSOC131環境とコミュニティの社会学入門1	1		◎	○		
MGSOC132環境とコミュニティの社会学入門2	1		◎	○		
MGSWS101社会福祉学1	1	◎		○		○
MGSWS102社会福祉学2	1	◎		○		○
MGECON101経済学1	1	◎		○	○	○
MGECON102経済学2	1	◎		○	○	○
MGSTA101統計学1	1	◎				○
MGSTA102統計学2	1	◎				○
MGSTA103統計学3	1	◎				○
MGSTA104統計学4	1	◎				○
MGGE0101人文地理学入門1	1	◎	○			

授業科目名	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
MGGE0102人文地理学入門2	1	◎	○			
MGANT101文化人類学入門1	1	○	○	◎		○
MGANT102文化人類学入門2	1	○	○	◎		○
MGSOS101社会科学概論1	1	○	○	◎		○
MGSOS102社会科学概論2	1	○	○	◎		○
MGSOS103社会科学概論3	1	○	○	◎		○
MGSOS104社会科学概論4	1	○	○	◎		○
2. 応用科目						
MGHIS201歴史学1	1	○	○	◎		○
MGHIS202歴史学2	1	○	○	◎		○
MGHIS203歴史学3	1	○	○	◎		○
MGHIS204歴史学4	1	○	○	◎		○
MGHIS205歴史学5	1	○	○	◎		○
MGHIS206歴史学6	1	○	○	◎		○
MGHIS211歴史学の世界1	1	○	○	◎		○
MGHIS212歴史学の世界2	1	○	○	◎		○
MGGE0201人文地理学1	1	○	◎	○		
MGGE0202人文地理学2	1	○	◎	○		
MGGE0203人文地理学3	1	○	◎	○		
MGGE0204人文地理学4	1	○	◎	○		
MGGE0205人文地理学5	1	○	◎	○		
MGGE0206人文地理学6	1	○	◎	○		
MGANT201文化人類学各論1	1	○	○	◎		○
MGANT202文化人類学各論2	1	○	○	◎		○
自然科学系科目群						
1. 基礎科目						
MGMAT101数学入門1	1	◎	○		○	
MGMAT102数学入門2	1	◎	○		○	
MGMAT111数学1	1	◎	○		○	
MGMAT112数学2	1	◎	○		○	
MGMAT113数学3	1	◎	○		○	
MGMAT114数学4	1	◎	○		○	
MGPHY101物理学入門1	1	◎	○		○	○
MGPHY102物理学入門2	1	◎	○		○	○
MGPHY103物理学入門3	1	◎	○		○	○
MGPHY121物理学方法論A	1	○	○		○	◎
MGPHY122物理学方法論B	1	○	○		○	◎
MGCHE101化学入門1	1	◎	○			
MGCHE102化学入門2	1	◎	○			
MGCHE121化学方法論A	1	○			○	◎
MGCHE122化学方法論B	1	○			○	◎
MGBIO101生物学入門1	1	◎	○		○	○
MGBIO102生物学入門2	1	◎	○		○	○
MGBIO121生物学方法論A	1	○	○		○	◎
MGBIO122生物学方法論B	1	○	○		○	◎
MGLIS101生命科学入門1	1	◎	○			
MGLIS102生命科学入門2	1	◎	○			
MGLIS121生命科学方法論A	1	○	○		○	◎
MGLIS122生命科学方法論B	1	○	○		○	◎
2. 応用科目						
MGMAT211数学特論1	1	○	○		◎	
MGMAT212数学特論2	1	○	○		◎	
MGPHY201現代の物理学1	1	◎	○		○	○
MGPHY202現代の物理学2	1	◎	○		○	○
MGPHY203現代の物理学3	1	◎	○		○	○
MGPHY211物理学特論	1	○	○		○	◎
MGCHE201現代の化学1	1	◎	○			
MGCHE202現代の化学2	1	◎	○			
MGCHE203現代の化学3	1	◎	○			
MGCHE204現代の化学4	1	◎	○			
MGBIO201現代の生物学1	1	◎	○		○	○
MGBIO202現代の生物学2	1	◎	○		○	○
MGBIO203現代の生物学3	1	◎	○		○	○

授業科目名	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
MGBI0204現代の生物学4	1	◎	○		○	○
MGBI0205現代の生物学5	1	◎	○		○	○
MGBI0211生物学特論	1	○	○		○	◎
MGLIS201生命科学各論1	1	◎	○			
MGLIS202生命科学各論2	1	◎				
MGLIS203生命科学各論3	1	◎	○			
MGLIS211生命科学特論	1	○	○		○	◎
健康・スポーツ科学系科目群						
1. 基礎科目						
MGHSS101健康科学概論1	1	◎			○	○
MGHSS102健康科学概論2	1	◎			○	○
MGHSS111スポーツ科学概論1	1	◎			○	○
MGHSS112スポーツ科学概論2	1	◎			○	○
MGHSS121スポーツ社会学概論1	1	◎			○	○
MGHSS122スポーツ社会学概論2	1	◎			○	○
MGHSS131スポーツ方法学1	1		◎	○	○	○
MGHSS132スポーツ方法学2	1		◎	○	○	○
MGHSS133スポーツ方法学3	1		◎	○	○	○
MGHSS134スポーツ方法学4	1		◎	○	○	○
MGHSS141シースペース研究1A	1		◎	○	○	○
MGHSS143シースペース研究2A	1		◎	○	○	○
MGHSS145シースペース研究3A	1		◎	○	○	○
2. 応用科目						
MGHSS201トレーニング科学理論・実習1	1	○		○	○	◎
MGHSS202トレーニング科学理論・実習2	1	○		○	○	◎
MGHSS211バイオメカニクス理論・実習1	1	○			○	◎
MGHSS212バイオメカニクス理論・実習2	1	○			○	◎
MGHSS242シースペース研究1B	1		○	◎		○
MGHSS244シースペース研究2B	1		○	◎	○	○
MGHSS246シースペース研究3B	1		○	◎	○	○
総合教育系科目群						
1. 基礎科目						
MGIND101現代世界と人間1	1		○	◎	○	
MGIND102現代世界と人間2	1		○	◎	○	
MGIND103現代世界と人間3	1		○	◎	○	
MGIND104現代世界と人間4	1		○	◎	○	
MGIND105現代世界と人間5	1		○	◎	○	
MGIND106現代世界と人間6	1		○	◎	○	
MGIND111現代社会と教養1	1		○	◎	○	
MGIND112現代社会と教養2	1		○	◎	○	
MGIND121多文化共生入門1	1		○	◎	○	○
MGIND122多文化共生入門2	1		○	◎	○	○
MGIND131グローバルシチズンシップ入門1	1		○	○	◎	○
MGIND132グローバルシチズンシップ入門2	1		○	○	◎	○
MGMGS101明治学院研究1	1	◎				
MGIND141現代平和研究1	1	○	○	◎	○	
MGIND142現代平和研究2	1	○	○	◎	○	
MGIND143現代平和研究3	1	○	○	◎		○
MGENV101環境学各論1	1	◎	○		○	
MGENV102環境学各論2	1	◎	○		○	
MGENV103環境学各論3	1	○	○		○	◎
MGENV104環境学各論4	1	○	○		○	◎
MGSUS101サステイナビリティ学1	1		◎	○	○	○
MGSUS102サステイナビリティ学2	1		◎	○	○	○
MGSUS103サステイナビリティ学3	1		◎	○	○	○
MGSUS104サステイナビリティ学4	1		◎	○	○	○
MGVOL101ボランティア学入門1	1		○	◎		○
MGVOL102ボランティア学入門2	1		○	◎		○
MGVOL103ボランティア学入門3	1		○	◎		○
MGVOL104ボランティア学入門4	1		○	◎		○
MGVOL111グローバル社会と市民活動入門1	1		○	◎	○	○
MGVOL112グローバル社会と市民活動入門2	1		○	◎	○	○
MGVOL121ボランティア・市民活動論(国内)1A	1		○	◎	○	

授業科目名	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
MGVOL122本「ランティア」市民活動論(海外)2A	1		○	◎	○	
MGACW1017かて「ミック・ライティング」の基礎	1		◎	○	○	
MGLCD101ライフデ「ザ」イン1	1		○	○	◎	○
MGLCD111キャリアデ「ザ」イン1	2		○	◎	○	○
MGCCS101日本の社会と文化1A	1		○	◎	○	
MGCCS102日本の社会と文化1B	1		○	◎	○	
MGCCS103日本の社会と文化2A	1		○	◎	○	
MGCCS104日本の社会と文化2B	1		○	◎	○	
MGCCS105日本の社会と文化3A	1		○	◎	○	
MGCCS106日本の社会と文化3B	1		○	◎	○	
MGCCS111異文化コミュニケーション研究A	1		○	◎	○	
MGCCS112異文化コミュニケーション研究B	1		○	◎	○	
MGPI0101オカ「ン」実習1	2	◎				
MGRES101ヨーロッパ研究(短期留学)	1	○	◎		○	
MGRES102イギリス研究(短期留学)	1	○	◎		○	
MGRES103スペイン研究(短期留学)	1	○	◎		○	
MGRES104ドイツ研究(短期留学)	1	○	◎		○	
MGRES105フランス研究(短期留学)	1	○	◎		○	
MGRES106アメリカ研究(短期留学)	1	○	◎		○	
MGRES107カナダ研究(短期留学)	1	○	◎		○	
MGRES108韓国研究(短期留学)	1	○	◎		○	
MGRES109中国研究(短期留学)	1	○	◎		○	
MGRES110オーストラリア研究(短期留学)	1	○	◎		○	
MGRES111東南アジア研究(短期留学)	1	○	◎		○	
MGITS101海外インターンシップ 課題研究A	1		○	○	○	◎
MGITS102海外インターンシップ 課題研究B	1		○	○	○	◎
2. 応用科目						
MGIND201多文化共生各論1	1		○	◎	○	○
MGIND202多文化共生各論2	1		○	◎	○	○
MGIND203多文化共生各論3	1		○	◎	○	○
MGIND204多文化共生各論4	1		○	◎	○	○
MGIND211グローバル・リサーチ「ン」各論1	1		○	○	◎	○
MGIND212グローバル・リサーチ「ン」各論2	1		○	○	◎	○
MGIND213グローバル・リサーチ「ン」各論3	1		○	○	◎	○
MGIND214グローバル・リサーチ「ン」各論4	1		○	○	◎	○
MGMGS202明治学院研究2	1	◎				
MGMGS203明治学院研究3	1	◎				
MGVOL201グローバル社会と市民活動1	1		○	○	◎	○
MGVOL202グローバル社会と市民活動2	1		○	○	○	◎
MGVOL223本「ランティア」市民活動論(国内)1B	2		○	○	◎	○
MGVOL224本「ランティア」市民活動論(海外)2B	2		○	○	◎	○
MGVOL231本「ランティア」市民活動実習(国内)	2		○	○	○	◎
MGVOL232本「ランティア」市民活動実習(海外)	2		○	○	○	◎
MGACW2017かて「ミック・ライティング」演習1	1		◎	○	○	
MGACW2027かて「ミック・ライティング」演習2(留学生専用)	1		◎	○	○	
MGLCD202ライフデ「ザ」イン2	2		○	○	◎	○
MGLCD203ライフデ「ザ」イン3	3		○	○	◎	○
MGLCD204ライフデ「ザ」イン4	3		○	○	◎	○
MGLCD212キャリアデ「ザ」イン2	2		○	◎	○	○
MGIND221スタディーズ1	1		◎	○		
MGIND222スタディーズ2	1		◎	○		
MGIND223スタディーズ3	1		◎	○		
MGIND224スタディーズ4	1		◎	○		
MGPI0202オカ「ン」実習2	2	◎				
MGINT201Japanese Arts and Culture 1	1	◎	○	○		
MGINT202Japanese Arts and Culture 2	1	◎	○	○		
MGINT203Japanese Arts and Culture 3	1	◎	○	○		
MGINT204Japanese Arts and Culture 4	1	◎	○	○		
MGINT205Japanese Arts and Culture 5	1	◎	○	○		
MGINT206Japanese Arts and Culture 6	1	◎	○	○		
MGINT211Japanese History 1	1	◎	○	○		
MGINT212Japanese History 2	1	◎	○	○		
MGINT213Japanese History 3	1	◎	○	○		

授業科目名	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
MGINT214Japanese History 4	1	◎	○	○		
MGINT215Japanese History 5	1	◎	○	○		
MGINT216Japanese History 6	1	◎	○	○		
MGINT221Japanese Society 1	1	◎	○	○		
MGINT222Japanese Society 2	1	◎	○	○		
MGINT223Japanese Society 3	1	◎	○	○		
MGINT224Japanese Society 4	1	◎	○	○		
MGINT225Japanese Society 5	1	◎	○	○		
MGINT226Japanese Society 6	1	◎	○	○		
MGINT231Multilingualism and Multicultural	1	◎	○	○		
MGINT232Multilingualism and Multicultural	1	◎	○	○		
MGINT233Multilingualism and Multicultural	1	◎	○	○		
MGINT234Multilingualism and Multicultural	1	◎	○	○		
MGINT241Current Issues 1	1	◎	○	○		
MGINT242Current Issues 2	1	◎	○	○		
MGINT243Current Issues 3	1	◎	○	○		
MGINT244Current Issues 4	1	◎	○	○		
MGITS201海外インターシッブ A	1		○	○	○	◎
MGITS202海外インターシッブ B	1		○	○	○	◎
3. 発展科目						
MGVOL301本 [*] ランティ ⁷ ・市民活動研究(国内)	2		○		◎	○
MGVOL302本 [*] ランティ ⁷ ・市民活動研究(海外)	2		○		◎	○
MGVOL311本 [*] ランティ ⁷ 学研究A	3		◎		◎	◎
MGVOL312本 [*] ランティ ⁷ 学研究B	3		◎		◎	◎
MGSEM301アジ ⁷ ア・日本研究A	3		◎	○	○	○
MGSEM302アジ ⁷ ア・日本研究B	3		◎	○	○	○
MGSEM311ヨーロッパ文化圏研究A	3		◎	○	○	○
MGSEM312ヨーロッパ文化圏研究B	3		◎	○	○	○
MGSEM321現代科学研究A	3		○	○	◎	○
MGSEM322現代科学研究B	3		○	○	◎	○
MGSEM331現代社会研究A	3		◎	○	○	○
MGSEM332現代社会研究B	3		◎	○	○	○
特別学科科目						
社会学概論A	1	◎	○	○		
社会学概論B	1	◎	○	○		

[履修上の注意]

- ①A・Bあるいは1～6はそれぞれ独立した科目である。なお、原則としてA・Bは、同一曜時間の同一担当者のクラスを履修することとし、同一曜時間に複数クラスが開講されている場合にも、いずれか1クラスを定めて履修するものとする。
- ②A・Bは原則としてその順序で履修する（いずれかのみ履修の可否、あるいは両方の履修の可否は科目ごとに指示することとするが、1～6は特に指示された場合を除き、どの順序で履修しても差し支えない。また、1～6の全てを履修する必要はない。なお、同学期中に1～6の番号の異なる複数の授業を履修してもよい。
- ③以下の表の配当年次とは、その科目を履修できる下限の年次を示したものである。1年次配当科目とは、1年次以上の学生が履修できることを意味している。
- ④特に指示がある科目を除き、同一科目が異なる曜時間に複数開講されている場合でも、履修できるのは1つだけである。
(例:「キリスト教の思想と文化1」が月曜1限と月曜2限に開講されている場合、履修できるのは片方のみ)
- ⑤修得可能な単位数は、学科ごとに定められている。『履修要項』での説明を参照すること。
- ⑥履修可能なクラスの開講学期等については、Port Hepburnの時間割表(開講科目情報)で、各自が所属する学科・入学年度の時間割表を参照すること。
- ⑦学生は自身の興味関心にしたがって所定のルールの範囲内で自由に履修することができるが、関連する科目を有機的に履修することにより、学修の幅をもたせることが可能である。その理想的な「モデル」として各テーマに沿った「仮想コース」(「アジア地域研究入門コース」・「Do for Others とボランティア・市民活動コース」・「多文化共生コース」・「持続可能な社会コース」)が設定されている。なお、詳細は教養教育センターホームページを参照すること。

[必修科目]

必修および選択必修科目。以下の科目 1~3 について、それぞれ所定の単位を修得すること。

1. [コア科目]

全学必修のキリスト教関連科目。A・Bそれぞれ2単位、計4単位を修得しなければならない。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGCHR	101~102	キリスト教の基礎 A・B	1	各 2	1 年次

2. [言語系科目群]

必修である英語科目と選択必修の初習語科目。

社会学部各学科の履修一覧

	英語 コミュニケーション	フランス語	中国語	ドイツ語	スペイン語	ロシア語	韓国語	日本語
社会学科	● 必修	◎	◎	◎	◎	◎	◎	留学生対象 科目
	初習語として、いずれか一言語（4単位）を選択必修							
社会福祉学科	● 必修	◎	◎	◎	◎	◎	◎	留学生対象 科目
	初習語として、いずれか一言語（4単位）を選択必修							

- 表においては、●：必修 ◎：選択必修を表す。
- 英語科目については、「英語コミュニケーション」1A・B、2A・Bそれぞれ各1単位、計4単位を修得しなければならない。
- 初習語とは、フランス語、中国語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、韓国語をいう。いずれか1言語を選択し、その言語について1A・B、2A・Bの各1単位、計4単位を修得しなければならない。可能な限り1年次での履修と単位修得が望ましい。
- 「日本語」1A・B、2A・Bは留学生のための必修外国語科目であり、一般学生は履修することができない。留学生は「日本語」1A・B、2A・B 4単位を必修とし、さらに日本語以外の言語（同一言語、ただし母語は除く）から4単位を必修とする。
- 原則として、入学時に選択した「初習語」は他の言語へ変更することはできない。ただし、特別の事情があり、リエンテーション期間に申し出た者については、科目責任者が判断する。

言語系必修・選択必修科目

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGENG	101～104	英語コミュニケーション 1A・1B・2A・2B	1	各1	1年次
MGFRE	101～104	フランス語 1A・1B・2A・2B	1	各1	1年次
MGCHN	101～104	中国語 1A・1B・2A・2B	1	各1	1年次
MGGER	101～104	ドイツ語 1A・1B・2A・2B	1	各1	1年次
MGSPN	101～104	スペイン語 1A・1B・2A・2B	1	各1	1年次
MGRUS	101～104	ロシア語 1A・1B・2A・2B	1	各1	1年次
MGKOR	101～104	韓国語 1A・1B・2A・2B	1	各1	1年次
MGJPN	101～104	日本語 1A・1B・2A・2B	1	各1	1年次

・英語以外の言語について、大学入学以前に既に学習している言語を選択する際には必ず教務課窓口に相談すること。

・相談の結果、許可された者は上記の言語 1A・1B・2A・2B ではなく、3A・3B・4A・4B を選択必修科目として履修することになる。

3. [情報処理系科目]

コンピュータに関する選択必修科目。

- ・「コンピュータリテラシー」1は入門クラス、「コンピュータリテラシー」2は初級クラスである。学生は、自らの習熟度を判断して1または2を選択し、2単位を修得しなければならない。なお、それぞれの授業内容については、シラバスを参照すること。
- ・入学時に中級以上の技能を有する学生については、情報処理系科目群「コンピュータリテラシー研究」1A・1B・2A・2Bから2単位を修得することにより、必修の2単位に振り替えることができる。ただし、「コンピュータリテラシー」1・2と「コンピュータリテラシー研究」1A・1Bは同時に履修することはできない。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGCOM	101～102	コンピュータリテラシー 1・2	1	各2	1年次

[選択科目]

以下の諸科目から自由に選択して履修することができる。多様な科目を選択してもよいし、同一分野の科目を集中的に選択してもよい。学生それぞれの関心に即して履修計画を立てることが可能である。なお、社会学科生、社会福祉学科生については、学科によって定められた科目の単位を修得しなければならない。「履修の方法」の頁の「卒業までに必要な単位数」の記載事項に注意すること。

- ・各科目ごとの内容は、シラバスに（授業テーマを付して）公表される。履修に際してはそれらを参照すること。
- ・履修者数が制限されることがあるので、履修希望者はシラバスを参照すること。

1. [言語系科目群]

※A・Bは独立した科目であるが、可能な限り同一曜時間の同一担当者のクラスを履修することとし、同一曜時間に複数クラスが開講されている場合にも、いずれか1クラスを定めて履修するものとする。

「〇〇語演習」

- ・必修科目として選択した初習語と同じ言語について、コミュニケーション力向上を目指す。
- ・この科目の単位修得をもって、初習語必修単位に振り替えることはできない。
- ・「〇〇語」3A・3B・4A・4Bを選択必修科目として履修を許可された者は、同一言語の「〇〇語演習初級」A・Bは履修できない。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGFRE	111～112	フランス語演習初級 A・B	1	各1	1年次
	221～222	フランス語演習中級 A・B	2	各1	1年次
MGCHN	111～112	中国語演習初級 A・B	1	各1	1年次
	221～222	中国語演習中級 A・B	2	各1	1年次
MGGER	111～112	ドイツ語演習初級 A・B	1	各1	1年次
	221～222	ドイツ語演習中級 A・B	2	各1	1年次
MGSPN	111～112	スペイン語演習初級 A・B	1	各1	1年次
	221～222	スペイン語演習中級 A・B	2	各1	1年次
MGKOR	111～112	韓国語演習初級 A・B	1	各1	1年次
	221～222	韓国語演習中級 A・B	2	各1	1年次

「〇〇語研究」・「〇〇語特別研究」

- ・英語および必修科目で選択した初習語について、次年度以降も学修を継続することを希望する学生のためのインテングラスである。「〇〇語研究」1A・B、2A・B、3A・Bは2年次から、「〇〇語研究」4A・Bは3年次以上から履修が可能となる。いずれも各学期2単位科目である。
- ・履修に際し一定の語学力が必要とされるため、「英語コミュニケーション」1A・B、2A・Bの計4単位を未修得の者が、以下の「英語研究」を履修することは望ましくない。また、「英語コミュニケーション」が必修ではない学生が履修を希望する場合は、初回の授業に必ず出席して履修許可を得ることが必要である。
- ・必修科目で選択した「初習語」1A・B、2A・Bの計4単位を未修得の者が、以下の「〇〇語研究」を履修することは望ましくない。
- ・「英語特別研究」A・Bは、1年次で「英語コミュニケーション」に加えてリテラー（読み・書き）を強化することを希望する学生のためのインテングラスである。
- ・これらの科目の単位修得をもって、初習語必修単位に振り替えることはできない。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGENG	201～202	英語特別研究 A・B	2	各 2	1 年次
	211～216	英語研究 1A・1B・2A・2B・3A・3B	2	各 2	2 年次
MGFRE	211～214	フランス語研究 1A・1B・2A・2B	2	各 2	2 年次
	315～316	フランス語研究 3A・3B	3	各 2	2 年次
	317～318	フランス語研究 4A・4B	3	各 2	3 年次
MGCHN	211～214	中国語研究 1A・1B・2A・2B	2	各 2	2 年次
	315～316	中国語研究 3A・3B	3	各 2	2 年次
	317～318	中国語研究 4A・4B	3	各 2	3 年次
MGGER	211～214	ドイツ語研究 1A・1B・2A・2B	2	各 2	2 年次
	315～316	ドイツ語研究 3A・3B	3	各 2	2 年次
	317～318	ドイツ語研究 4A・4B	3	各 2	3 年次
MGSPN	211～214	スペイン語研究 1A・1B・2A・2B	2	各 2	2 年次
	315～316	スペイン語研究 3A・3B	3	各 2	2 年次
	317～318	スペイン語研究 4A・4B	3	各 2	3 年次
MGRUS	211～214	ロシア語研究 1A・1B・2A・2B	2	各 2	2 年次
	315～316	ロシア語研究 3A・3B	3	各 2	2 年次
	317～318	ロシア語研究 4A・4B	3	各 2	3 年次
MGKOR	211～214	韓国語研究 1A・1B・2A・2B	2	各 2	2 年次
	315～316	韓国語研究 3A・3B	3	各 2	2 年次
	317～318	韓国語研究 4A・4B	3	各 2	3 年次

「〇〇語」 3A・3B・4A・4B

・必修科目として選択した言語の既習者用のインテンブクラスであり、国際学科生以外は自由に履修できない。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGFRE	205～208	フランス語 3A・3B・4A・4B	2	各 1	1 年次
MGCHN	205～208	中国語 3A・3B・4A・4B	2	各 1	1 年次
MGGER	205～208	ドイツ語 3A・3B・4A・4B	2	各 1	1 年次
MGSPN	205～208	スペイン語 3A・3B・4A・4B	2	各 1	1 年次
MGRUS	205～208	ロシア語 3A・3B・4A・4B	2	各 1	1 年次
MGKOR	205～208	韓国語 3A・3B・4A・4B	2	各 1	1 年次

「〇〇語の基礎」 および西洋古典語研究

・必修および選択必修以外の言語について、基礎的な学修を希望する学生のためのインテンブクラスである。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGITA	101～102	イタリア語の基礎 A・B	1	各 1	1 年次
MGARB	101～102	アラビア語の基礎 A・B	1	各 1	1 年次
MGTHA	101～102	タイ語の基礎 A・B	1	各 1	1 年次
MGGRE	101～102	ギリシア語研究 A・B	1	各 2	1 年次
MGLAT	101～102	ラテン語研究 A・B	1	各 2	1 年次

手話

- ・手話の知識を学び、基本的な運用能力を身につける。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGSIG	101	手話 1	1	2	1 年次
	202	手話 2	2	2	1 年次

外国文化論科目

- ・それぞれの国の文化、社会について知識を深め、言語学習への興味を持たせるための入門的科目と、当該言語の資料にも触れながら、社会、文化についての知識を深める各論科目である。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGEUC	101～106	ヨーロッパ言語圏の文化入門 1・2・3・4・5・6	1	各 2	1 年次
	111～116	ヨーロッパ言語圏の文化各論 1・2・3・4・5・6	1	各 2	1 年次
MGASC	101～104	アジア言語圏の文化入門 1・2・3・4	1	各 2	1 年次
	111～114	アジア言語圏の文化各論 1・2・3・4	1	各 2	1 年次

留学生関連科目

- ・以下は留学生のための科目であり、一般学生は履修できない。
- ・留学生の履修については、別途ガイダンス等の説明を参照し、その指導に従うこと。
- ・「日本語研究」3A・3Bは、2年次生でも白金校舎での履修が可能である。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGJPN	205～208	日本語 3A・3B・4A・4B	2	各 1	2 年次
	211～216	日本語研究 1A・1B・2A・2B・3A・3B	2	各 2	2 年次

2. [人文科学系科目群]

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGCHR	201～204	聖書の世界 1・2・3・4	2	各 2	2 年次
	211～214	キリスト教の思想と文化 1・2・3・4	2	各 2	1 年次
	221～224	宗教史 1・2・3・4	2	各 2	1 年次
	231～234	現代社会とキリスト教 1・2・3・4	2	各 2	1 年次
MGPHI	101～102	哲学史 1・2	1	各 2	1 年次
	201～202	哲学各論 1・2	2	各 2	1 年次
	211～212	科学思想 1・2	2	各 2	1 年次
MGETH	101～102	倫理学入門 1・2	1	各 2	1 年次
	201～204	倫理学各論 1・2・3・4	2	各 2	1 年次
MGLOG	101～102	論理学概論 1・2	1	各 2	1 年次
	201～202	伝統論理学 1・2	2	各 2	1 年次
	211～212	現代論理学 1・2	2	各 2	1 年次
MGLIN	101～104	言語科学の基礎 1・2・3・4	1	各 2	1 年次
MGPSY	101～102	心理学入門 1・2	1	各 2	1 年次
	201～204	心理学各論 1・2・3・4	2	各 2	2 年次

MGEDU	101～102	教育学の基礎 1・2	1	各 2	1 年次
MGART	101～102	芸術学の基礎 1・2	1	各 2	1 年次
	201～206	芸術学各論 1・2・3・4・5・6	2	各 2	1 年次
MGJPL	101～102	日本文学概論 1・2	1	各 2	1 年次
	201～204	日本文学講読 1・2・3・4	2	各 2	1 年次
MGJPS	101～104	日本文化論入門 1・2・3・4	1	各 2	1 年次
	201～202	日本文化特論 1・2	2	各 2	1 年次

※3 年次以上で「哲学（専）」1・2 を履修するためには、「MGPHI」（哲学）、「MGETH」（倫理学）、「MGLOG」（論理学）の中から、ナンバリングのアルファベットが同一の 2 科目（計 4 単位）を修得済みでなければならない。

※「心理学各論」1～4 を履修するためには、「心理学入門」1・2 の単位修得が望ましい。

3. [社会科学系科目群]

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGLAW	101～102	法学(日本国憲法を含む) 1・2	1	各 2	1 年次
MGPOS	101～102	政治学 1・2	1	各 2	1 年次
MGSOC	101～102	社会学理論の基礎 1・2	1	各 2	1 年次
	111～112	文化とメディアの社会学入門 1・2	1	各 2	1 年次
	121～122	生命とアイデンティティの社会学入門 1・2	1	各 2	1 年次
	131～132	環境とコミュニティの社会学入門 1・2	1	各 2	1 年次
MGSWS	101～102	社会福祉学 1・2	1	各 2	1 年次
MGECN	101～102	経済学 1・2	1	各 2	1 年次
MGSTA	101～104	統計学 1・2・3・4	1	各 2	1 年次
MGHIS	201～206	歴史学 1・2・3・4・5・6	2	各 2	1 年次
	211～212	歴史学の世界 1・2	2	各 2	1 年次
MGGEO	101～102	人文地理学入門 1・2	1	各 2	1 年次
	201～206	人文地理学 1・2・3・4・5・6	2	各 2	1 年次
MGANT	101～102	文化人類学入門 1・2	1	各 2	1 年次
	201～202	文化人類学各論 1・2	2	各 2	1 年次
MGSOS	101～104	社会科学概論 1・2・3・4	1	各 2	1 年次

4. [自然科学系科目群]

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGMAT	101～102	数学入門 1・2	1	各 2	1 年次
	111～114	数学 1・2・3・4	1	各 2	1 年次
	211～212	数学特論 1・2	2	各 2	1 年次
MGPHY	101～103	物理学入門 1・2・3	1	各 2	1 年次
	201～203	現代の物理学 1・2・3	2	各 2	1 年次
	211	物理学特論	2	2	1 年次
	121～122	物理学方法論 A・B	1	各 2	1 年次
MGCHE	101～102	化学入門 1・2	1	各 2	1 年次
	201～204	現代の化学 1・2・3・4	2	各 2	1 年次
	121～122	化学方法論 A・B	1	各 2	1 年次
MGBIO	101～102	生物学入門 1・2	1	各 2	1 年次

MGBIO	201～205	現代の生物学 1・2・3・4・5	2	各 2	1 年次
	211	生物学特論	2	2	1 年次
	121～122	生物学方法論 A・B	1	各 2	1 年次
MGLIS	101～102	生命科学入門 1・2	1	各 2	1 年次
	201～203	生命科学各論 1・2・3	2	各 2	1 年次
	211	生命科学特論	2	2	1 年次
	121～122	生命科学方法論 A・B	1	各 2	1 年次

5. [情報処理系科目群]

・以下は「コンピュータリテラシー」1および2の発展的学修科目である。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGCOM	201～204	コンピュータリテラシー研究 1A・1B・2A・2B	2	各 2	1 年次
	211～214	情報科学 1・2・3・4	2	各 2	1 年次

6. [健康・スポーツ科学系科目群]

・履修に際しては、シラバス、『明治学院共通科目 履修の手引き』を参照すること。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGHSS	101～102	健康科学概論 1・2	1	各 2	1 年次
	111～112	スポーツ科学概論 1・2	1	各 2	1 年次
	121～122	スポーツ社会学概論 1・2	1	各 2	1 年次
	131～134	スポーツ方法学 1・2・3・4	1	各 2	1 年次
	201～202	トレーニング科学理論・実習 1・2	2	各 2	1 年次
	211～212	バイオメカニクス理論・実習 1・2	2	各 2	1 年次
	141・143・145	シーズンスポーツ研究 1A・2A・3A	1	各 2	1 年次
	242・244・246	シーズンスポーツ研究 1B・2B・3B	2	各 2	1 年次

7. [総合教育系科目群]

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGIND	101～106	現代世界と人間 1・2・3・4・5・6	1	各 2	1 年次
	111～112	現代社会と教養 1・2	1	各 2	1 年次
	121～122	多文化共生入門 1・2	1	各 2	1 年次
	201～204	多文化共生各論 1・2・3・4	2	各 2	1 年次
	131～132	グローバルシチズンシップ入門 1・2	1	各 2	1 年次
	211～214	グローバルシチズンシップ各論 1・2・3・4	2	各 2	1 年次
	141～143	現代平和研究 1・2・3	1	各 2	1 年次
	221～224	スタディツアー 1・2・3・4 (注 1)	2	各 2	1 年次
MGMGS	101	明治学院研究 1	1	2	1 年次
	202～203	明治学院研究 2・3	2	各 2	1 年次
MGENV	101～104	環境学各論 1・2・3・4	1	各 2	1 年次
MGSUS	101～104	サステイナビリティ学 1・2・3・4	1	各 2	1 年次
MGVOL	101～104	ボランティア学入門 1・2・3・4	1	各 2	1 年次
MGVOL	111～112	グローバル社会と市民活動入門 1・2	1	各 2	1 年次
	201～202	グローバル社会と市民活動 1・2	2	各 2	1 年次

MGVOL	121	ボランティア・市民活動論(国内)1A	1	2	1年次
	122	ボランティア・市民活動論(海外)2A	1	2	1年次
	223	ボランティア・市民活動論(国内)1B	2	2	1年次
	224	ボランティア・市民活動論(海外)2B	2	2	2年次
	231	ボランティア・市民活動実習(国内)	2	2	1年次
	232	ボランティア・市民活動実習(海外)	2	2	2年次
	301	ボランティア・市民活動研究(国内)	3	2	2年次
	302	ボランティア・市民活動研究(海外)	3	2	2年次
MGACW	101	アカデミック・ライティングの基礎(注2)	1	2	1年次
	201	アカデミック・ライティング演習1(注2)	2	2	1年次
MGLCD	101	ライフデザイン1	1	2	1年次
	202	ライフデザイン2	2	2	2年次
	203~204	ライフデザイン3・4	2	各2	3年次
	111	キャリアデザイン1	1	2	2年次
	212	キャリアデザイン2	2	2	2年次
MGSEM	301~302	アジア・日本研究 A・B	3	各2	3年次
	311~312	ヨーロッパ文化圏研究 A・B	3	各2	3年次
	321~322	現代科学研究 A・B	3	各2	3年次
	331~332	現代社会研究 A・B	3	各2	3年次
MGPIO	101	オルガン実習1(注3)	1	2	2年次
	202	オルガン実習2(注3)	2	2	2年次
MGINT	201~206	Japanese Arts and Culture 1・2・3・4・5・6	2	各2	1年次
	211~216	Japanese History 1・2・3・4・5・6	2	各2	1年次
	221~226	Japanese Society 1・2・3・4・5・6	2	各2	1年次
	231~234	Multilingualism and Multiculturalism 1・2・3・4	2	各2	1年次
	241~244	Current Issues 1・2・3・4	2	各2	1年次
MGCCS	111~112	異文化コミュニケーション研究 A・B(注4)	1	各2	1年次

注1:「スタディーツア-」1・2・3・4は各学科で定める年間履修単位数の上限には含まれない。

注2:「アカデミック・ライティングの基礎」と「アカデミック・ライティング演習1」は同学期に履修することができない。また、「アカデミック・ライティング演習1」の単位を修得後に「アカデミック・ライティングの基礎」を履修することはできない。

注3:「オルガン実習」1・2は実習体験型の科目であり、その実施時期や授業形態について特別な条件が付されている。

注4:この科目は、「日本の社会と文化」1A・1B・2A・2B・3A・3Bにおいて、留学生の授業に一般学生が参加するために設けられた科目である。この科目の履修資格と履修上の要件については、シラバスを参照すること。

留学生関連科目

- ・以下は留学生のための科目であり、一般学生は履修できない。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGCCS	101~106	日本の社会と文化 1A・1B・2A・2B・3A・3B	1	各2	1年次
MGACW	202	アカデミック・ライティング演習2(留学生専用)	2	2	1年次

8. [特別学科科目]

- ・以下は学科専門科目のうち、資格取得等のために他学科生の履修を許可する科目である。
- ・「社会学概論」A・Bは、社会学科生のみ「学科科目」として扱われる。なお、中学(社会)、高校(公民)教育職員免許状取得のために履修する場合は、「教職課程履修要項(諸資格)」も参照すること。
- ・「社会学概論」A・Bは、社会福祉学科生は履修できない。社会福祉学科生が中学(社会)、高校(公民)教育職員免許状取得を目指す場合、または国家試験受験資格取得を目指す場合は、学科科目「社会学概論」を履修することになる。なお、これらの資格を目指す場合は、「教職課程履修要項(諸資格)」または社会学部履修要項の「国家試験受験資格」の項も参照すること。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
SGBAS	101～102	社会学概論 A・B		各 2	1 年次

[単位認定用科目]

以下の諸科目は、授業として行われる科目ではなく、留学やインターシップ等が実施された後に、本学の単位として認定するための科目である。予め履修登録をすることはできないので注意すること。

1. [短期留学認定科目]

- ・以下は、本学と協定を結ぶ海外校への短期留学について、本学が単位を認定するための科目である。短期留学を行った者以外が単位を修得することはできない。
- ・留学先によって別途配当年次が定められている場合があるので、必ず「留学ハンドブック」を確認すること。
- ・これらの科目は各学科で定める年間履修単位数の上限には含まれない。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGRES	101	ヨーロッパ研究(短期留学)	1	4	1 年次
	102	イギリス研究(短期留学)	1	4	1 年次
	103	スペイン研究(短期留学)	1	4	1 年次
	104	ドイツ研究(短期留学)	1	4	1 年次
	105	フランス研究(短期留学)	1	4	1 年次
	106	アメリカ研究(短期留学)	1	4	1 年次
	107	カナダ研究(短期留学)	1	4	1 年次
	108	韓国研究(短期留学)	1	4	1 年次
	109	中国研究(短期留学)	1	4	1 年次
	110	オセアニア研究(短期留学)	1	4	1 年次
	111	東南アジア研究(短期留学)	1	4	1 年次

2. [中期留学認定科目]

- ・以下は、本学と協定を結ぶ海外校への中期留学について、本学が単位を認定するための科目である。中期留学を行った者以外が単位を修得することはできない。
- ・留学先によって別途配当年次が定められている場合があるので、必ず「留学ハンドブック」を確認すること。
- ・これらの科目は各学科で定める年間履修単位数の上限には含まれない。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGRES	121～126	アメリカ研究(中期留学)基礎 1～6	1	各 1	1 年次
	221～226	アメリカ研究(中期留学)応用 1～6	2	各 2	1 年次
	321～326	アメリカ研究(中期留学)発展 1～6	3	各 3	1 年次

3. [海外インターンシップ 関連科目]

- ・以下は、学生が参加した各種の海外インターンシップについて、本学が単位を認定するための科目である。海外インターンシップ参加の例としては、「国連ユースボランティア」などがあるが、詳細は国際センター等の発信する掲示を参照すること。
- ・実際に海外インターンシップに参加することが決まった段階で教務課窓口にご相談し、単位認定を希望する者は、科目責任者の許可を得ること。
- ・すべての海外インターンシップが単位認定の対象となるわけではない点に留意すること。
- ・インターンシップ先によって別途配当年次が決められている場合があるので、必ず出願時に確認すること。
- ・これらの科目は各学科で定める年間履修単位数の上限には含まれない。
- ・これらの科目はP・F評価となるため、GPAには含まれない。

ナンバリング		科目名	レベル	単位数	配当年次
MGITS	101～102	海外インターンシップ課題研究 A・B	1	各 2	1 年次
	201～202	海外インターンシップ A・B	2	各 4	1 年次

社会学

《社会学部》

人材養成上の目的・教育目標

社会学部は、明治学院大学の「人材養成上の目的・教育目標」に基づき、社会学部の「人材養成上の目的・教育目標」を次のとおり定める。

社会学部は、大学として掲げる目的・教育目標を実現するため、社会学科と社会福祉学科の2学科体制のもと、設立以来「社会改良の礎石となるべき人材の育成」を追求してきた。現代社会では、「他者」を広く認識し、「他者」が生きる現実から学ぶことで醸成される柔軟かつ多様な視点、問題を深く捉える思考力、そして、社会に新しい可能性を生み出す構想力と実践力をもつ人材が求められる。したがって、人としての生活と社会の構造の関係について総合的に学ぶことに主眼を置き、その学びの意義を深く理解する「豊かな知」の修得に努め、それを応用して「社会的に実践する方法」について学ぶ、社会に貢献できる人材の育成に努める。そのために、多様な葛藤を理解し、課題として追究し、その様相を表現する力を培い、あわせて、優れた人権感覚を育むことを教育目標とする。

卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

社会学部は、明治学院大学の「卒業の認定・学位授与に関する方針」に基づき、社会学部の「人材養成上の目的・教育目標」に沿った人間を育成するため、所定の期間在学するとともに所定の単位を修得し、次の能力を身につけることを卒業認定と学位授与の要件とする。

- 1 人としての生活と社会の構造の特徴や、その両者の関係を多様な視点から構想できる知識と理解力を身につけている。
- 2 現代社会が直面する問題の解明のために、様々な調査やフィールドワークを通じて実証的に分析し、解決法を自律的に計画できる汎用的技能を身につけている。
- 3 人としての生活に積極的に参与し、社会の諸問題に専門知識を駆使しながら対峙できる態度や志向性を身につけている。
- 4 人として、多様な学問分野で必要とされる基本的リテラシーを見につけ、個人の問題から地域の問題へ、さらに世界の問題にも積極的に関心を示す視野を持ち合わせ、統合的な学習経験を活用し、課題を解決する創造的思考力を身につけている。

教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

社会学部は、明治学院大学の「教育課程の編成および実施に関する方針」に基づき、社会学部の定める「人材養成上の目的・教育目標」および「卒業の認定・学位授与に関する方針」に沿って、次のとおり「教育課程の編成および実施に関する方針」を定める。

- 1 人としての生活と社会の構造の特徴を考察できる専門科目を置く。
- 2 資料・文献の読解力、コミュニケーション力を養うための学科目を置く。
- 3 問題発見力、データ収集力、データ分析力を能動的に学び、自立した実践力・行動力を養うための少人数による学習の機会となる演習・実習科目を置く。

■社会学科

人材養成上の目的・教育目標

社会学部社会学科は、社会学部の「人材養成上の目的・教育目標」に基づき、社会学科の「人材養成上の目的・教育目標」を次のとおり定める。

社会学は、さまざまな水準で他者を認知し理解することを目指す学問である。多様な仕方で存在する他者への関心を持ち、理解し、ひいてはそこにあるさまざまな葛藤を発見・探求することが、社会的寛容性を高めることにつながる。

社会学科では、現代社会に伏在する多様な問題を発見・追究し、より望ましい社会のヴィジョンを構想し、かつそれに向けて意欲的に実践できる人材の育成を教育目標とする。いいかえれば、社会学科が目指す教育とは、学生が社会に対する好奇心を持ち他者に気づくことから、そこにある社会の多様な葛藤を理解し、課題として追究し、それを自分なりに表現する力を身につけることである。

卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

社会学部社会学科は、社会学部の「卒業の認定・学位授与に関する方針」に基づき、社会学科の「人材養成上の目的・教育目標」に沿った人間を育成するため、所定の期間在学するとともに126単位を修得し、次の能力を身につけることを卒業認定と学位授与の要件とする。

1. (社会学の基礎)

他者との出会いの場としての、あるいはそれ自体で「他者」であるところの「社会」について、そして、そこに起きる人と人との間の、それを支える人ならざるものと人との間の関係をめぐり、文化や生命、環境に関する諸問題について、実証的かつ論理的に理解し対処する一助となすべく、社会学という一専門科学の基本的考え方を身につけている。

2. (論理的思考と実証的態度)

学部段階での教育においては、「社会学科」といっても、社会学のみならず人文社会科学一般、更には自然科学とも共通する、論理的・批判的な推論法と、現場での実態調査と統計的なデータ処理を中心とした、事実を踏まえた実証的な探究法の修得が本義である。ただし「社会学科」である以上、本学科生は哲学でも心理学でもなく、まずは「社会学」を通じて以上の批判的思考法・実証的探究法を身につけている。

3. (社会学の本義)

そのうえでより積極的な意味で、哲学でも心理学でもなく、「社会学」を学ぶことの本義は、「人間が人間であること」の自明性よりはむしろ「人間とは何か」という常識、定義付け自体が「歴史的社会的な状況によって変わりうる」という非自明性、つまり「同じ人間とは思えない」異質な他者でもありうる存在としての人間について、思弁を通じてのみならず具体的な他者との出会いの場としての「社会」についての実証的探究を通して体得することにある。本学科では、特に社会調査につき、基礎的な方法論の習得から現場での調査の技法から分析技術まで、一貫したカリキュラムでの指導に注力している。本学科生は、文化や生命、環境に関する諸問題に取り組む社会学の学習を通じて、異質な他者、想像もつかない未来に対する開かれた感受性と、そうした非自明性を前に思考停止に陥らない強靱な思考力とを身につけている。

4. (表現と実践)

感受と思考の成果は、現実の行為へと、あるいは実践へと移されなければ、それこそ「社会的」に意味をもたない。そして、言語を用いて明晰に何事かを表現し、他者に伝えることが期待される。何より、自ら言語を用いて語る能力のない者には、他者の語りを理解すること、さらには言葉にならない不明確な思いや行動の意味を理解することはできない。本学科生は、文化や生命、環境の諸観点から培ってきた社会学的思考を土台に、明晰な言葉で語り、書く力を身につけている。

5. (調査リテラシー)

社会調査士資格を取得した者については、現代社会において社会調査を用いた研究もしくは実務にたずさわる職業人にふさわしい、社会調査に関する高度な専門的知識と技能を身につけている。

6. (知識・理解)

日常生活の中で誰もがぶつかる素朴な疑問や不安を幅広い教養でじっくりと考え、時代に必要とされる、望ましい

社会づくりに貢献できる人材育成力。

7. (総合的な学習経験と創造的な思考力)

個人が日常生活で出会うプライベートな問題から、グローバルで構造的な問題までを社会現象として取り上げる課題発見力。困難な社会問題に対しては、正確で体系的な理論と方法を追求しつつ、どうすれば解決できるかを考えることができる問題解決力。

教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

社会学部社会学科は、社会学部の「教育課程の編成および実施に関する方針」に基づき、社会学科の定める「人材養成上の目的・教育目標」および「卒業の認定・学位授与に関する方針」に沿って、次のとおり「教育課程の編成および実施に関する方針」を定める。

1. 導入教育

1年次において、本学科新入生は、全員「アカデミックリテラシー」という少人数のゼミナール形式の授業を卒業必須科目として履修する。ここで、新入生は文献講読の基礎的な技法、口頭ならびに文書で他者に報告するプレゼンテーションの初歩などを学ぶ。また、「社会学基礎演習」という少人数科目では、社会学の基礎知識の習得と同時に、グループワークなどの基礎を学ぶ。

2. コース制

2年次以降、本学科生は、自らの判断で選択した三つのコースにそれぞれ分属する。それは、A. さまざまなスケールで他者および自文化の理解を目指し、情報が産み出され伝達される過程を探求する「文化とメディアコース」。B. 〈生命〉と〈アイデンティティ〉をキーワードに医療をはじめ高度な科学技術を基盤に成立した現代社会の本質を解き明かしてゆく「生命とアイデンティティコース」。C. きめ細やかな他者理解を通じて、新たな〈コミュニティ〉の創造につながる〈実践力〉を養う「環境とコミュニティコース」である。このコース選択に伴い、2年次では「コース演習」というゼミナール形式の必修科目を設け、3・4年次での専門演習、そして、卒業論文に備える。さらに、2年次からコースが設定した枠組みを手掛かりに、本格的に専門科目を履修していく。

3. 演習・卒業論文

3年次に履修する「演習1」は、「アカデミックリテラシー」「コース演習」と異なり、卒業論文や将来の進路までも見据えたうえで、より専門的な研鑽を積むため、学生が自ら指導教員を選択して個別指導を受ける、少人数でのゼミナール形式の授業である。専門書の精読や専門的な社会調査から考察の材料を収集し、ゼミの仲間と議論し、自分の考えを口頭発表やレポートとして表現していく。「演習1」の延長線上に4年次に履修する「演習2」を置く。卒業論文という大学生活の集大成に取り組み、作品として仕上げる。優秀な卒業論文には、厳正な審査を経て「社会学部長賞」が授与される。

4. 社会調査士資格取得カリキュラム

本学科では社会調査士資格を取得可能である。1年次に「社会調査の基礎」「社会調査の技法」を学び、2年次に「社会統計学」「数量データ分析」「質的データ分析」「データ分析入門」から指定科目を履修し、調査の基礎を身につけ、3年次に「社会調査実習」「社会教育調査実習」を履修する。実習の各クラスは、毎年、質の高い報告書を作成している。これら社会調査関連科目の必要単位を満たすと「社会調査士」の資格申請ができ、卒業をもって学士号とともに取得できる。

5. 多文化共生ファシリテーター／サポーター認証取得カリキュラム

本学科では多文化共生ファシリテーター／サポーター認証を取得可能である。多文化共生ファシリテーターとは、移民問題やこれに付随する人権問題に対しても鋭い洞察力をもち、外国につながる人々を包摂した共生社会を生み出す担い手である。その認証を受けるためには、本学科が開講している「内なる国際化論A」「内なる国際化論B」などの指定科目より12単位以上を修得し、加えて「ボランティア実践指導」を取得することが必要である。また、多文化共生サポーターとは、所定の教室での学びを修めた学生に対して与えられる認証である。その認証を受けるためには、本学科が開講している「内なる国際化論A」「内なる国際化論B」などの指定科目より12単位以上を修得することが必要である。

なお、この認証制度の指定科目は年度によって異なるので、内なる国際化プロジェクトのWEBサイトに記載されている開講科目に関する情報を必ず確認すること。

卒業の認定・学位授与に関する方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連表(能力要件表)

学士力				知識・理解		汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				社会学科6	社会学科1	社会学科2・3・4・5	社会学科3・社会学部3	社会学科7
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力				広範な教養と、社会に貢献する人材育成力	社会学の基本的考え方	社会学、社会調査の知識・技能	開かれた感受性、社会問題に対峙する志向	課題発見力・問題解決力
授業科目名	必修 選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
〔1〕社会学基幹科目								
SGBAS101社会学概論A	選択	2	1		◎			○
SGBAS102社会学概論B	選択	2	1		◎			○
SGBAS103社会調査の基礎	選択	2	1			◎		○
SGBAS104社会調査の技法	選択	2	1			◎		○
SGBAS201社会統計学	選択	2	2		○	◎		
SGBAS202社会学特講A	選択	2	2	◎	○			
SGBAS203社会学特講B	選択	2	2	◎	○			
SGBAS204内なる国際化論A	選択	2	2				○	◎
SGBAS205内なる国際化論B	選択	2	2				○	◎
SGJOU201ジャーナリズム特論A	選択	2	2				◎	○
SGJOU202ジャーナリズム特論B	選択	2	2				◎	○
SGJAP201社会学のための日本語1	選択	2	2		◎		○	
SGJAP202社会学のための日本語2	選択	2	2		◎		○	
SGJAP203社会学のための日本語3	選択	2	2		◎		○	
SGJAP204社会学のための日本語4	選択	2	2		◎		○	
〔2〕コース科目								
SGLEC201グローバリゼーション論	選択	2	2		○			◎
SGLEC202現代の社会学	選択	2	2		○			◎
SGLEC203公共政策論	選択	2	2	◎				○
SGLEC204社会学史	選択	2	2		◎			○
SGLEC205社会行動論	選択	2	2		◎			○
SGLEC206社会倫理学	選択	2	2		◎			○
SGLEC207宗教社会学	選択	2	2		○		◎	
SGLEC208生涯学習概論A	選択	2	2				○	◎
SGLEC209生涯学習概論B	選択	2	2				○	◎
SGLEC210犯罪社会学	選択	2	2		◎			○
SGLEC211コミュニケーションの社会学	選択	2	2		◎			○
SGLEC212エスニシティ論A	選択	2	2		○		◎	
SGLEC213エスニシティ論B	選択	2	2				◎	○
SGLEC214地域社会学	選択	2	2				◎	○
SGLEC215都市社会学	選択	2	2				◎	○
SGLEC252社会階層論	選択	2	2		◎	○	○	
SGLEC216コミュニケーション論	選択	2	2	◎				○
SGLEC217比較社会学	選択	2	2		○			◎
SGLEC218文化社会学	選択	2	2	◎				○
SGLEC219メディア史	選択	2	2	◎				○
SGLEC220メディア社会論	選択	2	2	◎				○
SGLEC221映像社会学	選択	2	2	◎				○
SGLEC222アイデンティティの社会学	選択	2	2		○			◎
SGLEC223医療と身体的人类学	選択	2	2	○				◎
SGLEC224技術と人間A	選択	2	2	◎				○
SGLEC225技術と人間B	選択	2	2	◎				○
SGLEC226社会的相互行為論	選択	2	2				○	◎
SGLEC227性現象論	選択	2	2	◎	○			
SGLEC228生命の社会学	選択	2	2	◎	○			
SGLEC229暴力の論理学	選択	2	2	◎				○
SGLEC230現代コミュニティ論	選択	2	2		○		◎	
SGLEC231政治社会学A	選択	2	2		○		◎	
SGLEC232政治社会学B	選択	2	2		○		◎	
SGLEC233地域環境論	選択	2	2				○	◎
SGLEC234エスニシティの社会学	選択	2	2		○			◎
SGLEC235社会心理学	選択	2	2	◎				○
SGLEC236社会人類学A	選択	2	2		○			◎
SGLEC237社会人類学B	選択	2	2		○			◎

学士力				知識・理解		汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				社会学科6	社会学科1	社会学科2・3・4・5	社会学科3・社会学部3	社会学科7
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力				広範な教養と、社会に貢献する人材育成力	社会学の基本的考え方	社会学、社会調査の知識・技能	開かれた感受性、社会問題に対峙する志向	課題発見力・問題解決力
授業科目名	必修 選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
SGLEC238教育社会学	選択	2	2		◎			○
SGLEC239現代宗教論	選択	2	2		◎			○
SGLEC240産業社会学A	選択	2	2		◎			○
SGLEC241産業社会学B	選択	2	2		◎			○
SGLEC242子どもの歴史社会学	選択	2	2		○			◎
SGLEC243コンテンツ産業論	選択	2	2		◎			○
SGLEC244社会的ネットワーク論	選択	2	2		◎			○
SGLEC245情報社会論	選択	2	2		◎			○
SGLEC246文化社会論	選択	2	2		○			◎
SGLEC247開発と健康の社会学	選択	2	2		◎			○
SGLEC248家族社会学	選択	2	2	○	◎			
SGLEC249環境社会学	選択	2	2		◎			○
SGLEC250対人関係論	選択	2	2	◎			○	
SGLEC251ポストコロナル論	選択	2	2		○			◎
〔3〕 演習・実習科目								
SGSEM101アカデミックリテラシー	必修	2	1		◎			○
SGSEM102社会学基礎演習	選択	2	1		◎			○
SGSEM201コース演習A	選択必修	2	2	○	○	◎	○	
SGSEM202コース演習B	選択必修	2	2	○	○	◎	○	
SGSEM203コース演習C	選択必修	2	2	○	○	◎	○	
SGSEM204表現法演習	選択必修	2	2		○	◎	○	
SGDAT201質的データ分析	選択必修	2	2			◎	○	
SGDAT202数量データ分析	選択	2	2			◎	○	
SGDAT203データ分析入門	選択	2	2			◎	○	
SGREA201専門書講読	選択	2	2		◎	○		
SGREA202専門書講読(外)	選択	2	2		◎	○		
SGVOL201ボランティア実践指導	選択	4	2				○	◎
SGSEM301演習1	選択	4	3	○	○	◎		○
SGSEM302社会教育実習演習1	選択	4	3			◎	○	
SGFIE301社会教育調査実習	選択	4	3			◎	○	
SGFIE302社会調査実習	選択	4	3			◎	○	
SGSEM401演習2	選択	2	4	○	○	◎		○
SGSEM402社会教育演習2	選択	2	4	○	○	◎		○
SGGRA401卒業論文	選択	6	4	○	◎	○		○
〔4〕 隣接科目								
EEPOL331農業政策論1	選択	2	3	○				◎
EEPOL332農業政策論2	選択	2	3	○				◎
SWSPA201社会保障論A	選択	2	2	○				◎
SWSPA202社会保障論B	選択	2	2	○				◎
SWAVF201障害者福祉総論	選択	2	2	○				◎
SWAVF202共生社会の理解	選択	2	2	○				◎
SWAVF203児童福祉論A	選択	2	2	○				◎
SWAVF204高齢者福祉論A	選択	2	2	○				◎
SWAVF206身体障害者福祉論	選択	2	2	○				◎
SWAVF207知的障害者福祉論	選択	2	2	○				◎
SWSPA302権利擁護と成年後見制度	選択	2	3	○				◎
SWSPA303国際社会保障論	選択	2	3	○				◎
SWSPA304Welfare States	選択	2	3	○				◎
SWSPA305公的扶助論A	選択	2	3	○				◎
SWSPA306公的扶助論B	選択	2	3	○				◎
SWSPA307福祉行政と福祉計画	選択	2	3	○				◎
SWSPA308共生社会の法と人権	選択	2	3	○				◎
SWSPA309ソーシャルインクルージョンの政策	選択	2	3	○				◎
SWAVF301児童福祉論B	選択	2	3	○				◎
SWAVF303高齢者福祉論B	選択	2	3	○				◎
SWAVF307家庭福祉論	選択	2	3	○				◎
SWAVF308女性福祉論	選択	2	3	○				◎

学士力				知識・理解		汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				社会学科6	社会学科1	社会学科2・3・4・5	社会学科3・社会学部3	社会学科7
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力				広範な教養と、社会に貢献する人材育成力	社会学の基本的考え方	社会学、社会調査の知識・技能	開かれた感受性、社会問題に対峙する志向	課題発見力・問題解決力
授業科目名	必修 選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
SWAVF309地域福祉論A	選択	2	3	○				◎
SWAVF310地域福祉論B	選択	2	3	○				◎
SWAVF311司法福祉論	選択	2	3	○				◎
SWOPN301NPO論	選択	2	3	○				◎
SWSEP303インターンシップ	選択	2	3				○	◎
SWSWP308学校ソーシャルワーク論	選択	2	3	○				◎
J-LTH341法社会学1	選択	2	3	◎				◎
J-LTH342法社会学2	選択	2	3	◎				◎
J-LTH323法社会学	選択	2	3	○				◎
TCKN0961職業指導	選択	2	3				◎	○
〔5〕社会教育士・社会教育主事任用資格関連科目								
SGQUA201社会教育課題研究A	選択	2	2				◎	◎
SGQUA202社会教育課題研究B	選択	2	2				◎	◎
SGQUA203家庭教育A	選択	2	2	○			◎	
SGQUA204家庭教育B	選択	2	2	○			◎	
SGQUA301社会教育経営論A	選択	2	3	○			◎	
SGQUA302社会教育経営論B	選択	2	3	○			◎	
PEDIP304生涯学習支援論A	選択	2	3	○				◎
PEDIP305生涯学習支援論B	選択	2	3	○				◎
〔6〕教職関連科目（卒業要件）								
J-PUL111憲法A	選択	2	2	○	◎			
J-PUL112憲法B	選択	2	2	○	◎			
J-CIL201民法A	選択	2	2	○	◎			
J-CIL202民法B	選択	2	2	○	◎			
EBBUS102経済学概論1	選択	2	2	○	◎			
EBBUS103経済学概論2	選択	2	2	○	◎			
J-LTH221西洋法制史1	選択	2	2	○	◎			
J-LTH222西洋法制史2	選択	2	2	○	◎			
EEHIS311西洋経済史1	選択	2	3	◎				
EEHIS312西洋経済史2	選択	2	3	◎				
J-SOL321労働法1	選択	2	3	○				◎
J-SOL322労働法2	選択	2	3	○				◎
J-PUL221行政法A	選択	2	3	○				◎
J-PUL222行政法B	選択	2	3	○				◎
J-LTH321日本法制史1	選択	2	3	○				◎
J-LTH322日本法制史2	選択	2	3	○				◎
J-LTH330近代日本法思想史	選択	2	3	○				◎
J-POL341政治思想史1A	選択	2	3	○				◎
J-POL342政治思想史1B	選択	2	3	○				◎

※卒業要件外科目は、学科のディプロマ・ポリシーに基づく「身につく能力」との関連がないため記載していません。

単位の修得について

(1) 卒業までに必要な単位数

明共・学科 科目分類	必修・選択 科目分類			卒業に必要な 単位数内訳	履修確認「単位集計 結果」の項目 成績照会「単位修得 情報照会」の項目	
明治学院共通科目	必修科目	キリスト教の基礎	①	4単位(注1)	キリスト基本	計46単位
		英語コミュニケーション	②	4単位(注2)	外国語	
		初習語	③	4単位(注3)	外国語	
		コンピュータリテラシー	④	2単位(注4)	情報処理	
	選択必修科目		⑤	12単位(注5)	明共選必	
自由選択科目		⑥	20単位(注6)	明共選択		
明治学院共通科目	および 学科科目		⑦	10単位(注6・7)		計10単位
学科科目	必修科目	アカデミックリテラシー	⑧	2単位(注8)	学科必修	計70単位
	コース必修科目	コース演習 A	⑨	2単位(注9)	コース必修	
		コース演習 B				
		コース演習 C				
	選択必修科目	表現法演習	⑩	2単位(注10)	学科選必	
		質的データ分析				
要求科目	社会学基礎演習 社会調査の基礎	⑪	(各2単位)(注11)	学科自由に算入		
自コース科目		⑫	32単位(注12)	自コース科目		
自由選択科目		⑬	32単位(注13)	学科自由		
合 計						126単位

(注1) ①は、「キリスト教の基礎A・B」の2科目が必修である。

(注2) ②は、「英語コミュニケーション1A・1B、2A・2B」の4科目が必修である。

(注3) ③は、英語以外の言語系必修科目で、選択した1言語について4単位を修得しなければならない。③の超過修得点は⑥に算入される。

(注4) ④は、「コンピュータリテラシー1・2、コンピュータリテラシー研究1A・1B、2A・2B」の中から1科目必修である。2単位を超えて修得した場合、④の超過修得点は⑥に算入される。

(注5) ⑤は、以下に指定した科目の中から12単位分を修得すること。⑤の超過修得点は、⑥に算入される。

社会学理論の基礎、社会科学概論、人文地理学入門、人文地理学、心理学入門、心理学各論、統計学のいずれか(番号を問わない)。

(注6) ⑥は、⑤で修得した選択必修科目の12単位を除いて、明治学院共通科目(自由選択科目)から20単位修得すること。⑥の超過修得点は⑦に算入される。

(注7) ⑦の10単位は、明治学院共通科目と学科科目から自由に選択し、修得すること。

(注8) ⑧は、「アカデミックリテラシー」が必修である。「アカデミックリテラシー」は1年次春学期に指定されたクラスで履修しなければならない(再履修についてもクラスを指定する)。

(注9) ⑨は、「コース演習」A・B・Cがコース必修科目である。「コース演習」A・B・Cは、1年次に所属を選択した自コースの中からクラスを指定される(再履修についてもクラスを指定する)。コースを変更した場合、新たに所属するコースの「コース演習」を履修し、単位を修得しなければならない。その際に、以前に修得した「コース演習」の単位は⑬「自由選択科目」とすることができる。

(注10) ⑩は、選択必修である。「表現法演習」と「質的データ分析」のうち、少なくとも1科目の単位を修得しなければならない。希望者が多数のクラスは抽選の可能性があるので注意すること。⑩の超過修得点は⑬に算入される。

- (注11) ⑪は、要求科目である。必修科目ではないが1年次秋学期に指定されたクラスで必ず履修しなければならない。⑪の修得点は⑬に算入される。
- (注12) ⑫は、自分の所属するコースのコース科目から32単位以上修得すること。ただし、「社会学のための日本語1～4」「演習1」「社会教育実習演習1」「社会調査実習」「社会教育調査実習」「演習2」「社会教育演習2」「卒業論文」「専門書講読」「専門書講読(外)」の単位を含めることができる。⑫の超過修得点は⑬に算入される。
- (注13) ⑬は、学科科目(「社会学科 学科科目一覧」に記載されている科目)の自由選択として、〔1〕～〔6〕部門の科目から〔2〕コース科目32単位の他に、32単位分を修得すること。⑬の超過修得点は⑦に算入される。

(2) 年間履修制限単位数

1年間に履修できる単位数は、明治学院共通科目及び学科科目を含めて **48** 単位までである。

年間履修制限単位数の特例

教職課程を履修する者及び社会教育士・社会教育主事の任用資格を取得しようとする者に限って、下記の科目を年間履修制限単位数を超えて16単位まで履修することができる。

〔社会教育に関する科目(卒業要件)〕

生涯学習概論A・B

〔教職課程の教科及び教科の指導法に関する科目(卒業要件外)〕

下記科目は、教育職員(教職)免許状のための単位として履修できる科目であり、学科を卒業するための要件にはならない。

日本史A・B、世界史A・B、フランスの歴史A・B、地理学概論1・2、自然地理学1・2、地誌概説1・2、国際政治学A・B、現代政治理論1A・1B、哲学(専)1・2、宗教学概論1・2

なお、詳細は別冊の「教職課程履修要項(諸資格)」を参照のこと。

※白金校舎と横浜校舎の履修制限については以下のとおりである。

①1年次—横浜校舎のみの履修とする。白金校舎での履修はできない。

②2年次—学科科目(卒業要件)のみ白金校舎で履修できる。学科科目(卒業要件)以外は白金校舎での履修はできない。

③3年次以上—白金校舎での明治学院共通科目の履修は年間20単位以下とすることが望ましい。

また、社会人入試を利用して入学した学生は、1・2年次科目の白金校舎履修を選択することができる。入学後の履修登録期間中に教務課窓口で相談すること。

(3) 履修中止除外科目について

学修の手引き「履修」の「7. 履修中止制度」において、履修中止ができない科目(a)～(g)のうち、“(g)各学科において定めている履修中止の申請ができない科目”は、社会学科にあつては以下のとおりである。

コース必修科目、学科の選択必修科目、インターンシップ、社会調査士関係科目で履修制限をする科目。

(4) 明治学院共通科目

明治学院共通科目履修の方法 の章を参照のこと。

(5) コースの所属

2年次から「文化とメディアコース(Aコース)」「生命とアイデンティティコース(Bコース)」「環境とコミュニティコース(Cコース)」の3コースのいずれかひとつに所属する。

これらのコースは、多様さを増す現代社会において、ある一定の領域を深く学習することで社会的な考察の力を増すことを目的とするものである。各コースではコース演習、およびコース科目から32単位以上を修得することが必要である。

なお、どのコースに所属しても、演習・実習科目を含めて、すべての学科科目を履修することができる。

コースを選択するためには、1年次秋学期に開かれるコース制のオリエンテーションに出席し、第1希望と第2希望を提出しなければならない。その後、2年次春学期開始にあわせて所属するコースが発表される。コース分けについては、原則として希望のコースに所属するが、いずれかひとつのコース希望者が120名を超えた場合に限り、人数調整をすることがある。その際の基準として、まず「アカデミックリテラシー」の成績、次いで1年次の成績を参考にする。さらに、上記のコース制オリエンテーションへの出欠も考慮に入れることがある。なお、定められた期限までにコース希望を提出しなかった場合には、社会学科がコースを指定するので注意すること。

コース変更は2年次から3年次になるときにのみ可能である。2年次末に変更を届け出ること。また、コースの変更の際には、「コース演習A」、「コース演習B」、「コース演習C」のうち、新たに所属するコースの「コース演習」を改めて履修しなければならない。その際に、以前に修得した「コース演習」の単位は、「自由選択科目」とすることができる。

(6) 社会学科科目 (科目と単位)

社会学科の専門教育カリキュラムは、学科の教育目標にもとづいて、〔1〕社会学基幹科目、〔2〕コース科目、〔3〕演習・実習科目、〔4〕隣接科目、〔5〕社会教育士・社会教育主事任用資格関係科目、〔6〕教職関連科目(卒業要件)の6部門からなる。表中の科目名の左側にあるA～Cはその科目が各コースのコース科目に指定されていることを示す。なお、自分が所属するコース以外のコース科目も履修でき、学科自由選択科目として卒業単位に算入される。

開講学期の区別は、下記の略語を用いて示す。

通年(通) : 通年科目

半期(半) : 学期科目で春・秋の開講学期が年度により異なる科目

春・秋 : 学期科目で原則として春・秋両方に開講される科目

※ただし、変更の可能性があるので、履修にあたっては毎年度の時間割を必ず確認すること。

《履修上の注意》

- ・表中の「*」は必修科目、♪はコース必修科目、♪は選択必修科目を示す。自コース欄が空欄の場合は自由選択科目を示す。
- ・同一科目のA・Bは、Aのみ、または、Bのみの単位を履修することは可能(但し科目によって指示・制限している場合は除く)だが、内容的に連続している場合が多いので、できるかぎり同一年度に続けて履修することが望ましい。
- ・在学中に、科目の新設・廃止、科目名の変更がある場合がある。そうした変更は、学内掲示のほか、Port Hepburnで掲示する毎年度版の履修要項で確認すること。
- ・この履修要項に記載がある科目であっても、年度によっては開講しない(休講)ことがある。開講しない科目については、毎年度のシラバスや掲示を確認すること。
- ・科目によっては、予備登録、履修者数の制限、事前課題等による履修許可者の選抜などの履修制限を行なう場合がある。

【1年次】

〔1〕社会学基幹科目						
ナンバリング		科目名	コース	単位数	開講	注
SGBAS	101	社会学概論A		2	半	
	102	社会学概論B		2	半	
	103	社会調査の基礎		2	半	1・3
	104	社会調査の技法		2	半	1
〔3〕演習・実習科目						
ナンバリング		科目名	コース	単位数	開講	注
SGSEM	101	アカデミックリテラシー	*	2	半	2
	102	社会学基礎演習		2	半	3

【2年次以上】

〔1〕社会学基幹科目						
ナンバリング		科目名	コース	単位数	開講	注
SGBAS	201	社会統計学		2	半	1
	202	社会学特講A		2	半	4
	203	社会学特講B		2	半	4
	204	内なる国際化論A		2	半	5
	205	内なる国際化論B		2	半	5
SGJOU	201	ジャーナリズム特論A		2	半	
	202	ジャーナリズム特論B		2	半	
SGJAP	201	社会学のための日本語1	A B C	2	半	6
	202	社会学のための日本語2	A B C	2	半	6
	203	社会学のための日本語3	A B C	2	半	6
	204	社会学のための日本語4	A B C	2	半	6
〔2〕コース科目						
ナンバリング		科目名	コース	単位数	開講	注
SGLEC	201	グローバリゼーション論	A B C	2	半	
	202	現代の社会学	A B C	2	半	
	203	公共政策論	A B C	2	半	
	204	社会学史	A B C	2	半	
	205	社会行動論	A B C	2	半	
	206	社会倫理学	A B C	2	半	

SGLEC	207	宗教社会学	A B C	2	半	
	208	生涯学習概論A	A B C	2	半	
	209	生涯学習概論B	A B C	2	半	
	210	犯罪社会学	A B C	2	半	
	211	コミュニケーションの社会学	A B C	2	半	
	212	エスニシティ論A	A B C	2	半	
	213	エスニシティ論B	A B C	2	半	
	214	地域社会論	A B C	2	半	
	215	都市社会学	A B C	2	半	
	252	社会階層論	A B C	2	半	
	216	コミュニケーション論	A	2	半	
	217	比較社会学	A	2	半	
	218	文化社会学	A	2	半	
	219	メディア史	A	2	半	
	220	メディア社会論	A	2	半	
	221	映像社会学	A	2	半	
	222	アイデンティティの社会学	B	2	半	
	223	医療と身体の人類学	B	2	半	
	224	技術と人間A	B	2	半	
	225	技術と人間B	B	2	半	
	226	社会的相互行為論	B	2	半	
	227	性現象論	B	2	半	
	228	生命の社会学	B	2	半	
	229	暴力の論理学	B	2	半	
	230	現代コミュニティ論	C	2	半	
	231	政治社会学A	C	2	半	
	232	政治社会学B	C	2	半	
	233	地域環境論	C	2	半	
	234	エスニシティの社会学	A B	2	半	
	235	社会心理学	A B	2	半	
236	社会人類学A	A B	2	半		
237	社会人類学B	A B	2	半		
238	教育社会学	A C	2	半		
239	現代宗教論	A C	2	半		

	240	産業社会学A	A C	2	半	
SGLEC	241	産業社会学B	A C	2	半	
	242	子どもの歴史社会学	A C	2	半	
	243	コンテンツ産業論	A C	2	半	
	244	社会的ネットワーク論	A C	2	半	
	245	情報社会論	A C	2	半	
	246	文化社会論	A C	2	半	
	247	開発と健康の社会学	B C	2	半	
	248	家族社会学	B C	2	半	
	249	環境社会学	B C	2	半	
	250	対人関係論	B C	2	半	
	251	ポストコロナル論	B C	2	半	
〔3〕演習・実習科目						
ナンバリング		科目名	コース	単位数	開講	注
SGSEM	201	コース演習A	♪	2	半	
	202	コース演習B	♪	2	半	
	203	コース演習C	♪	2	半	
	204	表現法演習	♪	2	半	7
SGDAT	201	質的データ分析	♪	2	半	1・7
	202	数量データ分析		2	半	1
	203	データ分析入門		2	半	1
SGREA	201	専門書講読	A B C	2	半	8
	202	専門書講読(外)	A B C	2	半	8
SGVOL	201	ボランティア実践指導		4	通	9
〔4〕隣接科目						
ナンバリング		科目名	コース	単位数	開講	注
SWSPA	201	社会保障論A		2	半	10
	202	社会保障論B		2	半	10
SWAVF	201	障害者福祉総論		2	半	
	202	共生社会の理解		2	半	
	203	児童福祉論A		2	半	10
	204	高齢者福祉論A		2	半	
	206	身体障害者福祉論		2	半	
	207	知的障害者福祉論		2	半	

〔5〕社会教育士・社会教育主事任用資格関係科目

ナンバリング	科目名	コース	単位数	開講	注
SGQUA	201	社会教育課題研究A		半	
	202	社会教育課題研究B		半	
	203	家庭教育A		半	
	204	家庭教育B		半	

〔6〕教職関連科目（卒業要件）

ナンバリング	科目名	コース	単位数	開講	注
J-PUL	111	憲法A	2	半	1 1
	112	憲法B	2	半	1 1
J-CIL	201	民法A	2	半	1 1
	202	民法B	2	半	1 1
EBBUS	102	経済学概論1	2	半	1 2
	103	経済学概論2	2	半	1 2
J-LTH	221	西洋法制史1	2	半	
	222	西洋法制史2	2	半	

【3年次以上】

〔3〕演習・実習科目

ナンバリング	科目名	コース	単位数	開講	注	
SGSEM	301	演習1	ABC	4	通	1 3
	302	社会教育実習演習1	ABC	4	通	1 4
SGFIE	301	社会教育調査実習	ABC	4	通	1・1 5
	302	社会調査実習	ABC	4	通	1・1 5

〔4〕隣接科目

ナンバリング	科目名	コース	単位数	開講	注
EEPOL	331	農業政策論1		半	
	332	農業政策論2		半	
SWSPA	302	権利擁護と成年後見制度		半	
	303	国際社会保障論		半	
	304	Welfare States		半	
	305	公的扶助論A		半	1 0
	306	公的扶助論B		半	1 0
	307	福祉行財政と福祉計画		半	
	308	共生社会の法と人権		半	

	309	ソーシャルインクルージョンの政策		2	半	
SWAVF	301	児童福祉論B		2	半	10
	303	高齢者福祉論B		2	半	
	307	家庭福祉論		2	半	
	308	女性福祉論		2	半	
	309	地域福祉論A		2	半	10
	310	地域福祉論B		2	半	
	311	司法福祉論		2	半	
SWOPN	301	NPO論		2	半	
SWSEP	303	インターンシップ		2	通	
SWSWP	308	学校ソーシャルワーク論		2	半	
J-LTH	341	法社会学1		2	半	
	342	法社会学2		2	半	
	343	法社会学		2	半	
TCKNO	961	職業指導		2	半	
〔5〕社会教育士・社会教育主事任用資格関係科目						
ナンバリング		科目名	コース	単位数	開講	注
SGQUA	301	社会教育経営論A		2	半	16
	302	社会教育経営論B		2	半	16
PEDIP	304	生涯学習支援論A		2	半	16
	305	生涯学習支援論B		2	半	16
〔6〕教職関連科目（卒業要件）						
ナンバリング		科目名	コース	単位数	開講	注
EEHIS	311	西洋経済史1		2	半	
	312	西洋経済史2		2	半	
J-SOL	321	労働法1		2	半	
	322	労働法2		2	半	
J-PUL	221	行政法A		2	半	10
	222	行政法B		2	半	10
J-LTH	321	日本法制史1		2	半	
	322	日本法制史2		2	半	
	330	近代日本法思想史		2	半	
J-POL	341	政治思想史1A		2	半	11
	342	政治思想史1B		2	半	11

【4年次】

〔3〕 演習・実習科目

ナンバリング		科目名	コース	単位数	開講	注
SGSEM	401	演習 2	ABC	2	通	1 7
SGSEM	402	社会教育演習 2	ABC	2	通	1 8
SGGRA	401	卒業論文	ABC	6	通	1 9

(注 1) 「社会調査実習」「社会教育調査実習」を履修するためには、「社会調査の基礎」「社会調査の技法」「データ分析入門」(3年次編入生は「社会調査の基礎」のみ)の単位を修得していなければならない。また、「社会調査実習」「社会教育調査実習」を履修するにあたって「社会統計学」「数量データ分析」「質的データ分析」の単位を修得している(もしくは同時に履修する)ことが望ましい。なお、「データ分析入門」「数量データ分析」「質的データ分析」に関しては、履修希望者が多い場合、何らかの選抜を行って履修者数を制限することがある。その詳細については教務課掲示およびPort Hepburnで指示するので、それに従うこと。

(注 2) 「アカデミックリテラシー」は必ず1年次に指定されたクラスで履修しなければならない。未修得者の再履修も、指定されたクラスとする。

(注 3) 「社会学基礎演習」「社会調査の基礎」は1年次に指定されたクラスで履修しなければならない。

(注 4) 「社会学特講A」「社会学特講B」は、それぞれ16単位まで卒業単位として認められる(ただし、同じ担当者による同じ科目名のクラスを除く)。

(注 5) 「内なる国際化論A」「内なる国際化論B」はそれぞれ8単位まで卒業単位として認められる(ただし、同じ担当者による同じ科目名のクラスを除く)。

(注 6) この科目は留学生のための科目であり一般学生は履修できない。この科目は自分が所属するコース科目の単位にすることができる。

(注 7) 「表現法演習」「質的データ分析」の履修クラスは、原則として開講前に決める。その方法についてはコース選択と同時に説明する。

(注 8) 「専門書講読」「専門書講読(外)」は、それぞれ6クラス12単位まで卒業単位として認められる。また、同一教員のクラスを複数回履修することも可能であり、自分が所属するコース科目の単位にすることも認められる。なお、「専門書講読」の履修人数は20人程度を予定する。履修希望者が多い場合、何らかの選抜を行って履修者数を制限するので初回の授業には必ず出席すること。

(注 9) 「ボランティア実践指導」の履修人数は20人程度を上限とする。履修希望者は必ず初回の授業に出席し、担当教員の指示に従うこと。

(注 10) 科目英字Bは同一科目のAを履修していることが望ましい。

(注 11) これらの科目の履修に際しては、BはAで学んだ知識を前提とした続編としての性格を有するため、再履修の場合を除き、同一年度にAとBの両方を履修することが望ましい。

(注 12) 「経済学概論2」は、1で教授された知識が求められる。

(注 13) 「演習1」は通年の選択科目である。また、社会学科の中心的な科目の一つであるので、2年次秋学期にオリエンテーションを行う。

「演習1」を履修するためには、「アカデミックリテラシー」を修得済みであり、休学期間を除いて合計3セメスター(学期)以上在学していること。また、4年次に「演習2」および「卒業論文」を履修するためには、注17・19をよく読むこと(3年次編入生については、後述の「編入、転学科生に関する履修の順序に関する特例」を参照)。

担当者が異なれば、「演習1」は2クラス8単位まで、卒業単位として認められる。ただし、同一担当者でも年度が違う場合、担当者の許可により別クラスと認めることもある。その場合は、前年度の1月末までに教務課にて所定の手続きで許可を得ること。また、自分が所属するコース科目の単位にすることも認められる。

(注14)「社会教育実習演習1」は「演習1」に準ずる。注13を参照すること。

(注15)「社会教育調査実習」と「社会調査実習」は自分が所属するコース科目の単位にすることも認められる。

(注16)「社会教育経営論A」「社会教育経営論B」「生涯学習支援論A」「生涯学習支援論B」を履修するためには、前年度までに「生涯学習概論A」「生涯学習概論B」をともに履修していなければならない。

(注17)

- ①「演習2」は2単位で通年の選択科目である。これと「卒業論文」は必ず同時に履修しなければならない。注19を確認すること。
- ②「演習2」を履修するためには、「演習1」「社会調査実習」「社会教育調査実習」「社会教育実習演習1」のいずれかの単位を修得していなければならない。
- ③「演習2」の履修にあたっては、4月の履修登録時までに所定の用紙による卒業論文計画書を担当教員に提出し、担当教員の履修許可を必ず得ること（特に、その担当教員による「演習1」「社会教育実習演習1」の単位を修得していない者は、計画書作成前に担当教員と面談すること）。
- ④「社会調査実習」「社会教育調査実習」のみの単位修得で「演習2」の履修を希望する者は、上記の卒業論文計画書とともに、「社会調査実習」「社会教育調査実習」における調査成果をもとにした論文を提出すること（論文の作成にあたっては、「社会調査実習」「社会教育調査実習」担当教員の指導を受けること）。
- ⑤「演習2」および「卒業論文」を履修した者は、4年次10月の指定された期間に、中間成果（8000字以上）を教務課に提出することが義務づけられる。

(注18)「社会教育演習2」は「演習2」に準ずる。注17を参照すること。

(注19)

- ①「卒業論文」の単位を修得するためには、「卒業論文」と「演習2」を履修登録する必要がある。
- ②卒業論文の作成にあたっては「演習2」「社会教育演習2」の指導教授の指導・助言を得るとともに、「卒業論文執筆の手引き」を参照すること。
- ③卒業論文は、指定の日時までに教務課に提出できない場合には失格となるので注意すること。

〔1〕 演習・実習科目

社会学科は、個々人の興味関心に応じた学習効果を高めるため、少人数で行う演習・実習科目を充実させている。

- ◎「アカデミックリテラシー」（2単位・1年次履修）はどのような問題領域やコースを専攻するにせよ、全員が共通に履修することを義務づけられている重要な必修科目である。クラスが指定されるので留意すること。
- ◎「社会学基礎演習」（2単位・1年次履修）は、全員が履修することを要求されている重要な科目である。クラスが指定されるので留意すること。
- ◎「コース演習A」「コース演習B」「コース演習C」（2単位・2年次履修）は、自分が選択したコースについて理解するための必修科目である。コース別に開講され、クラスが指定されるので留意すること。
- ◎「表現法演習」と「質的データ分析」は、2科目のうち少なくとも1つを履修し、単位を修得しなければならない選択必修科目である。なお、いずれの科目も1クラスの履修希望者が20名を超える場合は何らかの選抜を行い、履修者数を制限することがある。
- ◎「演習1」または「社会教育実習演習1」（4単位・3年次履修）は、「文献を読む」「調べる」「議論する」、そして自分で選んだテーマを追究して「レポートを書く」ことを目的にしている。そのため、選択科目だが履修することが望ましい。
- ◎「演習2」または「社会教育演習2」（2単位・4年次履修）と「卒業論文」（6単位・4年次履修）は、同時に履修することによって卒業論文を作成するためのものであり、ゼミで論文を執筆するための指導を受ける。社会学を学んだ集大成として、ぜひ卒業論文を執筆するよう奨励している。
- ◎「社会調査実習」または「社会教育調査実習」（4単位・3年次履修）は社会の現実を実証的に把握し分析することを学び、身に付ける場として積極的な履修が望まれる。「社会調査実習」または「社会教育調査実習」を履修するためには、2年次の秋学期に開催するオリエンテーションに参加すること。そこで、実習クラスを決めるので、掲示に注意すること。
- ◎「専門書講読」（2単位・2年次以上）「専門書講読（外）」（2単位・2年次以上）は少人数クラスでテキストを読み、その内容・意見をレポートとしてまとめるための指導を受けられる科目であるため、選択科目であるが、履修することを奨励している。「専門書講読」「専門書講読（外）」は、それぞれ12単位まで卒業単位（自分が所属するコース科目）として認められる。また、同一教員のクラスを複数回履修することも可能である。

〔2〕 編入、転学科生に関する履修の順序における特例

● 2年次への転学科生

一般の学生に準ずるが、実習に関しては社会調査実習室に、演習に関しては社会学部共同研究室に相談すること。

● 3年次への編入、転学科生

- 1) 3年次に「アカデミックリテラシー」（必修）を履修しなければならない。ただし、他大学等で修得した科目の単位が「アカデミックリテラシー」に認定される場合がある。「アカデミックリテラシー」と「演習1」の同時履修は可能である。
- 2) 編入時にいずれかのコースに所属するが「コース演習」（コース必修科目）の履修をしなければならない。コース所属と「コース演習」の履修については、単位認定面接の際に説明する。「コース演習」と「演習1」の同時履修は可能である。
- 3) 3年次に「質的データ分析」もしくは「表現法演習」（選択必修）を履修しなければならない。ただし、他大学等で修得した科目の単位がこのどちらかに認定される場合がある。
- 4) 4年次に「演習2」「社会教育演習2」「卒業論文」を選択履修するためには、3年次終了までに「演習1」「社会教育実習演習1」「社会調査実習」「社会教育調査実習」のいずれかの単位を修得していなければならない。

- 5) 4年次に「社会調査実習」「社会教育調査実習」を選択履修するためには、3年次終了までに「社会調査の基礎」の単位を修得していなければならない。ただし、他大学等で修得した科目の単位が「社会調査の基礎」に認定された場合は、3年次に「社会調査実習」「社会教育調査実習」を選択履修することができる。

その他の注意事項

1. 卒業に関わる成績確認について

卒業者発表時に、採点事故などが考えられる場合は、あらかじめ決められた期間に教務課を通じて成績確認を申し出ることができる。本要項の学修の手引きの成績「4.成績評価の確認」の項も参照すること。

2. 卒業論文未提出者・不合格者の9月卒業について

- * 在学5年目以上の学生が、社会学科の定めた下記条件を満たしている場合、9月卒業の申請科目に「卒業論文」を含めることができる。
 - ①前年度までに「卒業論文」および「演習2」を履修済みであり、「卒業論文」の指導を1年以上受けていること。
 - ②前年度までに得た「卒業論文」の評価が「D」（提出したが不合格）または「N」（未提出）であること。
 - ③卒業希望年度に「卒業論文」と春学期科目の履修で卒業見込みが立つこと。
 - ④卒論指導担当者（それが不可能な場合は学科主任）に9月卒業を前提とした卒業論文履修者として、履修の許可を得ていること。
- * 申請者は、卒業論文を7月第一火または水曜日に白金校舎教務課へ提出し、審査のうえ合格した場合、春学期末に単位を修得できる。
- * 上記期日に未提出または審査結果が不合格の場合、一般の学生と同じ1月の期日に改めて提出することで、3月卒業の可能性はある。
- * 卒業論文を上記期日に提出し審査に合格した場合でも、他の卒業要件単位が春学期末に未修得ならば、卒業論文は年度末に単位を修得することになる。
- * 希望者は、教務課所定の履修許可書に卒論指導担当者の署名と捺印を受け、他の申請書類と併せて白金校舎教務課に提出すること。
- * なお、前年度までに得た「演習2」の評価が「D」または「N」であった場合、9月卒業を希望する場合も「演習2」の履修登録をすることは可能だが、9月卒業となった場合、「演習2」（通年科目）の単位は修得できない。

3. 社会調査士資格について

入学時の学科ガイダンスにて説明するので出席すること。
そのガイダンスで配布される『社会調査士』とは?』を参照すること。

4. 社会教育士・社会教育主事任用資格について

入学時の学科ガイダンスにて説明するので出席すること。

5. 多文化共生ファシリテーター／サポーター認証について

入学時の学科ガイダンスにて説明するので出席すること。また、本学WEBサイトにある「内なる国際化プロジェクト」に詳細な情報が掲載されているので、随時確認すること。

6. 教職課程の教科及び教科の指導法に関する科目（卒業要件外）について

下記科目は、教育職員免許状のための単位として履修できる科目であり、卒業要件単位にならない。

下記「教科及び教科の指導法に関する科目」と「教職課程履修要項（諸資格）」に記載の「教職に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」と「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち各教科の指導法科目を年間履修制限単位に加えて16単位まで履修できる。

【2年次以上】

ナンバリング	科目名	単位数	開講	注
TCKNO	901 日本史A	2	半	
	902 日本史B	2	半	
	911 世界史A	2	半	
	912 世界史B	2	半	
LFEFB	103 フランスの歴史A	2	半	
	104 フランスの歴史B	2	半	
TCKNO	921 地理学概論1	2	半	
	922 地理学概論2	2	半	
	931 自然地理学1	2	半	
	932 自然地理学2	2	半	
	941 地誌概説1	2	半	
	942 地誌概説2	2	半	
J-INR	103 国際政治学A	2	半	
	104 国際政治学B	2	半	
J-POL	201 現代政治理論1A	2	半	
	202 現代政治理論1B	2	半	

【3年次以上】

ナンバリング	科目名	単位数	開講	注
LXCGRS	301 哲学（専）1	2	半	1
	302 哲学（専）2	2	半	1
TCKNO	951 宗教学概論1	2	半	
	952 宗教学概論2	2	半	

（注1） 3年次以上で「哲学（専）1・2」を履修するためには、「MGPHI」（哲学）、「MGETH」（倫理学）、「MGLG」（論理学）の科目から、同一名称の2科目（計4単位）を修得済みでなければならない。

社会福祉学科

《社会学部》

人材養成上の目的・教育目標

社会学部は、明治学院大学の「人材養成上の目的・教育目標」に基づき、社会学部の「人材養成上の目的・教育目標」を次のとおり定める。

社会学部は、大学として掲げる目的・教育目標を実現するため、社会学科と社会福祉学科の2学科体制のもと、設立以来「社会改良の礎石となるべき人材の育成」を追求してきた。現代社会では、「他者」を広く認識し、「他者」が生きる現実から学ぶことで醸成される柔軟かつ多様な視点、問題を深く捉える思考力、そして、社会に新しい可能性を生み出す構想力と実践力をもつ人材が求められる。したがって、人としての生活と社会の構造の関係について総合的に学ぶことに主眼を置き、その学びの意義を深く理解する「豊かな知」の修得に努め、それを応用して「社会的に実践する方法」について学ぶ、社会に貢献できる人材の育成に努める。そのために、多様な葛藤を理解し、課題として追究し、その様相を表現する力を培い、あわせて、優れた人権感覚を育むことを教育目標とする。

卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

社会学部は、明治学院大学の「卒業の認定・学位授与に関する方針」に基づき、社会学部の「人材養成上の目的・教育目標」に沿った人間を育成するため、所定の期間在学するとともに所定の単位を修得し、次の能力を身につけることを卒業認定と学位授与の要件とする。

- 1 人としての生活と社会の構造の特徴や、その両者の関係を多様な視点から構想できる知識と理解力を身につけている。
- 2 現代社会が直面する問題の解明のために、様々な調査やフィールドワークを通じて実証的に分析し、解決法を自律的に計画できる汎用的技能を身につけている。
- 3 人としての生活に積極的に参与し、社会の諸問題に専門知識を駆使しながら対峙できる態度や志向性を身につけている。
- 4 人として、多様な学問分野で必要とされる基本的リテラシーを見につけ、個人の問題から地域の問題へ、さらに世界の問題にも積極的に関心を示す視野を持ち合わせ、統合的な学習経験を活用し、課題を解決する創造的思考力を身につけている。

教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

社会学部は、明治学院大学の「教育課程の編成および実施に関する方針」に基づき、社会学部の定める「人材養成上の目的・教育目標」および「卒業の認定・学位授与に関する方針」に沿って、次のとおり「教育課程の編成および実施に関する方針」を定める。

- 1 人としての生活と社会の構造の特徴を考察できる専門科目を置く。
- 2 資料・文献の読解力、コミュニケーション力を養うための学科目を置く。
- 3 問題発見力、データ収集力、データ分析力を能動的に学び、自立した実践力・行動力を養うための少人数による学習の機会となる演習・実習科目を置く。

■社会福祉学科

人材養成上の目的・教育目標

社会学部社会福祉学科は、社会学部の「人材養成上の目的・教育目標」に基づき、社会福祉学科の「人材養成上の目的・教育目標」を次のとおり定める。

人間の尊厳と基本的人権を尊重・擁護し、①人として必要な社会生活上の基本的ニーズを科学的に充足する諸方策について、理論的・実証的に研究を進める能力を養い、②当面する社会福祉問題、生活課題を解明する方途を習得し、③これらの問題・課題に対応する具体的施策、実践のための理論・方法を理解し、実践することのできる人材の育成を教育目標とする。

ソーシャルワークコースは、ソーシャルワーカーを養成するために、社会福祉支援に必要な能力を高め、支援者としてふさわしい人権意識と知識・方法の習得を目指す。

福祉開発コースは、福祉社会の創造に貢献する人材育成を目指し、広い社会的視野に立って人間理解を深め、社会福祉問題の原因・結果と必要な施策・活動を科学的に分析・考察できる能力を養成する。

卒業の認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

社会学部社会福祉学科は、社会学部の「卒業の認定・学位授与に関する方針」に基づき、社会福祉学科の「人材養成上の目的・教育目標」に沿った人間を育成するため、所定の期間在学するとともに124単位を修得し、次の能力を身につけることを卒業認定と学位授与の要件とする。

- 1 本学科の学生は、人間とそれを取り巻く社会についての幅広い教養をベースとして社会福祉政策や制度について学び、社会福祉の理論や実践方法を習得している。また技能においては文献を読み報告したり、必要な調査をする基礎的技能を、価値においては人間の尊厳と基本的人権を尊重する価値を身につけている。
- 2 ソーシャルワークコースでは、実習等の統合的学習経験を活用しつつ、社会福祉の理論や方法を生かして課題を解決出来る創造的思考力を持ったソーシャルワーカーを養成することを目的としている。
- 3 福祉開発コースでは、学生は生活や社会の諸問題に専門的知識を駆使しながら積極的に関与または対峙し、福祉社会の実現に寄与できる幅広い知識・能力と感性を習得している。

教育課程の編成および実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

社会学部社会福祉学科は、社会学部の「教育課程の編成および実施に関する方針」に基づき、社会福祉学科の定める「人材養成上の目的・教育目標」および「卒業の認定・学位授与に関する方針」に沿って、次のとおり「教育課程の編成および実施に関する方針」を定める。

1. 導入教育

初年次においては、少人数のゼミナールと講義によって社会福祉学の基礎を固めることをねらいとしている。まず、ゼミナール方式の授業として、春学期には大学での学習姿勢・技術、文献講読の技術等を身につける。また、秋学期には、社会福祉を学ぶ上で重要となる基礎知識やグループワークの技法を習得する。加えて、社会福祉の基礎的知識を包括的に習得する必修科目とともに、2年次以降のコース別の学習の導入科目を位置づけ、コース制への基盤としている。

2. コース制

2年次以降、学生は自ら選択した2つのコースに所属する。

（ソーシャルワークコース）

ソーシャルワークの知識と実践力の獲得を目標としたカリキュラムを編成している。国家資格の社会福祉士または精神保健福祉士の国家試験受験資格取得が可能であり、専門職養成に必要な講義および少人数制の演習科目が2年次から4年次まで配置されている。

2年次には、社会福祉施設・機関における基礎実習を行い、あわせて講義および演習を通じて、相談援助の基礎的な知識と技術およびソーシャルワーク実践の価値について学ぶ。3年次には、演習により、社会福祉実践の領域別に実施する実習に備えた事前学習を行うとともに、講義により専門的な知識を修得する。4年次には、ソーシャルワーク専門職としての実践力を獲得するための専門実習を行い、そこでの学びを演習により深化させ、4年間の学習の総括として卒業論文を執筆する。なお、4年次にソーシャルワーク専門実習を行わない学生のための特別演習を設け、卒業論文研究のための演習を行う。

(福祉開発コース)

2年次科目の「福祉開発概論」において「グローバル協働エリア」「コミュニティ創成エリア」「社会イノベーションエリア」の3領域の視点をもとに福祉開発の概要を学ぶ。さらに「福祉開発フィールドワーク」では、エリアごとのフィールドにおいて、福祉開発の実践を学ぶ。

3年次、4年次では、演習を通して福祉開発のより専門的な知識や技術を学び、4年次では、その総括として卒業論文を執筆する。なお、中学、高等学校教諭(公民)、特別支援学校教諭1種免許の取得が可能であり、社会福祉学の学びを基盤とした教員の養成を行っている。

科目の成績評価基準については、個々の科目のシラバスに記載する。

なお、両コースとも、優秀な卒業論文には、厳正な審査を経て「社会学部長賞」が授与される。

その他、所定単位を修得することによって多文化共生ファシリテーター／サポーターの認証資格取得も可能である。

卒業の認定・学位授与に関する方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連表(能力要件表)

学士力				知識・理解		汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				社会福祉学科1	社会福祉学科1	社会福祉学科1	社会福祉学科1・3	社会福祉学科2・3
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力				人間とそれを取りまく社会に対する幅広い教養	社会福祉の政策・制度・理論・実践法の理解	調査技能、社会福祉の理論の理解と実践	基本的人権の尊重、諸問題対峙する志向性	福祉社会に寄与する能力・感性・創造的思考
授業科目名	必修 選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
第1群 (基礎科目)								
SWBAS101社会福祉学概論A	必修	2	1	○	◎			
SWBAS102社会福祉学概論B	必修	2	1	○	◎			
SWBAS103ソーシャルワークの理解	選択	2	1	○	◎			
SWBAS104福祉開発の理解	選択	2	1	○	◎			
SWBAS201社会福祉史A	選択	2	2	○	◎			
SWBAS202社会福祉史B	選択	2	2	○	◎			
SWBAS203福祉開発概論	選択 必修	2	2	○	◎			
SWBAS204社会福祉調査	選択	2	2	○	◎	○		
SGLEC236社会人類学A	選択	2	3	◎				
SGLEC237社会人類学B	選択	2	3	◎				
SWBAS301社会福祉の思想	選択	2	3	○	◎		○	
第2群 (制度・政策)								
SWSPA201社会保障論A	選択	2	2	○	◎			
SWSPA202社会保障論B	選択	2	2	○	◎			
SWSPA203社会福祉法制	選択	2	2	○	◎			
SWSPA204社会政策論A	選択	2	2	○	◎			
SWSPA205社会政策論B	選択	2	2	○	◎			
SWSPA301就労支援サービス	選択	2	3	○	◎			
SWSPA302権利擁護と成年後見制度	選択	2	3	○	◎		○	
SWSPA303国際社会保障論	選択	2	3	○	◎			
SWSPA304Welfare States	選択	2	3	○	◎			
SWSPA305公的扶助論A	選択	2	3	○	◎		○	
SWSPA306公的扶助論B	選択	2	3	○	◎		○	
SWSPA307福祉行財政と福祉計画	選択	2	3	○	◎			
SWSPA308共生社会の法と人権	選択	2	3	○	◎		○	
SWSPA309ソーシャルインクルージョンの政策	選択	2	3	○	◎		○	
第3群 (対象者理解)								
SWUCL201臨床心理学A	選択	2	2	◎				
SWUCL202臨床心理学B	選択	2	2	◎				
SWUCL301精神保健A	選択	2	3	◎			○	
SWUCL302精神保健B	選択	2	3	◎			○	
SWUCL303精神医学A	選択	2	3	◎			○	
SWUCL304精神医学B	選択	2	3	◎			○	
SWUCL305医学知識	選択	2	3	◎			○	
第4群 (方法・技術)								
SWSWP101ソーシャルワークの基礎	選択	2	1		◎		○	
SWSWP201ソーシャルワーク1A	選択 必修	2	2		◎		○	
SWSWP202ソーシャルワーク2A	選択	2	2		◎		○	
SWSWP203ソーシャルワーク3A	選択	2	2		◎		○	
SWSWP204医療ソーシャルワーク論	選択	2	2		◎		○	
SWSWP205介護概論	選択	2	2		◎		○	
SWSWP206精神保健福祉援助技術総論	選択	2	2		◎		○	
SWSWP207精神障害者の生活支援システム	選択	2	2		◎		○	
SWSWP301ソーシャルワーク1B	選択	2	3		◎		○	
SWSWP302ソーシャルワーク2B	選択	2	3		◎		○	
SWSWP303ソーシャルワーク3B	選択	2	3		◎		○	
SWSWP304社会福祉運営管理論A	選択	2	3		◎		○	

学士力				知識・理解		汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				社会福祉学科1	社会福祉学科1	社会福祉学科1	社会福祉学科1・3	社会福祉学科2・3
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力				人間とそれを取りまく社会に対する幅広い教養	社会福祉の政策・制度・理論・実践法の理解	調査技能、社会福祉の理論の理解と実践	基本的人権の尊重、諸問題に対する志向性	福祉社会に寄与する能力・感性・創造的思考
授業科目名	必修 選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
SWSWP305社会福祉運営管理論B	選択	2	3		◎		○	
SWSWP306精神保健福祉援助技術各論A	選択	2	3		◎		○	
SWSWP307精神保健福祉援助技術各論B	選択	2	3		◎		○	
SWSWP308学校ソーシャルワーク論	選択	2	3		◎		○	
第5群（分野）								
SWAVF201障害者福祉総論	選択	2	2		◎		○	
SWAVF202共生社会の理解	選択	2	2		◎		○	○
SWAVF203児童福祉論A	選択	2	2		◎		○	
SWAVF204高齢者福祉論A	選択	2	2		◎		○	
SWAVF205精神保健福祉論A	選択	2	2		◎		○	
SWAVF206身体障害者福祉論	選択	2	2		◎		○	
SWAVF207知的障害者福祉論	選択	2	2		◎		○	
SWAVF301児童福祉論B	選択	2	3		◎		○	
SWAVF302医療福祉論	選択	2	3		◎		○	
SWAVF303高齢者福祉論B	選択	2	3		◎		○	
SWAVF304精神保健福祉論B	選択	2	3		◎		○	
SWAVF305精神科リハビリテーション学A	選択	2	3		◎			
SWAVF306精神科リハビリテーション学B	選択	2	3		◎			
SWAVF307家庭福祉論	選択	2	3		◎		○	
SWAVF308女性福祉論	選択	2	3		◎		○	
SWAVF309地域福祉論A	選択	2	3		◎		○	
SWAVF310地域福祉論B	選択	2	3		◎		○	
SWAVF311司法福祉論	選択	2	3		◎		○	
SWAVF312国際福祉論1	選択	2	3		◎		○	
SWAVF313国際福祉論2	選択	2	3		◎		○	
SWAVF314コミュニティ創生論A	選択	2	3		◎			○
SWAVF315コミュニティ創生論B	選択	2	3		◎			○
第6群（特講）								
SWSPL201社会福祉学特講1	選択	2	2	○	◎			
SWSPL202社会福祉学特講2	選択	2	2	○	◎			
SWSPL301社会福祉学特講3	選択	2	3	○	◎			
SWSPL302社会福祉学特講4	選択	2	3	○	◎			
SWSPL303社会福祉学特講5A	選択	2	3	○	◎			
SWSPL304社会福祉学特講5B	選択	2	3	○	◎			
第7群（実習・演習・卒論）								
SWSEP101アカデミックリテラシー	選択	2	1			◎		
SWSEP102基礎演習	選択	2	1			◎		
SWSEP201ソーシャルワーク基礎実習指導	選択	2	2			○	○	◎
SWSEP202福祉開発フィールドワーク	選択	2	2			○	○	◎
SWSEP203ソーシャルワーク演習1A	選択	2	2			◎	○	○
SWSEP204ソーシャルワーク演習1B	選択	2	2			◎	○	○
SWSEP205ソーシャルワーク演習1C	選択	2	2			◎	○	○
SWSEP206精神保健福祉援助演習（基礎）	選択	2	2			◎	○	○
SWSEP207精神保健福祉援助演習（専門）A	選択	2	2			◎	○	○
SGVOL201ボランティア実践指導	選択	4	2			◎	○	○
SWSEP301演習1	選択	2	3			◎	○	○
SWSEP302社会福祉調査実習	選択	4	3			◎	○	○
SWSEP303インターンシップ	選択	2	3			○	○	◎
SWSEP304ソーシャルワーク実習指導A	選択	2	3			○	○	◎
SWSEP305精神保健福祉援助実習指導A	選択	2	3			○	○	◎

学士力				知識・理解		汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				社会福祉学科1	社会福祉学科1	社会福祉学科1	社会福祉学科1・3	社会福祉学科2・3
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力				人間とそれを取りまく社会に対する幅広い教養	社会福祉の政策・制度・理論・実践法の理解	調査技能、社会福祉の理論の理解と実践	基本的人権の尊重、諸問題対峙する志向性	福祉社会に寄与する能力・感性・創造的思考
授業科目名	必修 選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
SWSEP306ソーシャルワーク特別演習1	選択	1	3			◎	○	○
SWSEP401ソーシャルワーク演習2	選択	4	4			◎	○	○
SWSEP402精神保健福祉援助演習(専門)B	選択	2	4			◎	○	○
SWSEP403演習2	選択	2	4			◎	○	○
SWSEP404ソーシャルワーク実習指導B	選択	2	4			○	○	◎
SWSEP405ソーシャルワーク実習	選択	4	4			○	○	◎
SWSEP406精神保健福祉援助実習指導B	選択	2	4			○	○	◎
SWSEP407精神保健福祉援助実習指導C	選択	2	4			○	○	◎
SWSEP408精神保健福祉援助実習	選択	4	4			○	○	◎
SWSEP409ソーシャルワーク特別演習2	選択	2	4			◎	○	○
SWSEP410卒業論文	選択	4	4			○		◎
第8群(自由科目)								
EEELM121入門経済史1	選択	2	1	◎				
EEELM122入門経済史2	選択	2	1	◎				
SWOPN101社会学概論	選択	2	1	◎				
SWOPN102社会福祉学のための日本語A	選択	2	1		◎			
SWOPN103社会福祉学のための日本語B	選択	2	1		◎			
KCGEN102Current Affairs A	選択	2	1	◎				
KCGEN103Current Affairs B	選択	2	1	◎				
SWOPN201社会学特講	選択	2	2	◎				
SGBAS204内なる国際化論A	選択	2	2	◎				
SGBAS205内なる国際化論B	選択	2	2	◎				
EBBUS102経済学概論1	選択	2	2	◎				
EBBUS103経済学概論2	選択	2	2	◎				
SWOPN202心理学概論	選択	2	2	◎				
J-CIL201民法A	選択	2	2	◎				
J-CIL202民法B	選択	2	2	◎				
J-PUL111憲法A	選択	2	2	◎				
J-PUL112憲法B	選択	2	2	◎				
SWOPN203障害児・者心理学概論A	選択	2	2	○	◎		○	
SWOPN204障害児・者心理学概論B	選択	2	2	○	◎		○	
SWOPN205障害児医学総論A	選択	2	2	○	◎		○	
SWOPN206障害児医学総論B	選択	2	2	○	◎		○	
SWOPN207特別支援教育学総論A	選択	2	2	○	◎		○	
SWOPN208特別支援教育学総論B	選択	2	2	○	◎		○	
SWOPN209病弱教育総論	選択	2	2	○	◎		○	
SGLEC214地域社会学	選択	2	3	◎				
SGLEC215都市社会学	選択	2	3	◎				
SGLEC246文化社会学	選択	2	3	◎				
SGLEC224技術と人間A	選択	2	3	◎				
SGLEC225技術と人間B	選択	2	3	◎				
SGLEC206社会倫理学	選択	2	3	◎				
SGLEC203公共政策論	選択	2	3	◎				
SGLEC248家族社会学	選択	2	3	◎				
SGLEC244社会的ネットワーク論	選択	2	3	◎				
SGLEC210犯罪社会学	選択	2	3	◎				
SGLEC229暴力の論理学	選択	2	3	◎				
SGLEC227性現象論	選択	2	3	◎				
SGLEC228生命の社会学	選択	2	3	◎				
SGLEC240産業社会学A	選択	2	3	◎				

学士力				知識・理解		汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力
対応するディプロマ・ポリシー				社会福祉学科1	社会福祉学科1	社会福祉学科1	社会福祉学科1・3	社会福祉学科2・3
ディプロマ・ポリシーに基づく身につく能力				人間とそれを取りまく社会に対する幅広い教養	社会福祉の政策・制度・理論・実践法の理解	調査技能、社会福祉の理論の理解と実践	基本的人権の尊重、諸問題対峙する志向性	福祉社会に寄与する能力・感性・創造的思考
授業科目名	必修 選択	単位	年次	科目に最も関連する能力=◎、科目に関連する能力=○				
SGLEC241産業社会学B	選択	2	3	◎				
SGLEC249環境社会学	選択	2	3	◎				
SGLEC233地域環境論	選択	2	3	◎				
SGLEC247開発と健康の社会学	選択	2	3	◎				
SGLEC223医療と身体の人類学	選択	2	3	◎				
SGLEC205社会行動論	選択	2	3	◎				
SGLEC217比較社会学	選択	2	3	◎				
SGLEC234エスニシティの社会学	選択	2	3	◎				
TGKN0961職業指導	選択	2	3	○	◎			
SWOPN301NPO論	選択	2	3	○	◎			
SWOPN302専門外国書講読A	選択	2	3	○	◎			
SWOPN303専門外国書講読B	選択	2	3	○	◎			
SWOPN304専門外国書講読C	選択	2	3	○	◎			
SWOPN305専門外国書講読D	選択	2	3	○	◎			
J-PUL221行政法A	選択	2	3	◎				
J-PUL222行政法B	選択	2	3	◎				
J-SOL321労働法1	選択	2	3	◎				
J-SOL322労働法2	選択	2	3	◎				
J-POL335福祉国家論A	選択	2	3	◎				
J-POL336福祉国家論B	選択	2	3	◎				
J-POL313公共と市民	選択	2	3	◎				
J-POL314政府と企業	選択	2	3	◎				
J-POL311都市行政	選択	2	3	◎				
J-POL312都政研究	選択	2	3	◎				
SWOPN306視覚障害教育総論	選択	2	3	○	◎		○	
SWOPN307聴覚障害教育総論	選択	2	3	○	◎		○	
SWOPN308障害児・者心理学1(コミュニケーション)	選択	2	3	○	◎		○	
SWOPN309障害児・者心理学3(学習)	選択	2	3	○	◎		○	
SWOPN310病弱者の心理・生理・病理	選択	2	3	○	◎		○	
SWOPN311障害者基礎理論	選択	2	3	○	◎		○	
J-NFL341成年後見法制1	選択	2	3	◎				
J-NFL342成年後見法制2	選択	2	3	◎				
J-NFL343比較成年後見法制	選択	2	3	◎				
SWOPN312社会起業論A	選択	2	3		◎		○	
SWOPN313社会起業論B	選択	2	3		◎		○	
SWOPN314Social Welfare in English	選択	2	3	○	◎			
SWOPN401特別支援学校教育実習	選択	3	4			○	○	◎

※卒業要件外科目は、学科のディプロマ・ポリシーに基づく「身につく能力」との関連がないため記載していません。

単位の修得について

1. カリキュラム編成

1年次から4年次までに履修すべきまたは履修可能な本学科の学科科目は、下記の8群に分かれている。卒業するためのカリキュラムは、この8群の中から選択すること。ただし、専門科目を系統的に学習するためには、コース制ごとの「履修モデル」を参考に選択することが望ましい。

第1群 学習の前提となる基礎科目

第2群 社会福祉の制度、政策に関する科目

第3群 個人を中心とした利用者理解に関する科目

第4群 社会福祉実践の方法・技術に関する科目

第5群 社会福祉の分野に関する科目

第6群 1～5群によって講ずることができなかつたり、補足したりすることが必要と考えられる特別講義であり、「特講」と呼んでいる科目（テーマ、担当者は年度により異なる場合がある）

第7群 実習（社会福祉・精神保健福祉現場実習）、福祉開発フィールドワーク、社会福祉調査実習、インターンシップ、演習、卒業論文などに関する科目

第8群 自由科目、1～7群に属さない自由に選択できる科目

以上の学科科目は、必修科目、選択科目に分かれている。

2. 科目のリンク制

社会福祉学科の場合、4年間を通じ、合理的で効果的な履修を誘導するため、特定の講義科目と演習や実習科目間で履修の順序に関する規程がある（「リンク制」と呼ぶ）。特に、2年次以降に開講される実習や演習に関連する科目の履修には、十分に注意して履修計画を立てることが重要である。実習、演習の項を参照。

3. 年間履修制限単位数

（1）1年間に履修できる単位数

1年間に履修できる単位数は、明治学院共通科目及び学科科目を含めて、**48単位**である。

1年次生は、横浜校舎のみの履修とする。白金校舎での履修はできない。

2年次生は、学科科目（卒業要件）のみ白金校舎で履修できる。学科科目（卒業要件）以外は白金校舎での履修はできない。

3年次生以上は、英語等の履修曜日・時限指定のある科目以外は、横浜・白金両校舎での履修が可能である。

また、上記以外の場合にも、社会学部長がやむを得ないと判断したものについては特例を認めることもある。

（2）教職課程履修者の特例

教職課程を履修する者に限って、教職に関する科目、大学が独自に設定する科目と教科及び教科の指導法に関する科目（卒業要件外）を年間履修制限単位数を超えて、16単位まで履修することができる。別冊の【**教職課程履修要項（諸資格）**】参照のこと。

[特別支援教育に関する科目（卒業要件）]

特別支援教育学総論A・B、障害児・者心理学概論A・B、障害児医学総論A・B、特別支援学校教育実習

[教職課程の教科及び教科の指導法に関する科目（卒業要件外）]

下記科目は、教育職員（教職）免許状のための単位として履修できる科目であり、学科を卒業するための要件にはならない。

日本史A・B、世界史A・B、地理学概論1・2、地誌概説1・2、国際政治学A・B、現代政治理論1A・B、哲学（専）1・2、宗教学概論1・2

4. 卒業までに必要な単位数

明共・学科 科目分類	必修・選択 科目分類			卒業に必要な 単位数内訳	履修確認「単位集計 結果」の項目 成績照会「単位取得 情報照会」の項目	
明治学院共通科目	必修科目	キリスト教の基礎	①	4単位(注1)	キリスト基本	計32単位
		英語コミュニケーション	②	4単位(注2)	外国語	
		初習外国語	③	4単位(注3)	外国語	
		コンピュータリテラシー	④	2単位(注4)	情報処理	
	選択必修科目		⑤	12単位(注5)	明共選必	
	自由選択科目		⑥	6単位(注6)	明共選択	
明治学院共通科目 および 学科科目			⑦	22単位(注6・7・12)		計22単位
学科科目	必修科目	社会福祉学概論A・B	⑧	4単位(注8)	学科必修	計70単位
	コース必修科目	ソーシャルワーク1A	⑨	2単位(注9)	コース必修	
		福祉開発概論				
	第4群科目		⑩	8単位(注10)	第4群	
	第5群科目		⑪	10単位(注11)	第5群	
	要求科目(注12)	アカデミックリテラシー 基礎演習	⑫	(各2単位)	第1-7群に算入	
	第1~7群科目		⑬	22単位(注13)	第1-7群	
自由選択科目		⑭	24単位(注14)	第8群		
				合計		124単位

(注1) ①は、「キリスト教の基礎A・B」の2科目が必修である。

(注2) ②は、「英語コミュニケーション1A・1B、2A・2B」それぞれ各1単位ずつが必修である。

(注3) ③は、英語以外の言語系必修科目で、選択した1言語について4単位を修得しなければならない。③の超過修得点は⑥に算入される。

(注4) ④は、「コンピュータリテラシー1・2、コンピュータリテラシー研究1A・1B・2A・2B」の中から1科目必修である。④の超過修得点は⑥に算入される。

(注5) ⑤は、心理学入門、心理学各論、法学(日本国憲法を含む)、経済学、社会学理論の基礎、文化とメディアの社会学入門、生命とアイデンティティの社会学入門、環境とコミュニティの社会学入門、数学入門、数学、数学特論、生物学入門、現代の生物学、統計学、健康・スポーツ科学系科目群のうち番号を問わず指定科目の対象とする。この中から12単位が必修である。⑤の超過修得点は⑥に算入される。

(注6) ⑥は、⑤で修得した選択必修科目の12単位を除いて、明治学院共通科目(自由選択科目)から6単位修得すること。

⑥の超過修得点は⑦に算入される。

(注7) ⑦の22単位は明治学院共通科目と、学科科目(選択科目)から自由に選択し、修得すること。

⑥と⑭の超過修得点は⑦に算入される。

(注8) ⑧は、「社会福祉学概論A・B」が必修である。

(注9) ⑨は、ソーシャルワークコースを選択した学生は「ソーシャルワーク1A」が、福祉開発コースを選択した学生は「福祉開発概論」がコース必修となる。他のコースの学生にも履修を勧める。コース必修科目の単位を修得しないと、当該コースの学生は卒業不可となる。

(注10) ⑩は、8単位以上を修得すること。⑩の超過修得点は⑬に算入される。ソーシャルワークコースを選択した学生は「ソーシャルワーク1A」の他に8単位以上の修得が必要である。

(注11) ⑩は、10単位以上を修得すること。⑩の超過修得点は⑬に算入される。

(注12) ⑩は要求科目である。必修科目ではないが1年次に指定されたクラスで必ず履修しなければならない。修得した単位は⑬に算入され、⑬を超過した単位は⑭に算入される。

(注13) ⑬の22単位以上は、第1～7群の科目から修得すること。⑬の超過修得点は⑭に算入される。

※必修 (⑧：4単位)、コース選択必修 (⑨：2単位)、4群 (⑩：8単位)、5群 (⑪：10単位) の計24単位とは別に修得すること。

(注14) ⑭は、学科科目（一覧表に記載されている科目）の自由選択として、第8群を中心に、第1群～第8群の中から、未修得の科目を24単位修得すること。⑭の超過修得点は⑰に算入される。

5. 履修中止除外科目について

学修の手引き「履修」の「7. 履修中止制度」において、履修中止ができない科目(a)～(g)のうち、“(g)各学科において定めている履修中止の申請ができない科目”は、社会福祉学科にあっては以下のとおりである。

コース必修科目：「ソーシャルワーク1A」、「福祉開発概論」、社会福祉学科科目部門別一覧「第7群」掲載の科目すべて、特別支援学校教育実習

6. 明治学院共通科目

履修については、この履修要項の「明治学院共通科目履修の方法」の章を参照のこと。

7. 学科科目

(1) コースについて

1) コースの概要

社会福祉学科では、主として将来の進路を想定して、「ソーシャルワークコース」と「福祉開発コース」の2つのコースを用意している。

ソーシャルワークコースは、ソーシャルワークの理論と、ソーシャルワーカーとしての実践力を獲得することを主たる目標としたカリキュラムで構成されている。関連講義科目の学びとソーシャルワーク実習およびソーシャルワーク演習と相互に連動させながら学習を深め、最終的には卒業論文としてまとめる。その過程で社会福祉士や精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得することができる。

福祉開発コースは、社会福祉学を基盤として、自由に、かつ広く共生社会のあり方を学ぶカリキュラムで構成されている。そのため三つのエリアを設けて、学生の興味・関心に基づいて系統的に学べるように工夫している。学生は三つのエリアから一つを選択し、履修モデルに即して履修することが望ましい。ただし、履修モデルにない講義科目（他エリア、ソーシャルワークコースの推奨講義科目）でも、社会福祉学科の学科科目であれば卒業単位に組み入れられる。その他の特徴としては、①エリアごとの現実に触れる機会を付与する「福祉開発フィールドワーク」（2年次）をコース独自の科目として位置づけている。②2年次の講義科目「福祉開発概論」はコース必修科目である。③演習科目はエリアを中心に3年次（演習1）・4年次（演習2）と展開し、最終的には卒業論文としてまとめる。福祉開発コースでは、社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得することはできない。

2) コースの選択

コースに分かれるのは2年次からである。そのため、1年次秋学期にコースガイダンスを行い、学生個人の希望に応じて所属コースを決定していく。コースによって履修できる演習・実習は明確に分かれているので、コースごとの履修モデルを参考に履修計画を立てること。これに対し、講義科目は両コースに開放されている。卒業するための必要単位数についてコースによって違いはない。

3) コースの変更

2年次にソーシャルワークコース、福祉開発コースを選択した後は別のコースに移ることは認められない。1年次の秋学期に行われる、コース・オリエンテーションに必ず出席し、将来の進路などをよく考えた上で、コース選択を行うよう、十分に留意すること。

4) コースと資格

社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験の受験資格等が得られるかどうかや、希望する将来の進路によってコースを選択すること。

資格や進路によるコースの選択は、以下の表を参考にすること。

	ソーシャルワークコース	福祉開発コース
①社会福祉士国家試験の受験資格 注1)	○	×
②精神保健福祉士国家試験の受験資格 注1)	○	×
③中学校・高等学校・特別支援学校教諭	× 注2)	○ 注2)

凡例:○可能、×不可

注1) 社会福祉士国家試験と精神保健福祉士国家試験の両方の受験資格を得るには5年間を要する。希望者は3年次春学期の指定期日以内に申込書を社会福祉実習センターに提出すること。なお、4年間で卒業単位を満たすと5年目に大学に残ることができないため、履修方法に注意すること。卒業論文は4年目で履修すること。

注2) ソーシャルワークコースで在学4年間で①と③の資格、あるいは②と③の資格を同時に取得することはできない。教員免許状を取得希望であれば、福祉開発コースを選択すること。

(2) 将来の希望別履修モデル

社会福祉学科では、国家試験受験資格取得の有無などにより、6つのルート・エリア別に履修モデルを提示することができる。ソーシャルワークコースを選択する学生は①②を、福祉開発コースを選択する学生は、③～⑥を参考にすること。

①社会福祉士ルート：社会福祉士国家試験の受験資格取得を目指す。

②精神保健福祉士ルート：精神保健福祉士国家試験の受験資格取得を目指す。

③グローバル協働エリア：先進国、新興国、開発途上国やグローバル社会が直面する福祉問題を「国際福祉」のコンセプトで捉え、問題分析、問題解決に向けた方法を学ぶ。

④コミュニティ創生エリア：地域社会が直面している様々な地域問題や生活問題について、社会学、経済学、政治学なども含めた学際的なアプローチからその解決策を学ぶ。

⑤社会イノベーションエリア：人々の「ウェルビーイング」を基本コンセプトに、企業やNPOなどの社会貢献と責任を理解し、社会的企業を含めた社会サービスの開発手法を学ぶ。

⑥教職ルート：中学校・高等学校教諭および特別支援学校教諭の資格を目指す。

ソーシャルワークコース

履修 モデル	開講 年次	修得が必要な学科科目（国家資格統替科目を含む）	
		実習・演習・卒論	講義科目
① 社会福祉士 ルート	1年次		社会福祉学概論A・B（必修） ソーシャルワークの理解 社会学概論*
	2年次	ソーシャルワーク基礎実習指導 ソーシャルワーク演習1A ソーシャルワーク演習1B ソーシャルワーク演習1C	ソーシャルワーク1A （コース必修） ソーシャルワーク2A ソーシャルワーク3A 社会福祉調査 児童福祉論A 高齢者福祉論A 障害者福祉総論 心理学概論* 社会保障論A・B 介護概論
	3年次	ソーシャルワーク実習指導A	医学知識* 公的扶助論A 地域福祉論A・B ソーシャルワーク1B ソーシャルワーク2B ソーシャルワーク3B 社会福祉運営管理論A 医療福祉論 就労支援サービス# 司法福祉論# 権利擁護と成年後見制度# 福祉行財政と福祉計画
	4年次	ソーシャルワーク実習指導B ソーシャルワーク実習 ソーシャルワーク演習2 卒業論文	
② 精神保健福祉士 ルート	1年次		社会福祉学概論A・B（必修） ソーシャルワークの理解 社会学概論☆
	2年次	ソーシャルワーク基礎実習指導 ソーシャルワーク演習1B 精神保健福祉援助演習（基礎） 精神保健福祉援助演習（専門）A	ソーシャルワーク1A （コース必修） 障害者福祉総論 精神保健福祉援助技術総論 精神障害者の生活支援システム 精神保健福祉論A 心理学概論☆ 社会保障論A・B
	3年次	精神保健福祉援助実習指導A	精神医学A・B 精神保健A・B 精神保健福祉論B 精神科リハビリテーション学 A・B 精神保健福祉援助技術各論A・B 地域福祉論A・B 権利擁護と成年後見制度 福祉行財政と福祉計画 医療福祉論 医学知識☆ 公的扶助論A
	4年次	精神保健福祉援助演習（専門）B 精神保健福祉援助実習指導B 精神保健福祉援助実習指導C 精神保健福祉援助実習 卒業論文	

*印の3科目のうち1科目を修得

#印の3科目のうち1科目を修得

☆印の3科目のうち1科目を修得

福祉開発コース

履修モデル	開講年次	履修が望ましい科目	
③ グローバル協働エリア	1年次	社会福祉学概論A・B(必修) 福祉開発の理解 ソーシャルワークの理解	基礎演習 社会学概論 アカデミックリテラシー
	2年次	福祉開発概論(コース必修) 社会保障論A・B	社会福祉調査 福祉開発フィールドワーク
	3年次	社会福祉の思想 国際社会保障論 Welfare States Social Welfare in English 国際福祉論1・2 地域福祉論A・B 福祉行財政と福祉計画 演習1	公共政策論 社会的ネットワーク論 比較社会学 エスニシティの社会学 専門外国書講読A・B 行政法A・B 福祉国家論A・B 政府と企業
	4年次	演習2	卒業論文

履修モデル	開講年次	履修が望ましい科目	
④ コミュニティ創生エリア	1年次	社会福祉学概論A・B(必修) 福祉開発の理解 ソーシャルワークの理解	基礎演習 社会学概論 アカデミックリテラシー
	2年次	福祉開発概論(コース必修) 社会保障論A・B 社会福祉調査	共生社会の理解 福祉開発フィールドワーク
	3年次	社会福祉の思想 地域福祉論A・B コミュニティ創生論A・B 福祉行財政と福祉計画 権利擁護と成年後見制度 演習1 インターンシップ 地域社会論 都市社会学 公共政策論	社会的ネットワーク論 地域環境論 環境社会学 NPO論 行政法A・B 公共と市民 都市行政 成年後見法制1・2 比較成年後見法制
	4年次	演習2	卒業論文

履修モデル	開講年次	履修が望ましい科目	
⑤ 社会イノベーションエリア	1年次	社会福祉学概論A・B(必修) 福祉開発の理解 ソーシャルワークの理解	基礎演習 社会学概論 アカデミックリテラシー
	2年次	福祉開発概論(コース必修) 社会保障論A・B 社会福祉調査	共生社会の理解 福祉開発フィールドワーク
	3年次	社会福祉の思想 地域福祉論A・B 福祉行財政と福祉計画 社会福祉運営管理論A・B 社会起業論A・B 就労支援サービス 演習1 インターンシップ	公共政策論 社会的ネットワーク論 NPO論 行政法A・B 労働法1・2 公共と市民 政府と企業 産業社会学A・B
	4年次	演習2	卒業論文

履修モデル	開講年次	履修が望ましい科目	履修モデル
⑥教職ルート	1年次	社会福祉学概論A・B（必修）	[教職課程履修要項（諸資格）] 参照
	2年次	福祉開発概論（コース必修）	

- 注1) 「*」の3科目中1科目選択で可、「#」の3科目中1科目選択で可、「☆」の3科目中1科目選択で可とする。
- 注2) ①または②ルートにおいて、3年次から始まる実習の前に十分な関連知識の習得が望ましいので、講義科目の「A」と「介護概論」は可能な限り、3年次までに修得しておくことが望ましい。
- 注3) 社会福祉士および精神保健福祉士の両方の国家試験受験資格を目指す場合、5年間の在籍が必要となる。ただし、4年間で卒業単位を満たすと5年目に大学に残ることができないため、履修方法に注意すること。なお、卒業論文は4年目で履修すること。
- 注4) ⑥教職ルートを選択する学生は福祉開発コースを選択すること。
- 注5) 大学院進学を考えている場合は、「卒業論文」を履修すること。
- 注6) コミュニティ創生エリアには2年次に「共生社会の理解」、3年次に「インターンシップ」が設置されるが、福祉開発コース、ソーシャルワークコースどちらの学生も履修可能である。社会学科の学生も履修可能である。

(3) 資格取得の方法

1) 社会福祉士

所定の学科科目を修得し、社会福祉士国家試験受験資格を得た者で、毎年1回実施される国家試験に合格し、社会福祉士として登録した者。

「ソーシャルワーク基礎実習指導」、「ソーシャルワーク演習1A・1B・1C」、「ソーシャルワーク演習2」、「ソーシャルワーク実習指導A・B」、「ソーシャルワーク実習」、「卒業論文」については、この要項の「実習」項、「演習」項および「国家試験受験資格」の章を参照。

2) 精神保健福祉士

所定の学科科目を修得し、精神保健福祉士国家試験受験資格を得た者で、毎年1回実施される国家試験に合格し、精神保健福祉士として登録した者。

「ソーシャルワーク基礎実習指導」、「精神保健福祉援助演習（基礎）」、「ソーシャルワーク演習1B」、「精神保健福祉援助演習（専門）A・B」、「精神保健福祉援助実習指導A・B・C」、「精神保健福祉援助実習」、「卒業論文」については、この要項の「実習」項、「演習」項および「国家試験受験資格」の章を参照。

3) 任用資格

①社会福祉主事

「社会福祉学概論A・B」、「公的扶助論A」、「社会保障論A・B」、「児童福祉論A・B」等の厚生労働省の指定する34科目のうち、3科目以上を修めて卒業した者。この要項の「諸資格」の章を参照のこと。

②知的障害者福祉司・身体障害者福祉司

この要項の「諸資格」の章を参照のこと。

4) 中学校教諭一種（社会）・高等学校教諭一種（公民）・特別支援学校教諭一種

各種教諭免許取得の要件を満たした者。[教職課程履修要項（諸資格）]を参照のこと。

5) 小学校教諭二種

玉川大学の通信課程を利用して取得可能。[教職課程履修要項（諸資格）]を参照のこと。

(4) 実習について

社会福祉学科では、社会福祉教育の一環として複数の実習科目を用意している。これらの実習科目の中には、社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得するための条件となっている科目もある。これらの受験資格を取得しようとする者は、実習科目単位修得条件に注意して履修すること。

なお、実習科目は、授業の出席状況等によっては履修を認めない場合もある。実習科目は学年ごとに所属するコース内の指定されたものを履修すること。

A ソーシャルワークコースの実習

1) ソーシャルワーク基礎実習指導

- ①「ソーシャルワーク基礎実習指導」は2年次に開講される春学期科目（2単位）である。「ソーシャルワーク基礎実習指導」を履修するためには、「社会福祉学概論A」「社会福祉学概論B」「ソーシャルワークの理解」の単位を修得済みであるか、同一年度に履修しなければならない。なお、「ソーシャルワーク基礎実習指導」は、6日間（42時間）以上の配属実習を行う。
- ②「ソーシャルワーク基礎実習指導」は1年次の秋学期に履修希望を聴取し、クラス分けを行う。なお、クラス分けは学科によって行われる。
- ③「ソーシャルワーク基礎実習指導」の履修希望者は、指定日に実習費と賠償責任保険料を教務部に納入しなければならない。
- ④社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得しようとする者は、「ソーシャルワーク基礎実習指導」「ソーシャルワーク演習1B」の単位を修得済みでなければならない。
- ⑤「ソーシャルワーク演習1A」「ソーシャルワーク演習1C」は同一年度に履修しなければならない。
- ⑥「精神保健福祉援助演習（基礎）」「精神保健福祉援助演習（専門）A」は同一年度に履修しなければならない。

2) ソーシャルワーク実習指導A、ソーシャルワーク実習指導B、ソーシャルワーク実習

- ①これらの科目は3年次秋学期に開講される「ソーシャルワーク実習指導A」（2単位）、4年次春学期に開講される「ソーシャルワーク実習指導B」（2単位）、4年次に開講される「ソーシャルワーク実習」（4単位）から構成される。なお、「ソーシャルワーク実習」は、23日（180時間）以上の配属実習を行う。
- ②履修希望者は、3年次の春学期に実施する統一試験と個別面接を受け、担当教員および配属実習先の決定を含む履修許可を得ておく必要がある。
- ③履修希望者は、各自履修登録をし、指定日に実習費と賠償責任保険料を教務部に納入しなければならない。
- ④「ソーシャルワーク実習指導A」の履修希望者は、「ソーシャルワークの理解」「ソーシャルワーク1A」「ソーシャルワーク基礎実習指導」「ソーシャルワーク演習1A」「ソーシャルワーク演習1B」「ソーシャルワーク演習1C」の単位を修得済みでなければならない。
- ⑤「ソーシャルワーク実習指導B」の履修希望者は、「ソーシャルワーク実習指導A」の単位を修得済みでなければならない。また、担当教員の「ソーシャルワーク演習2」「ソーシャルワーク実習」「卒業論文」を同時履修しなければならない。
- ⑥社会福祉士の国家試験受験資格を取得しようとする者は、「ソーシャルワーク実習指導A」「ソーシャルワーク実習指導B」「ソーシャルワーク実習」の単位を継続して修得しなければならない。ただし「ソーシャルワーク実習指導A」（2単位）のみの単位修得者は国家試験の受験資格は満たさないが、本学の卒業要件の単位に組み入れることができる。
- ⑦「ソーシャルワーク実習指導A」「ソーシャルワーク実習指導B」「ソーシャルワーク実習」と「精神保健福祉援助実習指導A」「精神保健福祉援助実習指導B」「精神保健福祉援助実習」「精神保健福祉援助実習指導C」との同時履修はできない。

3) 精神保健福祉援助実習指導A、精神保健福祉援助実習指導B、精神保健福祉援助実習、精神保健福祉援助実習指導C

- ①これらの科目は3年次秋学期に開講される「精神保健福祉援助実習指導A」（2単位）、4年次春学期に開講される「精神保健福祉援助実習指導B」（2単位）、4年次に開講される「精神保健福祉援助実習」（4単位）および4年次秋学期に開講される「精神保健福祉援助実習指導C」（2単位）から構成される。なお、「精神保健福祉援助実習」は、27日（210時間）以上の配属実習を行う。
- ②履修希望者は、3年次の春学期に実施する統一試験と個別面接を受け、担当教員および配属先の決定を含む履修許可を得ておく必要がある。
- ③履修希望者は、各自履修登録をし、指定日に実習費と賠償責任保険料を教務部に納入しなければならない。
- ④「精神保健福祉援助実習指導A」の履修希望者は、「ソーシャルワークの理解」「ソーシャルワーク1A」「ソーシャルワーク基礎実習指導」「ソーシャルワーク演習1B」「精神保健福祉援助演習（基礎）」「精神保健福祉援助演習（専門）A」の単位を修得済みでなければならない。
- ⑤「精神保健福祉援助実習指導B」の履修希望者は、「精神保健福祉援助実習指導A」を修得済みでなければならない。また、「精神保健福祉援助実習」「精神保健福祉援助実習指導C」と担当教員の「精神保健福祉援助演習（専門）B」「卒業論文」を同一年度に履修しなければならない。なお、「精神保健福祉援助実習指導C」は「精神保健福祉援助実習指導B」の単位を修得済みでなければならない。
- ⑥精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得しようとする者は、「精神保健福祉援助実習指導A」「精神保健福祉援助実習指導B」「精神保健福祉援助実習」「精神保健福祉援助実習指導C」の単位を継続して修得しなければならない。ただし「精神保健福祉援助実習指導A」（2単位）のみの単位修得者、または「精神保健福祉援助実習指導A」（2単位）と「精神保健福祉援助実習指導B」（2単位）のみの単位修得者は国家試験の受験資格は満たさないが、本学の卒業要件の単位に組み入れることができる。
- ⑦「精神保健福祉援助実習指導A」「精神保健福祉援助実習指導B」「精神保健福祉援助実習」「精神保健福祉援助実習指導C」と「ソーシャルワーク実習指導A」「ソーシャルワーク実習指導B」「ソーシャルワーク実習」の同時履修はできない。

B 福祉開発コースの実習

福祉開発フィールドワーク

- ①この科目は福祉開発コースの基幹科目の1つである。ソーシャルワークコースの学生が履修することはできない。通年の実習科目（2単位）であり、2年次に履修すること。エリア別に複数の教員が特定のテーマを設定し、グループ単位に国内外での体験実習を行う。授業形式は実習の準備のためのクラスワーク、国内外での体験実習、さらに実習の分析・総括のためのクラスワークからなる。
- ②「福祉開発フィールドワーク」の履修希望者は、「社会福祉学概論A」「社会福祉学概論B」「福祉開発の理解」の単位を修得済みであるか、同一年度に履修しなければならない。
- ③「福祉開発フィールドワーク」は1年次の秋学期に履修希望を聴取し、クラス分けを行う。
- ④クラス分けは各担当教員から指示された方法によって行われるため、必ずしも希望のクラスを履修できるとは限らない。

C コース共通の実習

社会福祉調査実習

- ①この科目は3年次に開講される通年科目（4単位）である。
- ②社会福祉士や精神保健福祉士の国家試験受験資格取得のための指定科目ではない。
- ③「社会福祉調査実習」にかかる費用については、履修者が負担することもある。

(5) 演習について

社会福祉学科では、少人数で社会福祉の理論や方法論を学問として学びかつ実践に生かすために、演習科目の授業を用意している。演習科目の中には、国家試験受験資格を得るために必要な科目もあるため、国家試験受験資格取得を目指す学生は、注意して履修計画をたてること。

1) アカデミックリテラシー

- ①「アカデミックリテラシー」は文献検索や論文・資料参照法等、大学生に最低限必要な学問的作法を学ぶ場であると同時に、少人数クラスを生かした社会福祉学の導入教育を行う場である。そのため、1年次生は必ず履修することが求められる。ただし、単位の修得は、卒業の必修要件ではない。
- ②1年次春学期に開講される半期科目である。初回授業前までに履修登録確認表で、自分のクラスを確認すること。
- ③「アカデミックリテラシー」は学科生全員を無作為に分けるため、履修者が担当希望教員を指定することができない。

2) 基礎演習

- ①「基礎演習」は、「アカデミックリテラシー」で身に付けた基本的な学問的作法を基盤として、社会福祉学の基礎知識や考え方を習得する演習である。そのため、1年次生は、必ず履修することが求められる。ただし、単位の修得は、卒業の必修要件ではない。
- ②1年次秋学期に開講される半期科目である。履修希望者は1年次春学期中に履修に関する掲示があるので、これに従うこと。
- ③「基礎演習」は履修希望者を無作為に分けるため、履修者が担当希望教員を指定することはできない。

3) 演習 1

- ①福祉開発コースの3年次に開講される通年科目である。ソーシャルワークコースの学生が履修することはない。
- ②「演習 1」は2年次の秋学期に行われるオリエンテーションまたは掲示などにより、クラス分けを行う。
- ③クラス分けは各担当教員から指示された方法によって行われるため、必ずしも希望のクラスを履修できるとは限らない。

4) 演習 2

- ①福祉開発コースの4年次に開講される通年科目である。ソーシャルワークコースの学生が履修することはない。
- ②「演習 2」の履修希望者は、「演習 1」の単位を修得済みでなければならない。
- ③「演習 2」は3年次の秋学期に行われるオリエンテーションまたは掲示などにより、クラス分けを行う。
- ④クラス分けは各担当教員から指示された方法によって行われるため、必ずしも希望のクラスを履修できるとは限らない。
- ⑤「演習 2」を履修する者は担当教員の「卒業論文」を同時履修しなければならない。
- ⑥「卒業論文」を提出できなかった者は、「演習 2」の単位は認められない。

5) ソーシャルワーク演習 1 A、ソーシャルワーク演習 1 B、ソーシャルワーク演習 1 C

- ①これらの科目は2年次開講科目で、「ソーシャルワーク演習 1 A」は春学期、「ソーシャルワーク演習 1 B」、「ソーシャルワーク演習 1 C」は秋学期に開講される。「ソーシャルワーク演習 1 A」「ソーシャルワーク演習 1 B」「ソーシャルワーク演習 1 C」は、社会福祉士の国家試験受験資格を取得するために必要な科目である。「ソーシャルワーク演習 1 B」は、精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得するため

の指定科目ではないが、本学の履修条件として必要な科目である。福祉開発コースの学生が履修することはできない。

- ②「ソーシャルワーク演習1A」「ソーシャルワーク演習1C」の履修希望者は、「社会福祉学概論A」「社会福祉学概論B」「ソーシャルワークの理解」の単位を修得済みであるか、同一年度に履修しなければならない。また、「ソーシャルワーク基礎実習指導」「ソーシャルワーク演習1B」を同一年度に履修しなければならない。
- ③「ソーシャルワーク演習1A」「ソーシャルワーク演習1C」は1年次の秋学期に履修希望を聴取し、クラス分けを行う。なお、クラス分けは学科によって行われる。
- ④「ソーシャルワーク演習1B」の履修希望者は、「ソーシャルワーク基礎実習指導」の単位を修得済みでなければならない。また「ソーシャルワーク演習1C」の履修希望者は、「ソーシャルワーク演習1A」の単位を修得済みでなければならない。
- ⑤「ソーシャルワーク演習1A」「ソーシャルワーク演習1C」と「精神保健福祉援助演習（基礎）」「精神保健福祉援助演習（専門）A」は同一年度に履修することが可能である。
- ⑥「ソーシャルワーク演習1A」「ソーシャルワーク演習1B」「ソーシャルワーク演習1C」の単位が修得できなかった者は、「ソーシャルワーク実習指導A」「ソーシャルワーク実習指導B」「ソーシャルワーク実習」「ソーシャルワーク演習2」「卒業論文」を履修することはできない。
- ⑦「ソーシャルワーク演習1B」の単位が修得できなかった者は、「精神保健福祉援助実習指導A」「精神保健福祉援助実習指導B」「精神保健福祉援助実習」「精神保健福祉援助実習指導C」「精神保健福祉援助演習（専門）B」「卒業論文」を履修することはできない。

6) 精神保健福祉援助演習（基礎）、精神保健福祉援助演習（専門）A

- ①これらの科目は2年次開講科目で、「精神保健福祉援助演習（基礎）」は春学期、「精神保健福祉援助演習（専門）A」は秋学期に開講される。「精神保健福祉援助演習（基礎）」「精神保健福祉援助演習（専門）A」は、精神保健福祉士の国家試験受験資格を得るために必要な科目である。また、福祉開発コースの学生が履修することはできない。
- ②「精神保健福祉援助演習（基礎）」「精神保健福祉援助演習（専門）A」の履修希望者は、「社会福祉学概論A」「社会福祉学概論B」「ソーシャルワークの理解」の単位を修得済みであるか、同一年度に履修しなければならない。また、「ソーシャルワーク基礎実習指導」「ソーシャルワーク演習1B」を同一年度に履修しなければならない。
- ③「精神保健福祉援助演習（基礎）」「精神保健福祉援助演習（専門）A」は1年次の秋学期に履修希望を聴取し、クラス分けを行う。クラス分けは学科によって行われる。
- ④「精神保健福祉援助演習（専門）A」は「精神保健福祉援助演習（基礎）」の単位を修得済みでなければならない。また、「ソーシャルワーク演習1B」は「ソーシャルワーク基礎実習指導」の単位を修得済みでなければならない。
- ⑤「精神保健福祉援助演習（基礎）」「精神保健福祉援助演習（専門）A」と「ソーシャルワーク演習1A」「ソーシャルワーク演習1C」は同一年度に履修することが可能である。
- ⑥「精神保健福祉援助演習（基礎）」「精神保健福祉援助演習（専門）A」の単位が修得できなかった者は、「精神保健福祉援助実習指導A」「精神保健福祉援助実習指導B」「精神保健福祉援助実習」「精神保健福祉援助実習指導C」「精神保健福祉援助演習（専門）B」「卒業論文」を履修することはできない。

7) ソーシャルワーク演習2

- ①「ソーシャルワーク演習2」の履修希望者は、「ソーシャルワーク1A」「ソーシャルワーク基礎実習指導」「ソーシャルワーク実習指導A」「ソーシャルワーク演習1A」「ソーシャルワーク演習1B」「ソーシャルワーク演習1C」の単位を修得済みでなければならない。また、担当教員の「ソーシャルワーク

実習指導B」「ソーシャルワーク実習」「卒業論文」を同時履修しなければならない。福祉開発コースの学生が履修することはできない。

- ②「ソーシャルワーク演習2」は社会福祉士の国家試験受験資格を得るために必要な科目である。この科目の単位を修得できなかった場合は、受験資格を得ることはできない。
- ③「ソーシャルワーク演習2」は「精神保健福祉援助実習指導B」「精神保健福祉援助実習」「精神保健福祉援助実習指導C」「精神保健福祉援助演習（専門）B」との同時履修はできない。
- ④「卒業論文」を提出できなかった者は、「ソーシャルワーク演習2」の単位は認められない。
- ⑤4年次に、精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得した後、5年次に社会福祉士の国家試験受験資格取得を希望する場合、「卒業論文」は4年次に単位修得済みであることから、5年次での履修はできない。

8) 精神保健福祉援助演習（専門）B

- ①「精神保健福祉援助演習（専門）B」の履修希望者は、「ソーシャルワーク1A」「ソーシャルワーク基礎実習指導」「ソーシャルワーク演習1B」「精神保健福祉援助演習（基礎）」「精神保健福祉援助演習（専門）A」「精神保健福祉援助実習指導A」「精神保健福祉援助実習指導B」の単位を修得済みでなければならない。また、担当教員の「精神保健福祉援助実習」「精神保健福祉援助実習指導C」「卒業論文」を同時履修しなければならない。福祉開発コースの学生が履修することはできない。
- ②精神保健福祉士の国家試験受験資格を得るために必要な科目である。この科目の単位を修得できなかった場合は、受験資格を得ることができない。
- ③「精神保健福祉援助演習（専門）B」は、「ソーシャルワーク実習」「ソーシャルワーク実習指導B」「ソーシャルワーク演習2」との同時履修はできない。
- ④「卒業論文」を提出できなかった者は、「精神保健福祉援助演習（専門）B」の単位は認められない。
- ⑤4年次に、社会福祉士の国家試験受験資格を取得した後、5年次に精神保健福祉士の国家試験受験資格取得を希望する場合、「卒業論文」は4年次に単位修得済みであることから、5年次での履修はできない。

9) ソーシャルワーク特別演習1・2

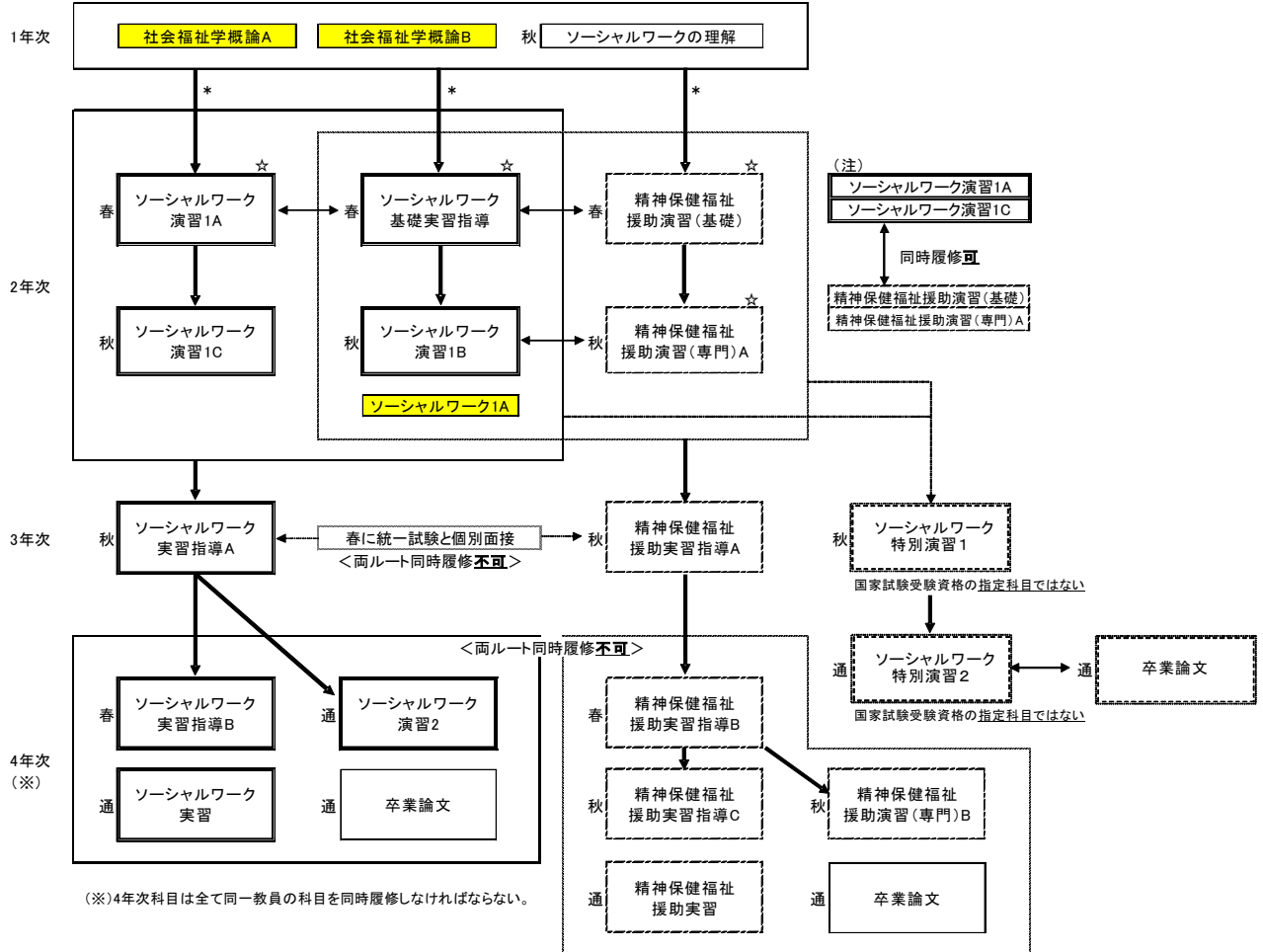
- ①ソーシャルワークコースの学生のなかで、2年次が終了した時点で、4年次に「ソーシャルワーク実習」もしくは「精神保健福祉援助実習」を履修しないことを決めた学生のための演習である。したがって、この演習を選択した学生は、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の受験資格を取得できない。
- ②「ソーシャルワーク特別演習1」は、「ソーシャルワーク実習指導A」に相当する科目である。履修希望者は「ソーシャルワークの理解」「ソーシャルワーク1A」「ソーシャルワーク基礎実習指導」「ソーシャルワーク演習1A」「ソーシャルワーク演習1B」「ソーシャルワーク演習1C」の単位を履修済みでなければならない。
- ③「ソーシャルワーク特別演習1」は「精神保健福祉援助実習指導A」に相当する科目である。履修希望者は、「ソーシャルワークの理解」「ソーシャルワーク1A」「ソーシャルワーク基礎実習指導」「ソーシャルワーク演習1B」「精神保健福祉援助演習（基礎）」「精神保健福祉援助演習（専門）A」の単位を履修済みでなければならない。
- ④「ソーシャルワーク特別演習2」は「ソーシャルワーク演習2」および「精神保健福祉援助実習（専門）B」に相当する科目である。履修希望者は、「ソーシャルワーク特別演習1」の単位を原則として修得済みでなければならない。また、担当教員の「卒業論文」を同時履修しなければならない。
- ⑤「卒業論文」を提出できなかった者は、「ソーシャルワーク特別演習2」の単位は認められない。

【参考】リンク制科目について(2012年度生以降)

1. ソーシャルワークコースの演習・実習系科目(リンク制科目)

!! 注意 !!

この表はあくまでリンク制が適用される科目についてのみの表であり、**国家試験受験資格取得のためには他にも修得しなければならない科目があることに注意すること。**詳細は国家試験受験資格のページを熟読のこと。
また、**実習・演習の注意事項は「4. 実習について」および「5. 演習について」のページを参照し、熟読すること。**



(※)4年次科目は全て同一教員の科目を同時履修しなければならない。

- 社会福祉士ルート □ 精神保健福祉士ルート □ 前のページの9)を参照すること
- 社会福祉士指定科目 □ 精神保健福祉士指定科目 □ 両資格共通の指定科目

【矢印・記号の意味】

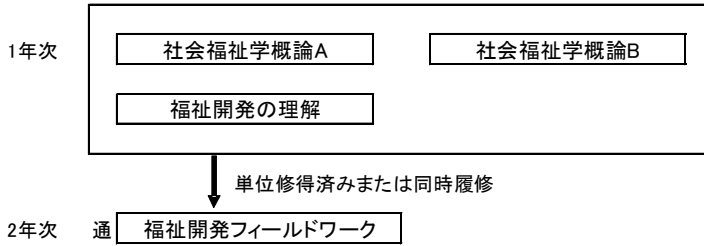
- ↓ : 前提科目の単位修得済みが条件 * : 同時履修でも可 ↔ : 同時履修しなければならない
- ☆ : 前年度秋学期にオリエンテーションを実施(クラス指定) ↓ : 前提科目の履修済みが条件

【注意事項】

- ① 事前に履修許可を得る必要がある科目もあるので注意すること。
- ② 実習科目は実習費と賠償責任保険料を別途納入する必要がある。
- ③ 卒業論文を未提出の場合は同時履修の「ソーシャルワーク演習2」「精神保健福祉援助演習(専門)B」の単位も認められない。
- ④ 「春」は春学期、「秋」は秋学期、「通」は通年を示す。

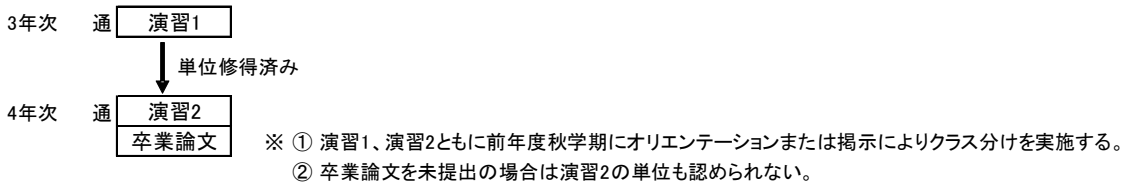
2. 福祉開発コースの演習・実習系科目(リンク制科目)

(1)実習科目



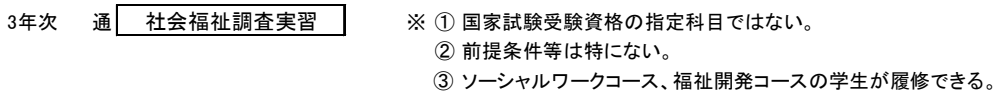
※「福祉開発フィールドワーク」は、ソーシャルワークコースの学生は履修できない。

(2)演習科目

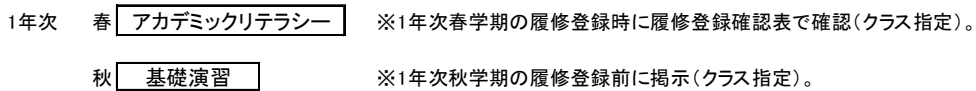


3. コース共通の演習・実習系科目

(1)実習科目



(2)演習科目



(6) 大学独自の認証資格について

1) 多文化共生ファシリテーター／サポーター認証取得カリキュラム

本学科では多文化共生ファシリテーター／サポーター認証を取得可能である。

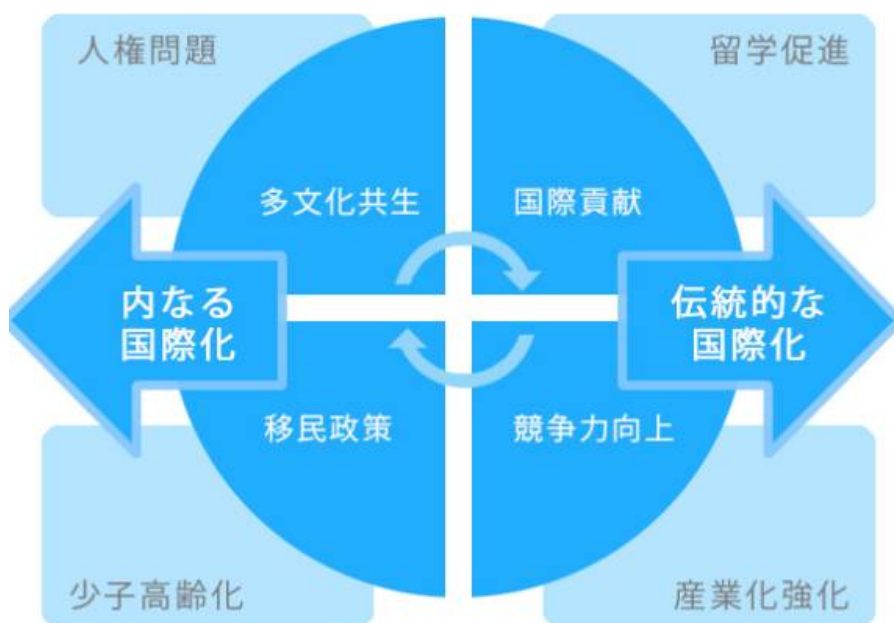
多文化共生ファシリテーターとは、移民問題やこれに付随する人権問題に対しても鋭い洞察力をもち、外国につながる人たちを包摂した共生社会を生み出す担い手である。その認証を受けるためには、本学科が開講している「内なる国際化論 A」「内なる国際化論 B」などの指定科目より 12 単位以上を修得し、加えて「ボランティア実践指導」を取得することが必要である。また、多文化共生サポーターとは、所定の教室での学びを修めた学生に対して与えられる認証である。その認証を受けるためには、本学科が開講している「内なる国際化論 A」「内なる国際化論 B」などの指定科目より 12 単位以上を修得することが必要である。

なお、この認証制度の指定科目は年度によって異なるので、内なる国際化プロジェクトの WEB サイトに記載されている開講科目に関する情報を必ず確認すること。

2) 説明会について

入学時の学科ガイダンスにて説明するので出席すること。また、本学 WEB サイトにある「内なる国際化プロジェクト」に詳細な情報が掲載されているので、随時確認すること。

内なる国際化プロジェクト WEB サイト ⇒ <http://internal-i18n-meijigakuin.org/>



(7) 留学生

中国、韓国などの、東アジア諸国からの留学生のために、講義科目として「社会福祉学のための日本語 A」（1 年次、春学期、2 単位）と「社会福祉学のための日本語 B」（1 年次、秋学期、2 単位）を開講する。留学生は、他科目に優先して 1 年次に、やむをえない場合には 2 年次に履修し、社会福祉学を学ぶための日本語のリテラシーを修得するようにすること。

なお、この科目は、1 年次春学期開講の「アカデミックリテラシー」、秋学期開講の「基礎演習」を補完する科目としての位置づけとなる。

(8) 留学希望者

認定留学希望者は、演習担当教員に必ず個別に相談し、準備を進めること。

(9) 編入生および転学科生

1) 2年次への転学科生

- ①社会福祉学科の必修科目である「社会福祉学概論A」「社会福祉学概論B」を履修すること。所属するコースを申請し、コースに応じた選択必修科目（「福祉開発概論」または「ソーシャルワーク1A」）を履修すること。
- ②社会福祉士の国家試験受験資格の取得を希望する者は、「ソーシャルワークの理解」「ソーシャルワーク基礎実習指導」と「ソーシャルワーク演習1A」「ソーシャルワーク演習1B」「ソーシャルワーク演習1C」を履修すること。履修にあたっては学科主任、担当教員との面接が必要となる。
- ③精神保健福祉士の国家試験受験資格の取得を希望する者は、「ソーシャルワークの理解」「ソーシャルワーク基礎実習指導」「ソーシャルワーク演習1B」「精神保健福祉援助演習（基礎）」「精神保健福祉援助演習（専門）A」を履修すること。履修にあたっては学科主任、担当教員との面接が必要になる。
- ④単位修得の状況により、国家試験受験資格の取得および卒業資格を得るために4年以上を要することがある。

2) 3年次への編入・転学科生

- ①社会福祉学科の必修科目である「社会福祉学概論A」「社会福祉学概論B」を履修すること。所属するコースを申請し、コースに応じた必修科目（「福祉開発概論」または「ソーシャルワーク1A」）を履修すること。
- ②社会福祉士の国家試験受験資格の取得を希望する者は、「ソーシャルワークの理解」「ソーシャルワーク基礎実習指導」「ソーシャルワーク演習1A」「ソーシャルワーク演習1B」「ソーシャルワーク演習1C」を履修すること。履修にあたっては学科主任、担当教員との面接が必要となる。
- ③精神保健福祉士の国家試験受験資格の取得を希望する者は、「ソーシャルワークの理解」「ソーシャルワーク基礎実習指導」「ソーシャルワーク演習1B」「精神保健福祉援助演習（基礎）」「精神保健福祉援助演習（専門）A」を履修すること。履修にあたっては学科主任、担当教員との面接が必要になる。
- ④国家試験受験資格の取得および卒業資格を得るためには3年以上を要する。

(10) 横浜市内大学間単位互換制度

「横浜市内大学間学術・教育交流協議会」単位互換制度のこと。

1) 対象学年

2010年度生から適用するものとし、対象学年は1～4年次生。

2) 履修可能科目

他大学の提供科目中、本学科「学科科目」（専門科目）に相当する科目のみを対象とする。

3) 単位認定

- ①年間に履修できる単位数 4単位まで（年間履修制限単位に含む）
- ②通算で履修できる単位数 8単位まで
- ③卒業要件として認められる単位数 8単位

4) 卒業要件上の位置づけ

他大学で修得した科目は学科第8群の自由選択科目として扱われ、卒業要件単位に組み込まれる。教職等の資格要件の科目には相当しない。GPAにも算入される。

5) 認定方法

「単位互換科目 1、2・・・」として、() 内に他大学名を記載し、本学の評価記号を適用させる。

6) 履修上の注意

①単位互換制度を希望する学生は、募集要項およびホームページを参照して制度の詳細を理解した上で、他大学で履修できる科目の範囲・単位数および卒業要件上の位置付け等につき、事前に教務課の窓口にし出て、学科主任に相談すること。

②提供科目および単位互換制度の詳細

「横浜市内大学間学術・教育交流協議会」のホームページおよび募集要項を参照。

(11) 科目と単位

開講学期の区別は、下記の略語を用いて示す。

通年（通）：通年科目

半期（半）：学期科目で春・秋の開講学期が年度により異なる科目

※ただし、変更の可能性があるので、履修にあたっては毎年度の時間割を必ず確認すること。

《履修上の注意》

- ・表中の「*」は必修科目、「a」は福祉開発コースのコース必修科目、「b」はソーシャルワークコースのコース必修科目を示す。空欄の場合は選択科目を示す。
- ・同一科目のA・Bは、Aのみ、または、Bのみの単位を履修することは可能（但し科目によって指示・制限している場合、A・Bを必ず同一年度に履修するようリンクをかけている科目、資格取得に関連する科目は除く）だが、内容的に連続している場合が多いので、できるかぎり同一年度に続けて履修することが望ましい。
- ・在学中に、科目の新設・廃止、科目名の変更がある場合がある。そうした変更は、学内掲示のほか、Port Hepburnで掲示する毎年度版の履修要項で確認すること。
- ・この履修要項に記載がある科目であっても、年度によっては開講しない（休講）ことがある。開講しない科目については、学内掲示のほか、毎年度のシラバスで確認すること。
- ・科目によっては、予備登録、履修者数の制限、事前課題等による履修許可者の選抜などの履修制限を行なう場合がある。

	ナンバリング	科目名	単位数	開講	注	
〔1年次以降の開講科目〕						
*	SWBAS	101	社会福祉学概論A	2	半	
*		102	社会福祉学概論B	2	半	
		103	ソーシャルワークの理解	2	半	(1)
		104	福祉開発の理解	2	半	(1)
	SWSWP	101	ソーシャルワークの基礎	2	半	
	SWSEP	101	アカデミックリテラシー	2	半	
		102	基礎演習	2	半	(2)
	SWOPN	101	社会学概論	2	半	(3)
	EEELM	121	入門経済史1	2	半	(4)
		122	入門経済史2	2	半	(4)
	SWOPN	102	社会福祉学のための日本語A	2	半	(5)
		103	社会福祉学のための日本語B	2	半	(5)
	KCGEN	102	Current Affairs A	2	半	
		103	Current Affairs B	2	半	
〔2年次以降の開講科目〕						
	SWBAS	201	社会福祉史A	2	半	
		202	社会福祉史B	2	半	
a		203	福祉開発概論	2	半	
		204	社会福祉調査	2	半	
	SWSPA	201	社会保障論A	2	半	
		202	社会保障論B	2	半	

	ナンバリング	科目名	単位数	開講	注	
	SWSPA	203	社会福祉法制	2	半	
		204	社会政策論 A	2	半	
		205	社会政策論 B	2	半	
	SWUCL	201	臨床心理学 A	2	半	
		202	臨床心理学 B	2	半	
b	SWSWP	201	ソーシャルワーク 1 A	2	半	(1)
		202	ソーシャルワーク 2 A	2	半	
		203	ソーシャルワーク 3 A	2	半	
		204	医療ソーシャルワーク論	2	半	
		205	介護概論	2	半	
		206	精神保健福祉援助技術総論	2	半	
		207	精神障害者の生活支援システム	2	半	
	SWAVF	201	障害者福祉総論	2	半	
		202	共生社会の理解	2	半	
		203	児童福祉論 A	2	半	
		204	高齢者福祉論 A	2	半	
		205	精神保健福祉論 A	2	半	
		206	身体障害者福祉論	2	半	
		207	知的障害者福祉論	2	半	
	SWSPL	201	社会福祉学特講 1	2	半	
		202	社会福祉学特講 2	2	半	
	SWSEP	201	ソーシャルワーク基礎実習指導	2	半	(1) (6)
		202	福祉開発フィールドワーク	2	通	(1) (6)
		203	ソーシャルワーク演習 1 A	2	半	(2)
		204	ソーシャルワーク演習 1 B	2	半	(2)
		205	ソーシャルワーク演習 1 C	2	半	(2)
		206	精神保健福祉援助演習 (基礎)	2	半	(2)
		207	精神保健福祉援助演習 (専門) A	2	半	(2)
	SGVOL	201	ボランティア実践指導	4	通	(7)
	SWOPN	202	心理学概論	2	半	
	EBBUS	102	経済学概論 1	2	半	(4)
		103	経済学概論 2	2	半	(4)
	J-PUL	111	憲法 A	2	半	(8)
		112	憲法 B	2	半	(8)
	J-CIL	201	民法 A	2	半	(8)
		202	民法 B	2	半	(8)
	SWOPN	201	社会学特講	2	半	(9)
	SGBAS	204	内なる国際化論 A	2	半	(10)

ナンバリング		科目名	単位数	開講	注
SGBAS	205	内なる国際化論 B	2	半	(10)
SWOPN	203	障害児・者心理学概論 A	2	半	
	204	障害児・者心理学概論 B	2	半	
	205	障害児医学総論 A	2	半	
	206	障害児医学総論 B	2	半	
	207	特別支援教育学総論 A	2	半	
	208	特別支援教育学総論 B	2	半	
	209	病弱教育総論	2	半	
〔3年次以降の開講科目〕					
SGLEC	236	社会人類学 A	2	半	
	237	社会人類学 B	2	半	
SWBAS	301	社会福祉の思想	2	半	
SWSPA	301	就労支援サービス	2	半	
	302	権利擁護と成年後見制度	2	半	
	303	国際社会保障論	2	半	
	304	Welfare States	2	半	
	305	公的扶助論 A	2	半	
	306	公的扶助論 B	2	半	
	307	福祉行財政と福祉計画	2	半	
	308	共生社会の法と人権	2	半	
	309	ソーシャルインクルージョンの政策	2	半	
SWUCL	301	精神保健 A	2	半	
	302	精神保健 B	2	半	
	303	精神医学 A	2	半	(11)
	304	精神医学 B	2	半	(11)
	305	医学知識	2	半	
SWSWP	301	ソーシャルワーク 1 B	2	半	
	302	ソーシャルワーク 2 B	2	半	
	303	ソーシャルワーク 3 B	2	半	
	304	社会福祉運営管理論 A	2	半	
	305	社会福祉運営管理論 B	2	半	
	306	精神保健福祉援助技術各論 A	2	半	
	307	精神保健福祉援助技術各論 B	2	半	
	308	学校ソーシャルワーク論	2	半	
SWAVF	301	児童福祉論 B	2	半	
	302	医療福祉論	2	半	
	303	高齢者福祉論 B	2	半	
	304	精神保健福祉論 B	2	半	

	ナンバリング	科目名	単位数	開講	注	
	SWAVF	305	精神科リハビリテーション学A	2	半	
		306	精神科リハビリテーション学B	2	半	
		307	家庭福祉論	2	半	
		308	女性福祉論	2	半	
		309	地域福祉論A	2	半	
		310	地域福祉論B	2	半	
		311	司法福祉論	2	半	
		312	国際福祉論1	2	半	
		313	国際福祉論2	2	半	
		314	コミュニティ創生論A	2	半	
		315	コミュニティ創生論B	2	半	
		SWSPL	301	社会福祉学特講3	2	半
	302		社会福祉学特講4	2	半	
	303		社会福祉学特講5A	2	半	
	304		社会福祉学特講5B	2	半	
	SWSEP	301	演習1	2	通	(2)
		302	社会福祉調査実習	4	通	(12)
		303	インターンシップ	2	通	
		304	ソーシャルワーク実習指導A	2	半	(1)
		305	精神保健福祉援助実習指導A	2	半	(1)
		306	ソーシャルワーク特別演習1	1	半	(2)(13)
	SWOPN	301	NPO論	2	半	
		302	専門外国書講読A	2	半	
		303	専門外国書講読B	2	半	
		304	専門外国書講読C	2	半	
		305	専門外国書講読D	2	半	
	SGLEC	214	地域社会論	2	半	
		215	都市社会学	2	半	
		246	文化社会論	2	半	
		224	技術と人間A	2	半	
		225	技術と人間B	2	半	
		206	社会倫理学	2	半	
		203	公共政策論	2	半	
		248	家族社会学	2	半	
		244	社会的ネットワーク論	2	半	
		210	犯罪社会学	2	半	
		229	暴力の論理学	2	半	
		227	性現象論	2	半	

	ナンバリング	科目名	単位数	開講	注	
	SGLEC	228	生命の社会学	2	半	
		240	産業社会学A	2	半	
		241	産業社会学B	2	半	
		249	環境社会学	2	半	
		233	地域環境論	2	半	
		247	開発と健康の社会学	2	半	
		223	医療と身体の人類学	2	半	
		205	社会行動論	2	半	
		217	比較社会学	2	半	
		234	エスニシティの社会学	2	半	
	TCKNO	961	職業指導	2	半	
	J-SOL	321	労働法1	2	半	(8)
		322	労働法2	2	半	(8)
	J-POL	335	福祉国家論A	2	半	
		336	福祉国家論B	2	半	
		313	公共と市民	2	半	
		314	政府と企業	2	半	
		311	都市行政	2	半	
		312	都政研究	2	半	
	SWOPN	306	視覚障害教育総論	2	半	(14)
		307	聴覚障害教育総論	2	半	(14)
		308	障害児・者心理学1(コミュニケーション)	2	半	(14)
		309	障害児・者心理学3(学習)	2	半	(14)
		310	病弱者の心理・生理・病理	2	半	(14)
		311	障害者基礎理論	2	半	(14)
	J-PUL	221	行政法A	2	半	(8)
		222	行政法B	2	半	(8)
	J-NFL	341	成年後見法制1	2	半	
		342	成年後見法制2	2	半	
		343	比較成年後見法制	2	半	
	SWOPN	312	社会起業論A	2	半	
		313	社会起業論B	2	半	
		314	Social Welfare in English	2	半	
〔4年次以降の開講科目〕						
	SWSEP	401	ソーシャルワーク演習2	4	通	(2)
		402	精神保健福祉援助演習(専門)B	2	半	(2)
		403	演習2	2	通	(2)
		404	ソーシャルワーク実習指導B	2	半	(1)

ナンバリング		科目名	単位数	開講	注
SWSEP	405	ソーシャルワーク実習	4	通	(1)
	406	精神保健福祉援助実習指導B	2	半	(1)
	407	精神保健福祉援助実習指導C	2	半	(1)
	408	精神保健福祉援助実習	4	通	(1)
	409	ソーシャルワーク特別演習2	2	通	(2)
	410	卒業論文	4	通	(1)(2)
SWOPN	401	特別支援学校教育実習	3	通	(15)

(注 1)「実習について」の項を確認すること。

(注 2)「演習について」の項を確認すること。

(注 3)社会福祉士、精神保健福祉士受験資格のためには1年次で履修することが望ましい。

(注 4)科目付番2は同一科目付番1で教授された知識が求められる。

(注 5)この科目は留学生のための科目であり一般学生は履修できない。

(注 6)ソーシャルワークコースについては「ソーシャルワーク基礎実習指導」が、福祉開発コースについては「福祉開発フィールドワーク」が履修でき、それぞれ別のコースの実習科目は履修できない。

(注 7)「ボランティア実践指導」の履修人数は20人程度を上限とする。履修希望者は必ず初回の授業に出席し、担当教員の指示に従うこと。

(注 8)これらの科目の履修に際しては、BはAで学んだ知識を前提とした続編としての性格を有するため、再履修の場合を除き、同一年度にAとBの両方を履修することが望ましい。

(注 9)社会学特講は、8単位まで卒業単位として認められる（ただし、同じ担当者による同じ科目名のクラスを除く）。

(注 10)「内なる国際化論A」「内なる国際化論B」はそれぞれ4単位まで卒業単位として認められる（ただし、同じ担当者による同じ科目名のクラスを除く）。

(注 11)精神医学A・Bは同時履修を前提とする。

(注 12)「コース共通の実習」の項を確認すること。

(注 13)原則として3年次生のみが履修できる。

(注 14)特別支援学校教諭の資格取得希望者優先の科目であり、その他の学生は履修制限等がかけられることがある。

(注 15)教職課程の実習については、「教職課程履修要項(諸資格)」を確認のこと。

(12) 教職課程の教科及び教科の指導法に関する科目（卒業要件外）

下記科目は、教育職員免許状のための単位として履修できる科目であり、卒業要件単位にならない。

下記「教科及び教科の指導法に関する科目」と「教職課程履修要項（諸資格）」に記載の「教職に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」と「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち各教科の指導法科目を年間履修制限単位に加えて16単位まで履修できる。

ナンバリング	配当年次	科目名	単位数	開講	注
TCKNO	901	日本史A	2	半	
	902	日本史B	2	半	
	911	世界史A	2	半	
	912	世界史B	2	半	
	921	地理学概論1	2	半	
	922	地理学概論2	2	半	
	941	地誌概説1	2	半	
942	地誌概説2	2	半		
J-INR	103	国際政治学A	2	半	
	104	国際政治学B	2	半	
J-POL	201	現代政治理論1A	2	半	
	202	現代政治理論1B	2	半	
LXCGRS	301	哲学(専)1	2	半	(1)
	302	哲学(専)2	2	半	(1)
TCKNO	951	宗教学概論1	2	半	
	952	宗教学概論2	2	半	

(1) 3年次以上で「哲学(専)1・2」を履修するためには、「MGPHI」(哲学)、「MGETH」(倫理学)、「MGLOG」(倫理学)の科目から、同一名称の2科目(計4単位)を修得済みでなければならない。

国家試験受験資格
(社会福祉学科生)

1. 社会福祉士

社会福祉士の資格と職務

人口の高齢化が進み、家族機能が変化する中で、高齢者をはじめ、身体・知的障害者その他の人々のための社会福祉サービスの需要が高まり、それを支える社会福祉専門職の養成・確保が課題となっている。そのような社会的背景のもと、1987年に「社会福祉士及び介護福祉士法」が制定され、「社会福祉士」「介護福祉士」という国家資格の制度が新しく設けられた。

本学で対象となるのは社会福祉士の資格のみである。社会学部社会福祉学科の学生が学科教育方針とそれに伴うカリキュラムに添って所定の科目の単位を修得して卒業（卒業見込みを含む）すると社会福祉士国家試験の受験資格が得られる（法第7条1号に該当）。

社会福祉士の職務は、法によれば、「専門的知識及び技術をもって、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連絡及び調整その他の援助を行うこと」である。

2006年12月に出された、社会保障審議会福祉部会の「介護福祉士制度及び社会福祉士制度の在り方に関する意見」によると、社会福祉士の役割は、

- ①福祉課題を抱えた者からの相談に応じ、必要に応じてサービス利用を支援するなど、その解決を自ら支援する役割
- ②利用者がその有する能力に応じて、尊厳をもった自立生活を営むことができるよう、関係する様々な専門職や事業者、ボランティア等との連携を図り、自ら解決することのできない課題については当該担当者への橋渡しを行い、総合的かつ包括的に援助していく役割
- ③地域の福祉課題の把握や社会資源の調整・開発、ネットワークの形成を図るなど、地域福祉の増進に働きかける役割

等を適切に果たしていくことが求められているとされている。

つまり、社会福祉士は、生活する上で困難を抱えている人々すべてに対して相談に応じ、それらの人々の生活を支援する業務を高い実践力をもって行う専門職であるといえる。

近年、ニーズの多様化、高度化が進む中、社会福祉士の活躍の場は、高齢者・障害者・児童・生活保護・女性・母子などの福祉の分野にとどまらず、教育・医療・司法・行政・労働・権利擁護に関する領域など、多様な分野に広がっている。


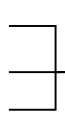
「社会福祉士」国家試験受験資格取得に必要な科目

「社会福祉士及び介護福祉士法等の一部を改正する法律」が2007年に公布された。これに基づき、2009年度生から、以下に示すように法令で定められた「指定科目」に基づいて、本学開講科目を設定している。この本学で設定している国家試験受験資格取得に必要な科目の単位を修得し卒業すれば（卒業見込みを含めて）、国家試験の受験資格が得られる。

したがって、この試験を受験しようとする者は、下記の諸点をよく注意して科目を履修する必要がある。

◎ 「指定科目」と本学の開講科目

<法令に定められている「指定科目」とは次の表のとおりである。>

指定科目等の名称	
人・社会・生活と福祉の理解に関する知識と方法	
<ul style="list-style-type: none"> * 人体の構造と機能及び疾病 * 心理学理論と心理的支援 * 社会理論と社会システム 現代社会と福祉 * 社会調査の基礎 	 うち1科目
総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術	
<ul style="list-style-type: none"> * 相談援助の基盤と専門職 相談援助の理論と方法 	
地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術	
<ul style="list-style-type: none"> 地域福祉の理論と方法 * 福祉行財政と福祉計画 * 福祉サービスの組織と経営 	
サービスに関する知識	
<ul style="list-style-type: none"> * 社会保障 * 高齢者に対する支援と介護保険制度 * 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 * 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 * 低所得者に対する支援と生活保護制度 * 保健医療サービス * 就労支援サービス * 権利擁護と成年後見制度 * 更生保護制度 	 うち1科目
実習・演習	
<ul style="list-style-type: none"> 相談援助演習 相談援助実習指導 相談援助実習 	

* 印は基礎科目

<本学で開講されている学科目は、必ずしもこの「指定科目」の名称と同じではない。その対比は次のとおりである。>

	指定科目等の名称	開講科目の名称
*	人体の構造と機能及び疾病	医学知識
*	心理学理論と心理的支援	心理学概論
*	社会理論と社会システム	社会学概論
	現代社会と福祉	社会福祉学概論A、社会福祉学概論B
*	社会調査の基礎	社会福祉調査
*	相談援助の基盤と専門職	ソーシャルワーク 1 A、 ソーシャルワーク 1 B
	相談援助の理論と方法	ソーシャルワーク 2 A、 ソーシャルワーク 2 B、 ソーシャルワーク 3 A、 ソーシャルワーク 3 B
	地域福祉の理論と方法	地域福祉論 A、地域福祉論 B
*	福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画
*	福祉サービスの組織と経営	社会福祉運営管理論 A
*	社会保障	社会保障論 A、社会保障論 B
*	高齢者に対する支援と介護保険制度	高齢者福祉論 A、介護概論
*	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉総論
*	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童福祉論 A
*	低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論 A
*	保健医療サービス	医療福祉論
*	就労支援サービス	就労支援サービス
*	権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見制度
*	更生保護制度	司法福祉論
	相談援助演習	ソーシャルワーク演習 1 A、ソーシャルワーク演習 1 B、 ソーシャルワーク演習 1 C、ソーシャルワーク演習 2
	相談援助実習指導	ソーシャルワーク基礎実習指導、 ソーシャルワーク実習指導 A、 ソーシャルワーク実習指導 B
	相談援助実習	ソーシャルワーク実習

* 印は基礎科目

全学年共通

1. 「社会福祉士」受験資格と「精神保健福祉士」受験資格の同時取得はできない。
2. 3年次編入生（転学科生）が国家試験を受験しようとする場合、本学では、原則として卒業までに3年以上を要するので注意すること。

3. 参考1：「社会福祉士」受験資格の養成課程

社会福祉士受験資格取得のための養成課程は次頁の図のとおりである。これで分かるように、受験資格は、必ずしも法第7条第1号の社会福祉系4年制大学でなければ取れないというわけではない。例えば、本学で指定科目が全部単位取得できなくとも基礎科目の単位を全部取得していれば、法第7条第2号のように卒業後、6ヵ月の養成施設に入ってそれを卒業しても取ることができる。

参考2：社会福祉士国家試験について

「社会福祉士」試験科目

人体の構造と機能及び疾病	心理学理論と心理的支援
社会理論と社会システム	現代社会と福祉
社会調査の基礎	相談援助の基盤と専門職
相談援助の理論と方法	地域福祉の理論と方法
福祉行財政と福祉計画	福祉サービスの組織と経営
社会保障	高齢者に対する支援と介護保険制度
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度
低所得者に対する支援と生活保護制度	保健医療サービス
就労支援サービス	権利擁護と成年後見制度
更生保護制度	

受験に関する情報や問い合わせ、出願は下記で受け付けている。

公益財団法人 社会福祉振興・試験センター 試験室

(ホームページ) <http://www.sssc.or.jp/>

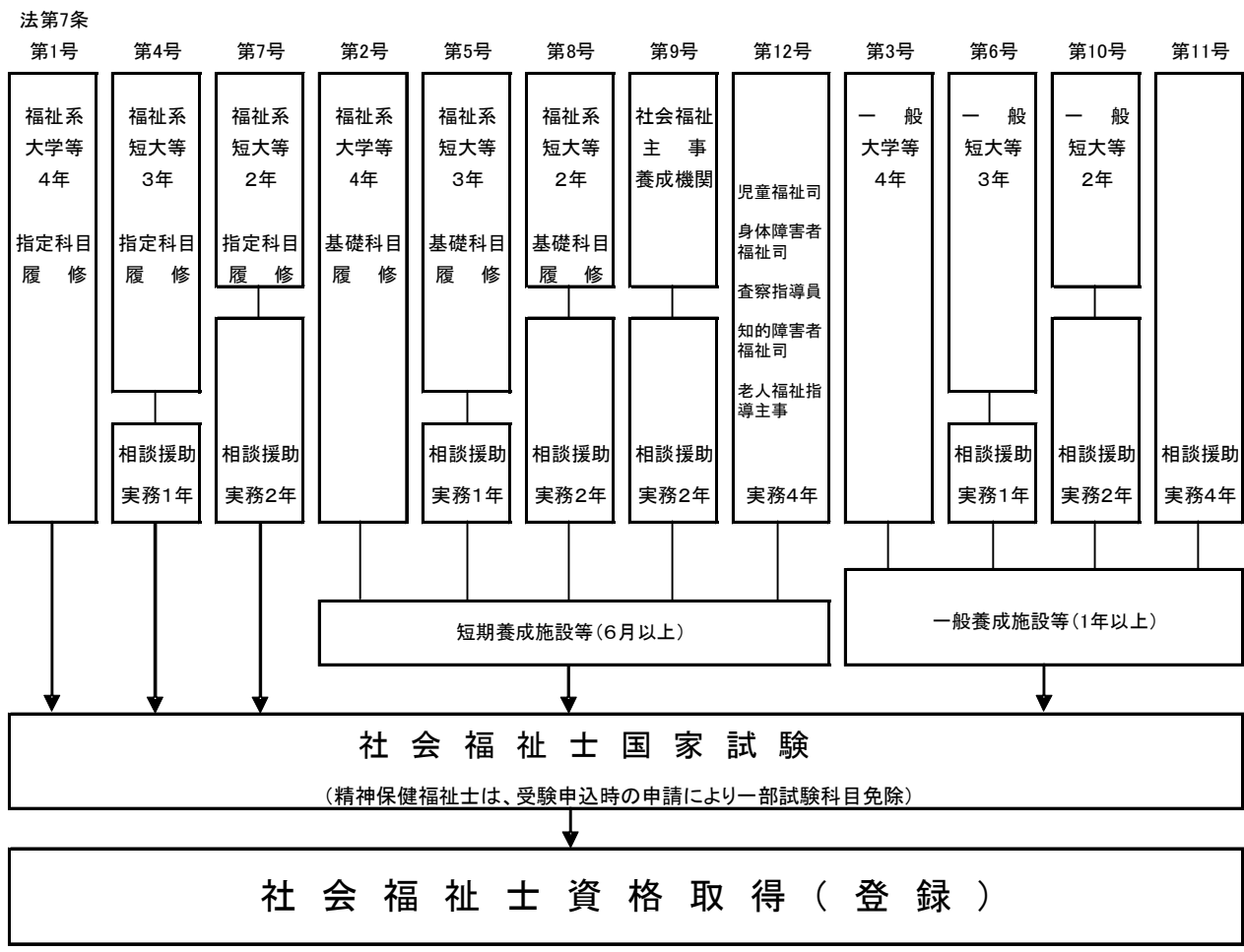
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOS（センポス）ビル

電話 03-3486-7521

4. 社会福祉士一般養成施設については、公益財団法人社会福祉振興・試験センターのホームページを参照のこと。

<http://www.sssc.or.jp>

社会福祉士資格の養成課程



(注意)

上記の表に記載のある「短期養成施設」「一般養成施設」の入学に必要な学歴・相談援助実務等は各施設において審査・決定を行ないますので、ご希望の各施設に直接お問い合わせください。また「実習科目免除」の可否についても、ご希望の各施設にお問い合わせください。

(公益財団法人社会福祉振興・試験センターHP より抜粋)

2. 精神保健福祉士

精神保健福祉士の職務

我が国の精神保健福祉の現状については、精神障害者の長期入院やいわゆる社会的入院の問題等が指摘されており、精神障害者の社会復帰を促進することが緊急の課題となっている。このため、精神障害者が社会復帰を果たす上で障害となっている諸問題の解決を図る必要がある、医師等の医療従事者が行う診療行為に加えて、退院のための環境整備などについての様々な支援を行う人材の養成・確保が求められている。こうしたことから、精神障害者の保健及び福祉に関する専門的知識及び技術をもって、精神障害者の社会復帰に関する相談援助を行う者として、精神保健福祉士の資格制度が1997年に創設された。その基本的な業務内容は、

①精神障害者の相談に応じること

精神障害者自身は、精神障害者に対する各種給付制度、税の減免措置等の経済的支援や、社会復帰施設等の社会資源に関する知識を有しないことが通常であり、精神障害者の社会復帰に向けた自助努力を支援するに当たっては、精神障害者の求めに応じて、活用可能な様々な選択肢を提供することが重要である。そのため、精神保健福祉士は、精神障害者の精神疾患の状態にも配慮しつつ、その円滑な社会復帰に資する各種の情報提供をその業務として行う。

②精神障害者に対する助言、指導を行うこと

精神障害者の社会復帰を支援するためには、精神障害者の相談に応じるだけでなく、当該精神障害者にとって、どのような制度を利用する事が有利であるか、どのような選択肢が適しているか、そのような制度を利用する上で満たすべき条件は何なのか等を分析検討した上で、精神障害者が目指すべき社会復帰の方向を提案し、誘導していくことが重要である。そのため、精神保健福祉士は、精神障害者に対して、その精神疾患の状態にも配慮しつつ、その円滑な社会復帰に資する退院後の住居や再就労の場の選択等について、積極的な提案、誘導をその業務として行う。

③精神障害者に対する日常生活への適応のために必要な訓練、その他を行うこと

入院中の精神障害者の中には、10年以上入院している人が3分の1以上いるなど入院期間が長期にわたる人が多く、このような人については、精神保健福祉士は、社会復帰が円滑に進むように、生活習慣を身につけたり、社会資源の活用ができるように、日常生活への適応のために必要な訓練その他の援助を行う。

以上が基本的な業務であるが、勤務先としては、精神科病院、診療所、保健所、精神保健福祉センター、社会復帰施設、精神障害者作業所、保護観察所等多岐にわたるのでその場に応じた多彩な活動が展開される。

「精神保健福祉士」国家試験受験資格取得に必要な科目

2011年、精神保健福祉士法の改正が行われた。これに基づき、2012年度生から、以下に示すように本学科で、法令に定められている「指定科目」の単位を修得し卒業すれば（卒業見込みを含めて）、この法に基づく国家試験の受験資格が得られる。したがって、この試験を受験しようとする者は、下記の諸点をよく注意して科目を履修する必要がある。

◎ 「指定科目」と本学の開講科目

<法令に定められている「指定科目」とは次の表のとおりである。>

	科 目 名	備 考
共通科目	<ul style="list-style-type: none"> * 人体の構造と機能及び疾病 * 心理学理論と心理的支援 * 社会理論と社会システム * 現代社会と福祉 * 地域福祉の理論と方法 * 社会保障 * 低所得者に対する支援と生活保護制度 * 福祉行財政と福祉計画 * 保健医療サービス * 権利擁護と成年後見制度 * 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 40px; margin-right: 10px;"></div> うち1科目 </div>
専門科目	<ul style="list-style-type: none"> 精神疾患とその治療 精神保健の課題と支援 * 精神保健福祉相談援助の基盤（基礎） 精神保健福祉相談援助の基盤（専門） 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 精神保健福祉に関する制度とサービス 精神障害者の生活支援システム 	
実習演習科目	<ul style="list-style-type: none"> * 精神保健福祉援助演習（基礎） 精神保健福祉援助演習（専門） 精神保健福祉援助実習指導 精神保健福祉援助実習 	

* 印は基礎科目

<本学で開講されている学科目は、必ずしもこの「指定科目」の名称と同じではない。その対比は次のとおりである。>

指定科目	本学開講科目
* 人体の構造と機能及び疾病	医学知識
* 心理学理論と心理的支援	心理学概論
* 社会理論と社会システム	社会学概論
* 現代社会と福祉	社会福祉学概論A、社会福祉学概論B
* 地域福祉の理論と方法	地域福祉論A、地域福祉論B
* 社会保障	社会保障論A、社会保障論B
* 低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論A
* 福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画
* 保健医療サービス	医療福祉論
* 権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見制度
* 障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉総論
精神疾患とその治療	精神医学A、精神医学B
精神保健の課題と支援	精神保健A、精神保健B
* 精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	ソーシャルワーク1A
精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	精神保健福祉援助技術総論
精神保健福祉の理論と相談援助の展開	精神保健福祉援助技術各論A、精神保健福祉援助技術各論B 精神科リハビリテーション学A、精神科リハビリテーション学B
精神保健福祉に関する制度とサービス	精神保健福祉論A、精神保健福祉論B
精神障害者の生活支援システム	精神障害者の生活支援システム
* 精神保健福祉援助演習(基礎)	精神保健福祉援助演習(基礎)
精神保健福祉援助演習(専門)	精神保健福祉援助演習(専門)A、精神保健福祉援助演習(専門)B
精神保健福祉援助実習指導	精神保健福祉援助実習指導A、精神保健福祉援助実習指導B、 精神保健福祉援助実習指導C
精神保健福祉援助実習	精神保健福祉援助実習

* 印は基礎科目

全学年共通

1. 「社会福祉士」受験資格と「精神保健福祉士」受験資格の同時取得はできない。
2. 3年次編入生（転学科生）が国家試験を受験しようとする場合、本学では、卒業までに3年（以上）を要することがあるので注意すること。特に、社会福祉学概論A・Bを修得していない者は、この点に注意する必要がある。
3. 参考1：「精神保健福祉士」受験資格の養成課程

精神保健福祉士受験資格取得のための養成課程は次頁の図のとおりである。これで分かるように、受験資格は、必ずしも法第7条第1号の社会福祉系4年制大学でなければ取れないというわけではない。例えば、本学で指定科目が全部修得できなくとも基礎科目を全部修得すれば法第7条第2号のように卒業後、6カ月の養成施設に入ってそれを卒業しても取ることができる。

参考2：「精神保健福祉士」試験科目は下記のとおりである。

現代社会と福祉
社会保障
低所得者に対する支援と生活保護制度
地域福祉の理論と方法
障害者に対する支援と障害者自立支援制度
精神疾患とその治療
精神保健の課題と支援
精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）
精神保健福祉の理論と相談援助の展開
精神保健福祉に関する制度とサービス
精神障害者の生活支援システム
心理学理論と心理的支援
社会理論と社会システム
権利擁護と成年後見制度
人体の構造と機能及び疾病
福祉行財政と福祉計画
保健医療サービス

参考3：精神保健福祉士国家試験について

受験に関する問合せ、出願は下記で受け付けている。

公益財団法人 社会福祉振興・試験センター 試験室

（ホームページ）<http://www.sssc.or.jp/>

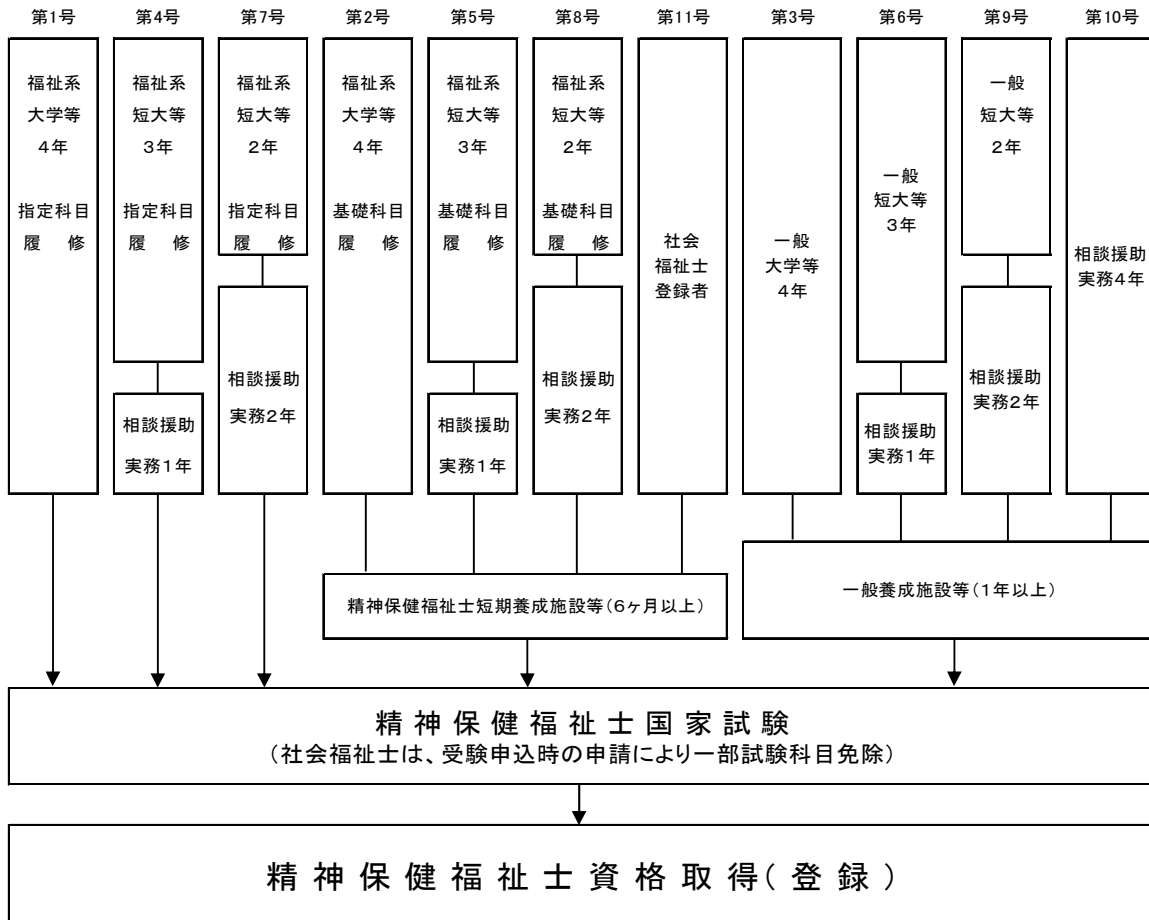
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOS（センポス）ビル

電話 03-3486-7521

4. 精神保健福祉士一般養成施設および短期養成施設等については、公益財団法人社会福祉振興・試験センターのホームページを参照のこと。 <http://www.sssc.or.jp>

精神保健福祉士資格の養成課程

法第7条



(注意)

上記の表に記載のある「短期養成施設」「一般養成施設」の入学に必要な学歴・相談援助実務等は各施設において審査・決定を行ないますので、ご希望の各施設に直接お問い合わせください。また「実習科目免除」の可否についても、ご希望の各施設にお問い合わせください。

(公益財団法人社会福祉振興・試験センターHPより抜粋)

社会学部専任教員一覧

社会学科

氏名	主な担当科目	備考
石原 俊	グローバリゼーション論	
石原 英樹	社会的相互行為論	
稲葉振一郎	社会倫理学	
岩永 真治	都市社会学	
大久保 遼	文化社会学	
加藤 秀一	性現象論	
鬼頭 美江	社会心理学	
坂口 緑	生涯学習概論	
佐藤 正晴	メディア史	
澤野 雅樹	犯罪社会学	
柘植あづみ	医療と身体の人類学	
野沢 慎司	家族社会学	
半澤 誠司	情報社会論	
藤川 賢	環境社会学	
松波 康男	エスニシティ論	
元森絵里子	教育社会学	

社会福祉学科

氏名	主な担当科目	備考
明石留美子	福祉開発概論	
茨木 尚子	社会福祉運営管理論	
大瀧 敦子	医療ソーシャルワーク論	
岡 伸一	社会保障論	
金子 充	社会福祉学概論	
北川 清一	家庭福祉論	
金 圓景	高齢者福祉論	
久保 美紀	ソーシャルワーク 1	
榎原 美樹	ソーシャルワーク 3	
新保 美香	公的扶助論	
高倉 誠一	特別支援教育学総論	
武川 正吾	社会政策論	
平澤 恵美	精神保健福祉援助技術総論	
深谷 美枝	ソーシャルワークの基礎	
三輪 清子	児童福祉論	
村上 雅昭	精神医学	
米澤 旦	社会起業論	
和氣 康太	社会福祉調査	

諸資格

1. 社会教育士・社会教育主事任用資格

社会教育士・社会教育主事任用資格が取得できる学科

社会教育士・社会教育主事任用資格は、社会学科生と教育発達学科生が取得することができます。

社会教育士

2020年4月1日に施行された「社会教育主事講習等規程の一部を改正する省令」に基づき、社会教育主事養成に係る社会教育に関する科目の単位を修得することにより、社会教育士と称することができるようになりました。

社会教育士は、環境や福祉、まちづくり等の社会の多様な分野における学習を支援する活動を通じて、人づくりや地域づくりに関する活動に積極的に携わっていくことや、NPO や大学、企業等において広く活躍することが期待されています。

社会教育主事任用資格

社会教育主事は、都道府県及び市町村の教育委員会の事務局に置かれる専門的職員で社会教育を行う者に対する専門的技術的な助言・指導に当たる役割を担います。

社会教育主事任用資格を得るには、大学に2年以上在学し、62単位以上を修得しかつ大学において文部科学省令で定める社会教育に関する科目の単位を修得し、以下の①～③に掲げる期間を通算した期間が1年以上必要となります。

- ①社会教育主事補の職にあった期間
- ②官公署・学校・社会教育施設又は社会教育関係団体における職で司書・学芸員その他の社会教育主事補の職と同等以上の職として文部科学大臣の指定するものにあった期間
- ③官公署・学校・社会教育施設又は社会教育関係団体が実施する社会教育に関係のある事業における業務であって、社会教育主事として必要な知識又は技能の習得に資するものとして文部科学大臣が指定するものに従事した期間（①又は②に掲げる期間に該当する期間を除く）

なお、社会教育主事になるためには、公務員試験に合格し、1年以上の実務経験を積んだうえで社会教育主事の発令を受けることとなりますが、社会教育主事任用資格を有していても必ずしも社会教育主事として発令されるものではありません。

本学社会学科生および教育発達学科生は、「社会教育に関する科目」を履修することができます。必要な科目を修得した方には、証明書を発行いたします。お求めになる場合は教務部までお問い合わせください。

社会学科（2020年度生）

社会教育に関する科目

社会教育主事講習等 規程に定める社会 教育に関する科目	社会学科で開講している科目名 ()内の数字はその科目の単位数		最低修得 単位数
生涯学習概論	SGLEC208 生涯学習概論A (2)	SGLEC209 生涯学習概論B (2)	必修 4単位
生涯学習支援論	PEDIP304 生涯学習支援論A (2)	PEDIP305 生涯学習支援論B (2)	必修 4単位
社会教育経営論	SGQUA301 社会教育経営論A (2)	SGQUA302 社会教育経営論B (2)	必修 4単位
社会教育特講	SGLEC219 メディア史 (2)	SGLEC218 文化社会学 (2)	選択必修 8単位
	SGLEC220 メディア社会論 (2)	SGLEC235 社会心理学 (2)	
	SGLEC251 ポストコロニアル論 (2)	SGLEC229 暴力の論理学 (2)	
	SGLEC226 社会的相互行為論 (2)	SGLEC245 情報社会論 (2)	
	SGLEC206 社会倫理学 (2)	SGLEC249 環境社会学 (2)	
	SGLEC215 都市社会学 (2)	SGLEC238 教育社会学 (2)	
	SGLEC227 性現象論 (2)	MGCHR101 キリスト教の基礎A (2)	
		MGCHR102 キリスト教の基礎B (2)	
※社会教育演習、社会教育 実習又は社会教育課題研究	SGSEM302 社会教育実習演習1 (4)	SGFIE301 社会教育調査実習 (4)	選択必修 4単位
	SGSEM402 社会教育演習2 (2)		

表は、2020年4月現在「社会教育士」「社会教育主事任用資格」取得のために必要な科目です。

(注1) 社会教育に関する科目のうち、上記の表にあるように、必修3領域より12単位、選択必修2領域より12単位、計24単位を修得する必要があります。

(注2) 社会教育演習、社会教育実習又は社会教育課題研究については、「社会教育実習演習1」(4単位)または「社会教育調査実習」(4単位)のいずれかを修得する必要があります。

2. 社会福祉主事任用資格

社会福祉主事任用資格が取得できる学科

社会福祉主事任用資格は、すべての学科の学生が取得することができます。

社会福祉主事の職務

国、地方公共団体、社会福祉法人など社会福祉事業を経営する者は、福祉サービスを必要としている人たちが心身ともに健やかに育成され、または社会、経済、文化その他の活動に参加する機会が与えられ、その年齢、環境、心身の状況に応じて、地域において必要な福祉サービスを提供できるようにしなければなりません。このことに基づき、地方公共団体は、福祉に関する事務所を設置しており、ここには社会福祉主事をおくよう社会福祉法において義務づけられています。

社会福祉主事は、その事務所において生活保護法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法、老人福祉法、身体障害者福祉法、及び知的障害者福祉法の定める援護、育成または更生の措置に関する事務を行うことを職務としています。

社会福祉主事任用資格を得るには

20歳以上の者で、人格高潔で思慮が円熟し、社会福祉の増進に熱意があり、かつ下記1～3のいずれかに該当する者が任用資格を得られます。**任用資格とは、公務員試験に合格して公務員となった者にあてはまるものであり、この要件が満たされなければ社会福祉主事にはなれません。**

1. 大学において厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目を修め卒業した者
2. 厚生労働大臣の指定する養成機関又は講習会の課程を修了した者
3. 厚生労働大臣の指定する社会福祉事業従事者試験に合格した者

本学学生は、次ページに挙げる『**社会福祉法に定める科目**』を**3科目以上修得**することで、社会福祉主事任用資格を得ることができます。『社会福祉法に定める科目』に対し、『本学で開講している科目』を表記していますので、これらの科目を修得してください。

『本学で開講している科目』について、その科目を履修することができる学科を「○」で示しています、各科目の履修に際しては条件が付される場合もあります。詳しくは所属学部履修要項でご確認ください。なお表では学科名称に略称を用いています。（LE：英文学科、LF：フランス文学科、LA：芸術学科、EE：経済学科、EB：経営学科、EG：国際経営学科、SG：社会学科、SW：社会福祉学科、JU：法律学科、JC：消費情報環境法学科、JP：政治学科、JG：グローバル法学科、KS：国際学科、KC：国際キャリア学科、PS：心理学科、PE：教育発達学科）

本資格の取得要件を満たしている方には、証明書を発行いたします。お求めになる場合は教務部までお問い合わせください。

3. 知的障害者福祉司任用資格・身体障害者福祉司任用資格

知的障害者福祉司任用資格・身体障害者福祉司任用資格が取得できる学科

知的障害者福祉司任用資格および身体障害者福祉司任用資格は、社会福祉学科生が取得することができます。

知的障害者福祉司・身体障害者福祉司の職務

知的障害者福祉法に基づき、都道府県は知的障害者更生相談所に知的障害者福祉司を置くことが義務づけられ、市町村は福祉事務所に知的障害者福祉司を置くことができます。また、身体障害者福祉法に基づき、都道府県は身体障害者更生相談所に身体障害者福祉司を置くことが義務づけられ、市町村は福祉事務所に身体障害者福祉司を置くことができます。知的障害者福祉司は知的障害者の、身体障害者福祉司は身体障害者の福祉に関する相談に応じ、また福祉事務所の所員に対して技術的指導を行うことを職務としています。行政の長は、下記の任用要件（任用資格）を充たしている者の中から、知的障害者福祉司・身体障害者福祉司を任命します。

知的障害者福祉司任用資格・身体障害者福祉司任用資格を得るには

下記1～4のいずれかに該当する者が知的障害者福祉司任用資格を得られます。

1. 学校教育法に基づく大学において厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目を修めて卒業した者
2. 社会福祉主事の資格を有し、知的障害者の福祉に関する事業に2年以上従事した経験を有する者
3. 知的障害者の福祉に関する事業に従事する職員を養成する学校その他の施設で厚生労働大臣の指定するものを卒業した者
4. その他（略）

下記1～4のいずれかに該当する者が身体障害者福祉司任用資格を得られます。

1. 学校教育法に基づく大学において厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目を修めて卒業した者
2. 社会福祉主事の資格を有し、身体障害者の福祉に関する事業に2年以上従事した経験を有する者
3. 身体障害者の福祉に関する事業に従事する職員を養成する学校その他の施設で厚生労働大臣の指定するものを卒業した者
4. その他（略）

本学社会福祉学科生は、卒業することで、知的障害者福祉司任用資格および身体障害者福祉司任用資格を満たすことになります。その証明は卒業証明書で行うことができます。

<参考>

知的障害者福祉司・身体障害者福祉司の両資格は、ともに法律上は地方自治体における社会福祉局の任用資格です。しかし実際には自治体により、その職名、任用基準は多様です。「社会福祉主事」資格と同様に、資格取得が法律に規定する部署の職務に就く場合に有利に働く訳ではなく、まずは地方公務員試験に合格し、その上で当該部署に配属されて初めて意味を持つ資格であることに注意してください。

4. 児童福祉司任用資格

児童福祉司の職務

児童福祉法に基づき、児童相談所には児童福祉司をおくことが義務づけられています。

児童福祉司は、児童相談所長の命を受けて、児童の保護、その他児童の福祉に関する事項について、相談に応じ、専門的技術に基づいて必要な指導を行う等、児童の福祉の増進に努めることを職務としています。

児童福祉司に任用される要件

1. 学校教育法に基づく大学において心理学、教育学もしくは社会学を専修する学科又はこれに相当する課程を修め卒業した者であって、厚生労働省令で定める施設において1年以上児童その他の福祉に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行う業務に従事した者
2. 社会福祉主事として2年以上、児童福祉事業に従事した者
3. 厚生労働大臣の指定する児童福祉司又は児童福祉施設の職員を養成する学校その他の施設を卒業し又は厚生労働大臣の指定する講習会の課程を修了した者
4. その他（略）

上記のいずれかに該当する者はこの任用資格が得られます。**任用資格とは、公務員試験に合格して公務員となった者にあてはまるものであり、この要件が満たされなければ児童福祉司にはなれません。**

本学社会科学科生・社会福祉学科生・心理学科生・教育発達学科生は、卒業することで、上記1に定める「心理学、教育学もしくは社会学を専修する学科又はこれに相当する課程を修め卒業した者」であることとなります。その証明は卒業証明書で行うことができます。

児童福祉司任用資格の取得には、これに加えて「厚生労働省令で定める施設において1年以上児童その他の福祉に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行う業務に従事」する必要があります。